

平成22年度

「都市計画マスタープラン」及び「緑の基本計画」
の策定に向けた市民アンケート調査
結果報告書

平成23年3月

光 市

- 目 次 -

アンケート調査の概要

1	調査目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査方法.....	1
4	調査期間.....	1
5	配布回収状況.....	1
6	調査項目.....	1
7	地域別の集計.....	2

アンケート調査の結果

1	回答者自身について.....	3
2	これまでのまちづくりの評価と今後への期待.....	5
3	光市の将来について.....	35
4	土地利用について.....	41
5	分野別の取組について.....	56
6	今後の「緑」のまちづくりについて.....	83
7	まちづくりや都市計画に関する提案について.....	92

(参考) アンケート調査票

【調査票】.....	97
------------	----

アンケート調査の概要

1 調査目的

将来のまちづくりの基本的な方針を定める「都市計画マスタープラン」と緑豊かな快適で個性的な都市づくりを進めるための「緑の基本計画」の策定にあたって、市民の意向を的確に反映し、よりよいまちづくりを導く基本計画となるよう、まちの課題を整理し、市民がどのようなまちづくりを望んでいるのかを把握するために行いました。

2 調査対象

光市住民基本台帳に記載されている満 16 歳以上の人から無作為に抽出した 2,000 人
(基準日：平成 22 年 9 月 20 日)

3 調査方法

郵送による配布・回収(無記名回答方式)

4 調査期間

平成 22 年 10 月 18 日～平成 22 年 10 月 31 日

5 配布回収状況

配布数	有効配布数	回収数	回収率 /
2,000 票	1,990 票	980 票	49.2%

小数第 2 位を四捨五入

6 調査項目

- (1) 回答者自身について
- (2) これまでのまちづくりの評価と今後への期待
- (3) 光市の将来について
- (4) 土地利用について
- (5) 分野別の取組について
- (6) 今後の「緑」のまちづくりについて
- (7) まちづくりや都市計画に関する提案について

7 地域別の集計

本アンケート調査の集計にあたっては、全体集計と地域別集計を行い、地域ごとのまちづくりに関する意向等を把握しました。

なお、地域の設定については、新市建設計画で設定された次の4つの地域としました。



地域	地区
東部地域	塩田、三輪、岩田・岩田立野、束荷
西部地域	浅江、島田・中島田
南部地域	牛島、室積、光井
北部地域	上島田、三井、立野・小周防

本集計結果については、端数処理の関係で各項目の割合等は必ずしも合計欄等の数値とは一致していません。

アンケート調査の結果

1 回答者自身について

性別の回答は、「男性」が40.6%、「女性」が55.6%となっています。

年齢別の回答は、「60代」が27.6%と最も多く、次いで「70代以上(24.9%)」、「50代(15.1%)」となっています。

地区別の回答は、「浅江」が26.1%と最も多く、次いで「室積(その他)(15.7%)」、「光井(14.6%)」となっています。

回答者の家族構成は、「夫婦のみ」が33.1%と最も多く、次いで「2世代家族(子どもと)(32.0%)」、「2世代家族(親と)(14.3%)」となっています。

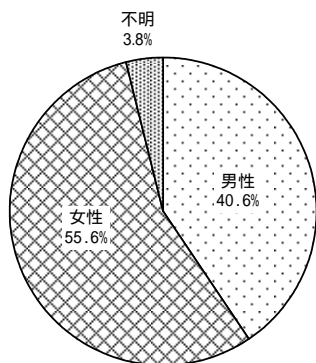
回答者の住まいの種類は、「持家(一戸建て)」が82.3%と、回答者の大半が持家であることがわかります。

日常的な買物の行き先は、「光市内」が86.3%と最も多く、次いで「下松市」が45.7%、「近所の店(同じ地区内)」が43.6%となっており、市内及び地域内でも買物需要が高いことがわかります。

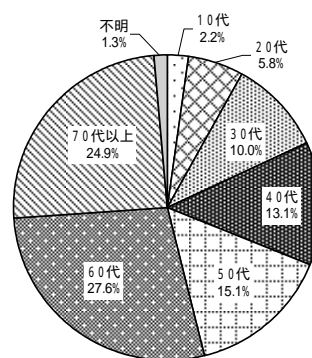
居住年数は、「20年以上」が62.9%と、光市での長期居住者の回答が多くなっています。

住み替える場所としては、「現在の居住地」が最も37.9%と最も多く、次いで「公共施設や病院、店舗などが集まる市街地」が27.9%と、都市機能が整った生活利便性の高い地域への住み替えニーズが高いことがうかがえます。

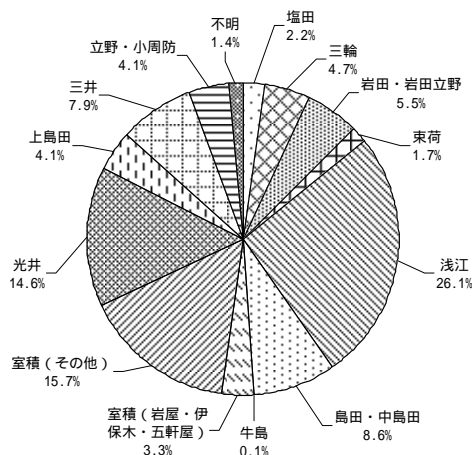
1) 性別



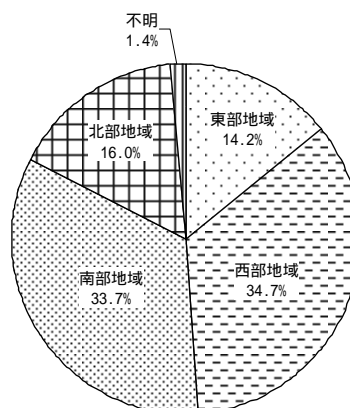
2) 年齢



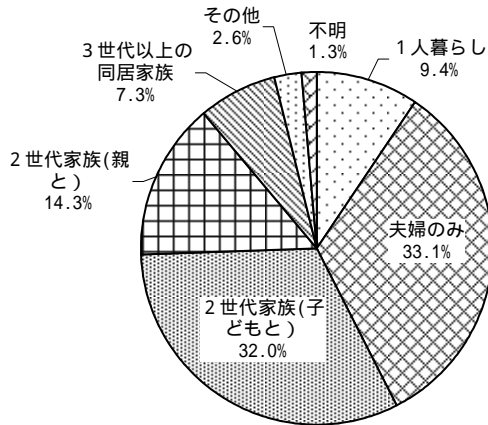
3 - 1) 地区



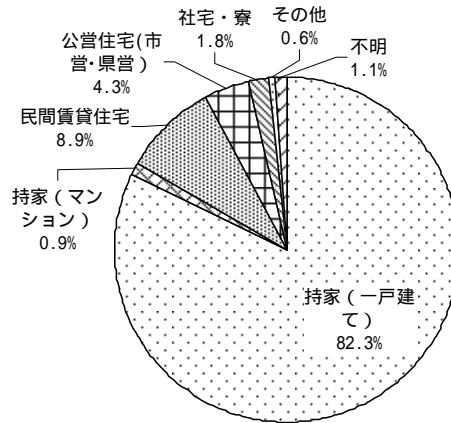
3 - 2) 地域



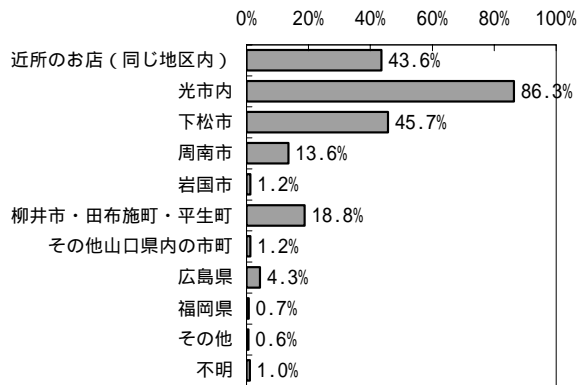
4) 家族構成



5) 住まいの種類



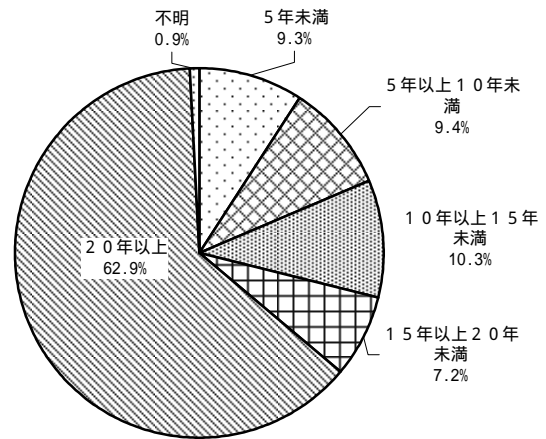
6) 日常的な買物の行き先



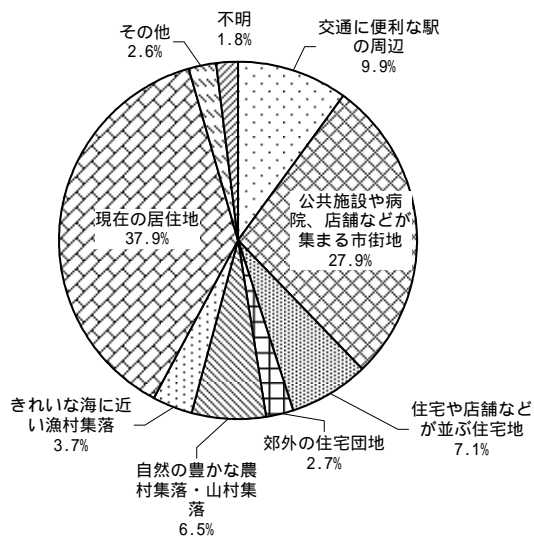
その他の意見

- ・通販を利用する
- ・買物には行かない など

7) 居住年数



8) 住み替える場所



その他の意見

- ・地方都市の駅周辺で公共施設、病院、店舗が集まるまち
- ・税金が安い市・その市独自の市民サービスがある市
- ・交通が便利で、近くに病院や店舗があるところ
- ・都心のマンション
- ・北海道の牧場
- ・きれいな海の見える高台
- ・美術館・映画館等文化的に豊かな都会 など

2 これまでのまちづくりの評価と今後への期待

9 - 1) 満足度の状況

【満足側の状況】

「海岸や眺望などの風景の美しさ(61.0%)」、「上水道や給水施設の整備(55.1%)」、「ごみのリサイクル化などの取組(52.9%)」、「下水道や浄化槽の整備(49.5%)」などで「満足」、「やや満足」と考える人が多くなっており、自然環境やごみ対策、都市基盤に関する項目で満足度が高い状況となっています。

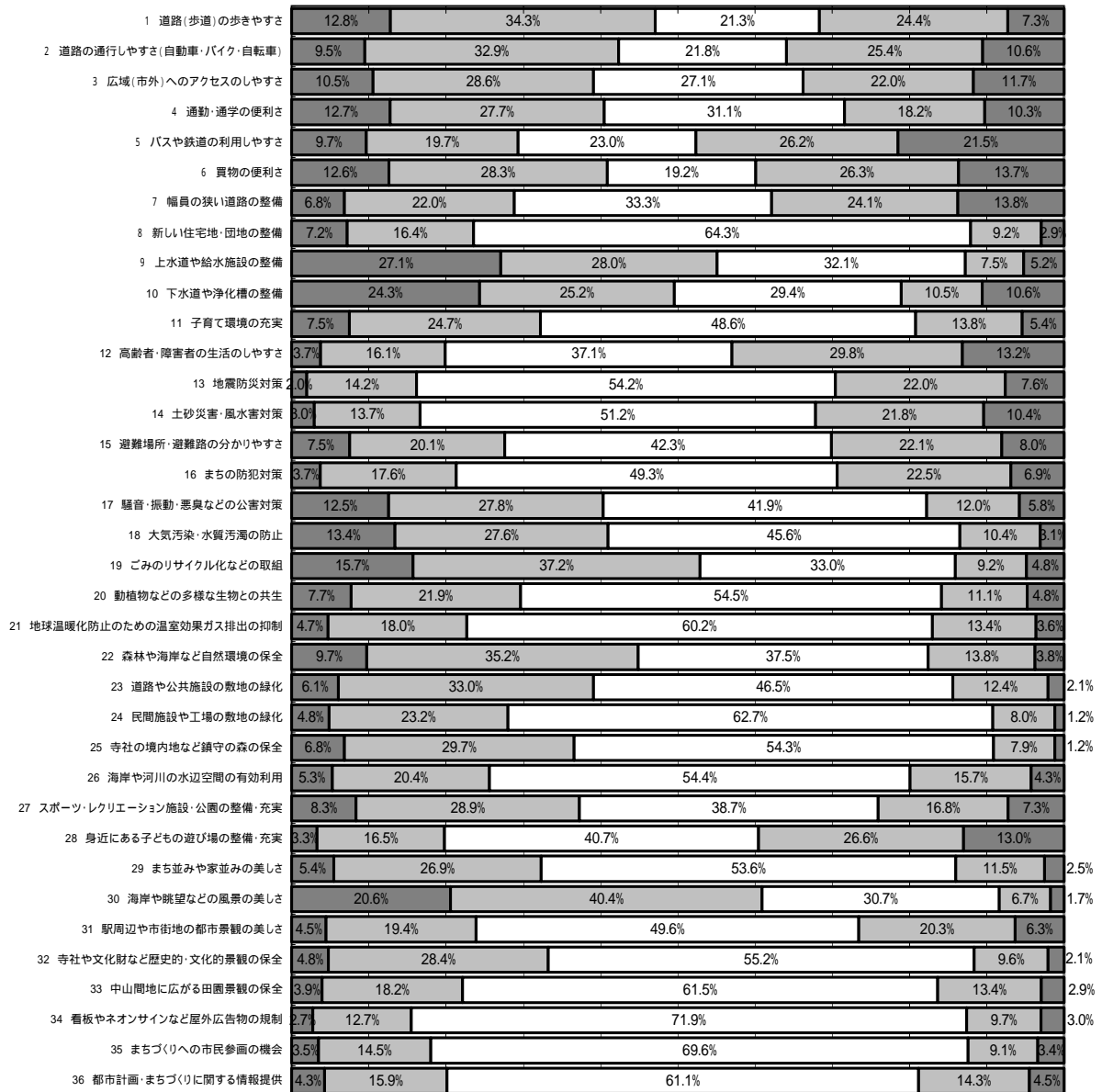
地域別にみると、東部地域では他の地域と比較して、「上水道や給水施設の整備」、「下水道や浄化槽の整備」の満足度が低くなっています。南部地域と西部地域では「海岸や眺望などの風景の美しさ」の満足度が特に高く、西部地域では「買物の便利さ」の満足度が高くなっています。地域の特性や状況に応じた地域づくり、都市整備が必要です。

【不満側の状況】

「バスや鉄道の利用しやすさ(47.7%)」、「高齢者・障害者の生活のしやすさ(43.0%)」、「買物の便利さ(40.0%)」、「身近にある子どもの遊び場の整備・充実(39.6%)」などで「不満」、「やや不満」と考える人が多くなっており、交通、生活の利便性や高齢者、子どもなどの暮らしやすさに関する項目で不満が多い状況となっています。

地域別にみると、全ての地域で「バスや鉄道の利用しやすさ」、「高齢者・障害者の生活のしやすさ」で「不満」、「やや不満」と考える人が多く、生活の利便性に対する不満が多くなっています。また、東部地域、南部地域、北部地域においては、「買物の便利さ」で不満が多い状況です。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■満足 □やや満足 □どちらでもない □やや不満 ■不満

図 満足度の状況【全体】

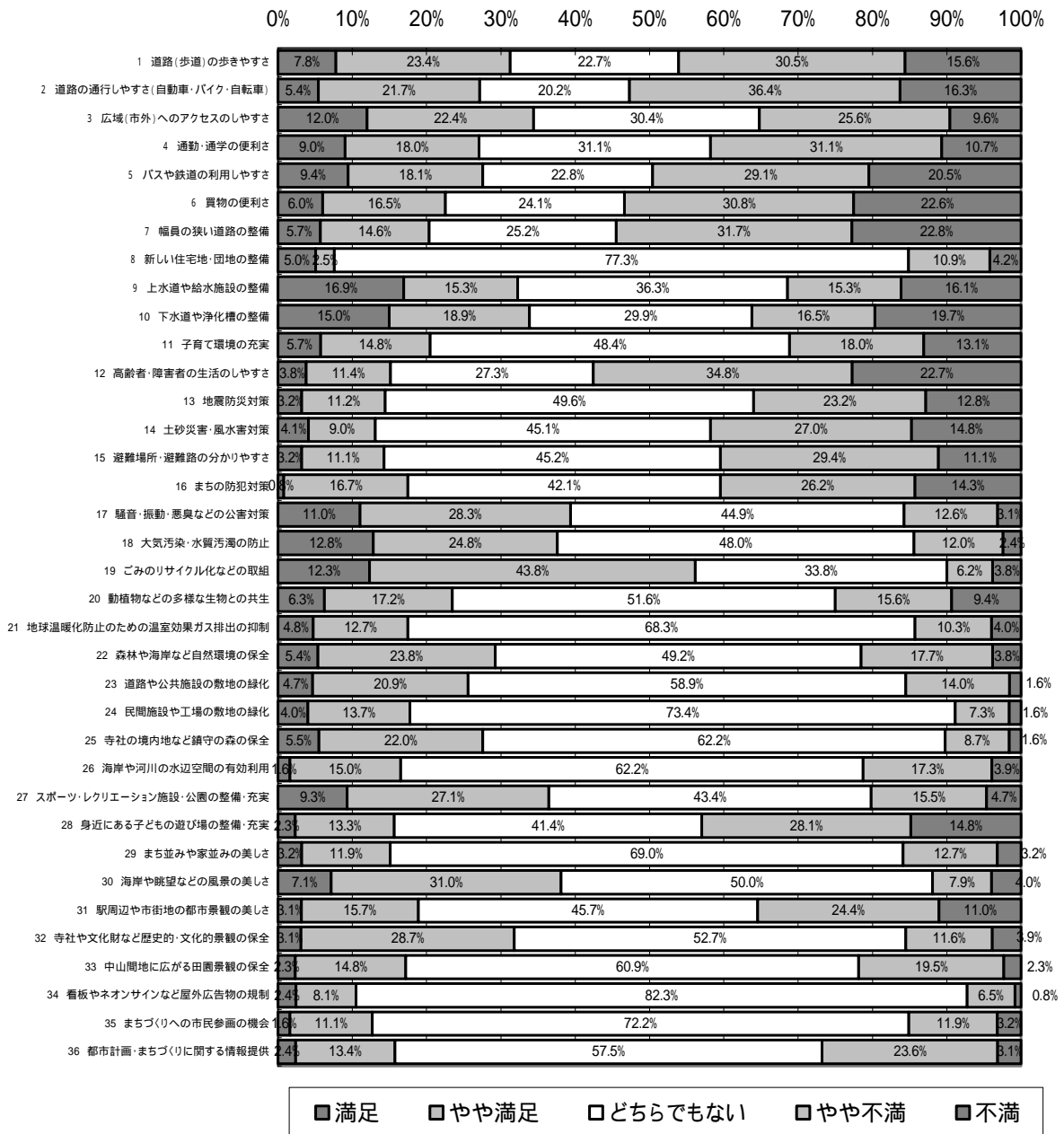


図 満足度の状況【東部地域】

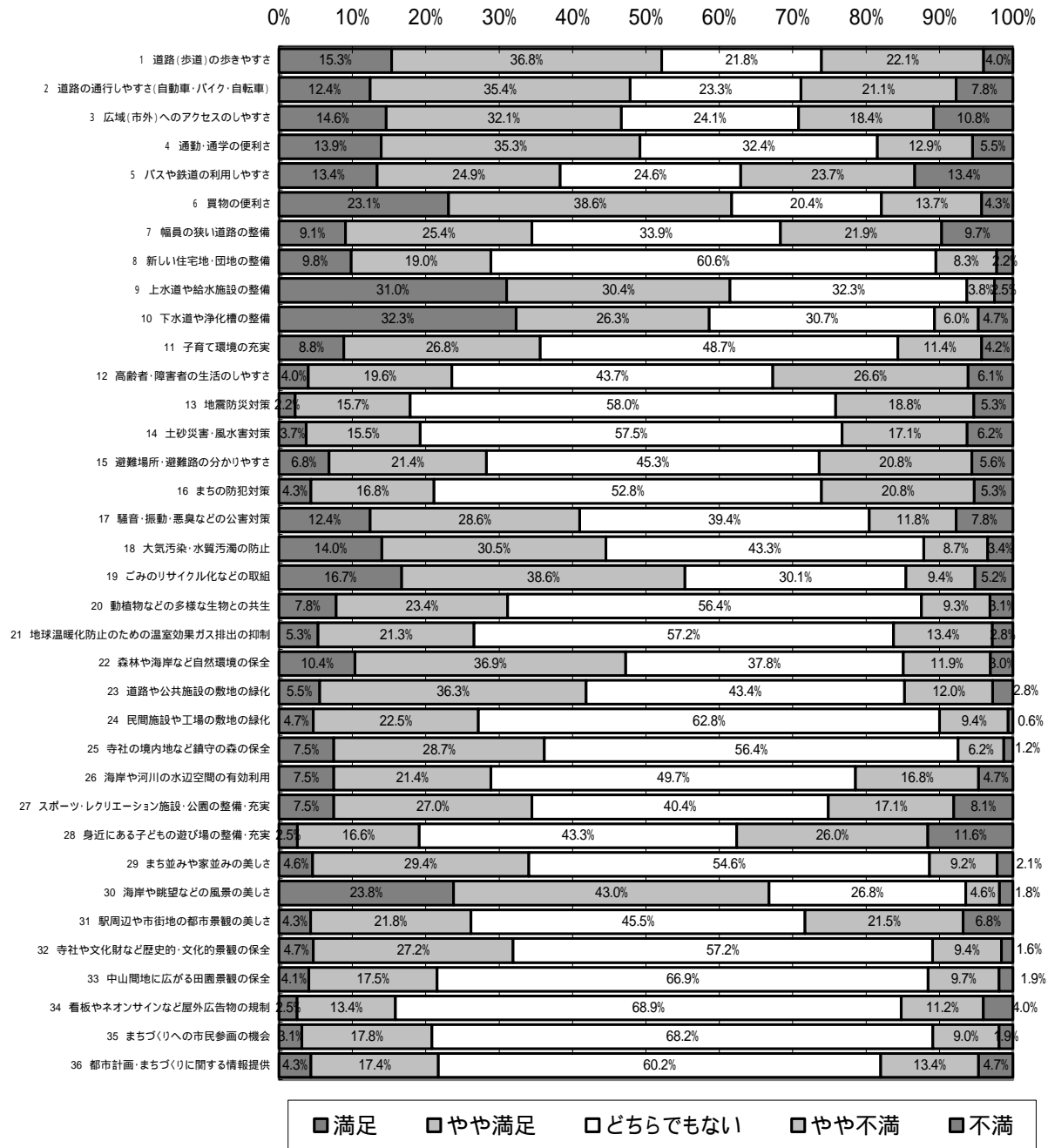


図 満足度の状況【西部地域】

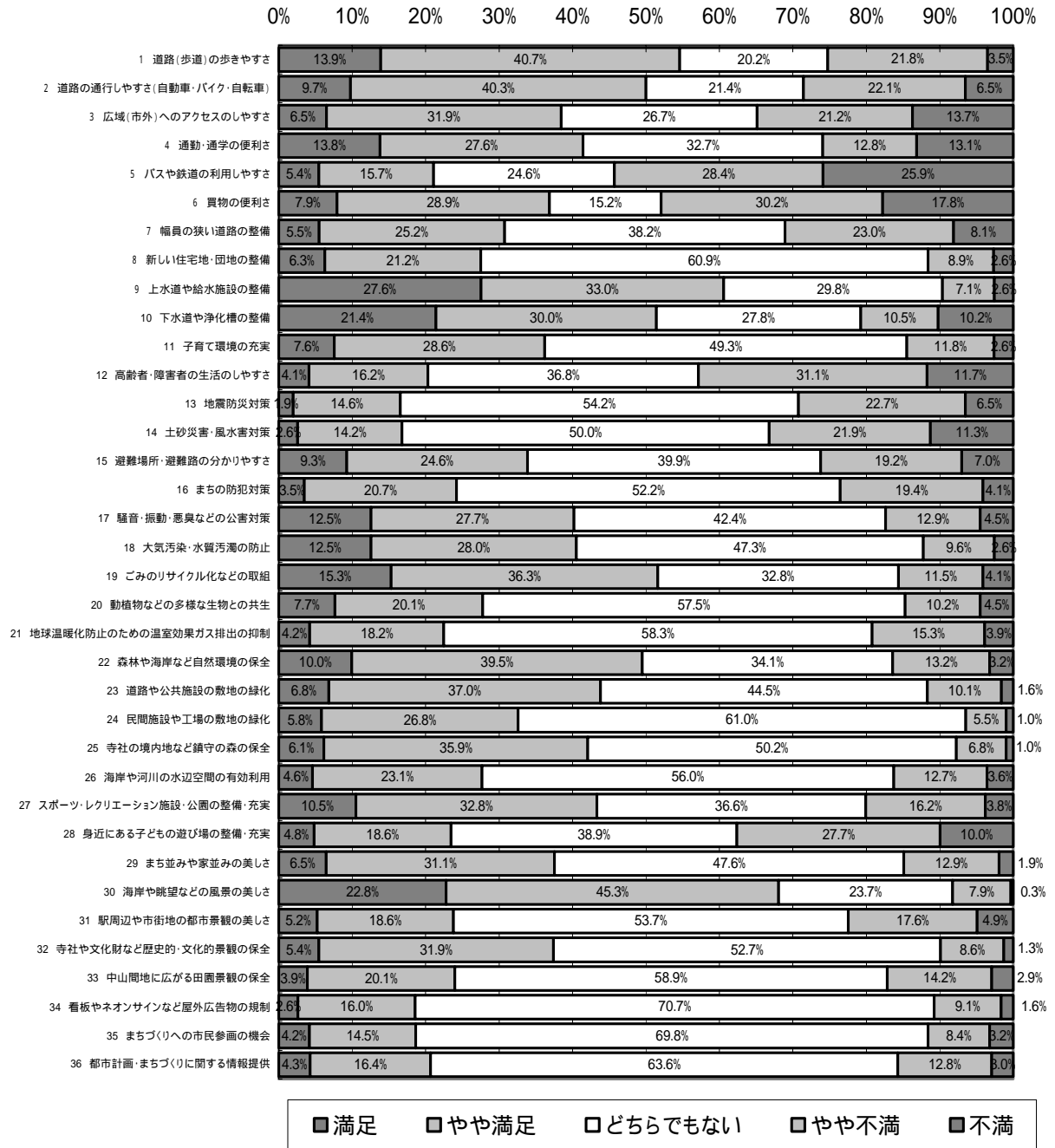


図 満足度の状況【南部地域】

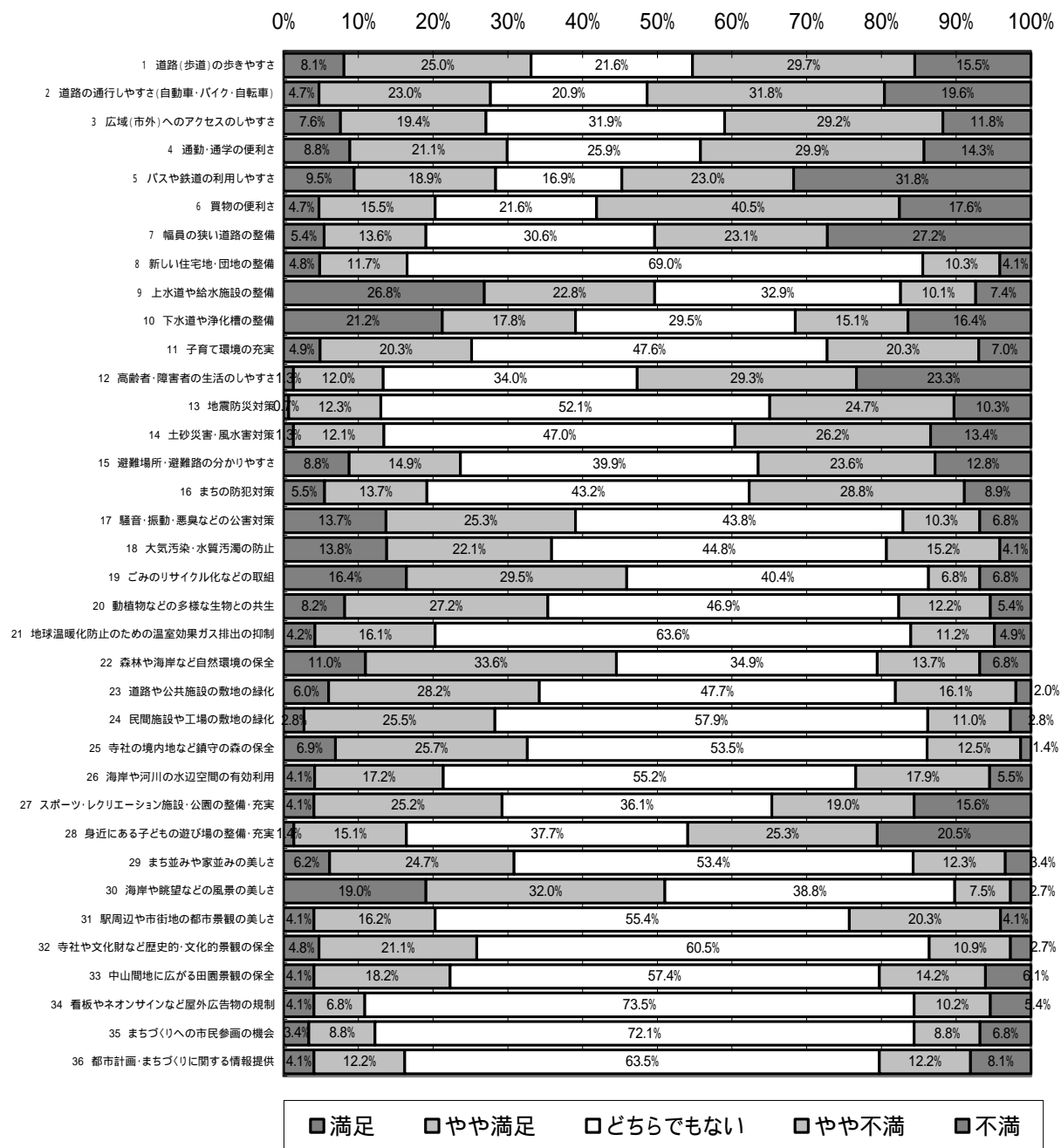


図 満足度の状況【北部地域】

9 - 2) 重要度の状況

重要度（重要、やや重要の合計）に関しては、全ての分野で重要度が高くなっています。特に、「高齢者・障害者の生活のしやすさ（84.3%）」、「買物の便利さ（82.9%）」、「道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）（82.7%）」、「道路（歩道）の歩きやすさ（80.4%）」などで、不満が多い交通・生活利便性や高齢者や子どもなどの暮らしやすさに関する項目で重要度が高い状況となっています。「新しい住宅地・団地の整備（35.1%）」については、他の項目と比較して重要度が低くなっています。

地域別にみると、「高齢者・障害者の生活のしやすさ」や「道路の通行のしやすさ」については全ての地域で重要度が高くなっています。その他に、東部地域では「土砂災害・風水害対策」、西部地域では「まちの防犯対策」、南部地域では「買物の便利さ」、北部地域では「道路の歩きやすさ」の重要度が高く、地域の状況に応じた対応が求められます。

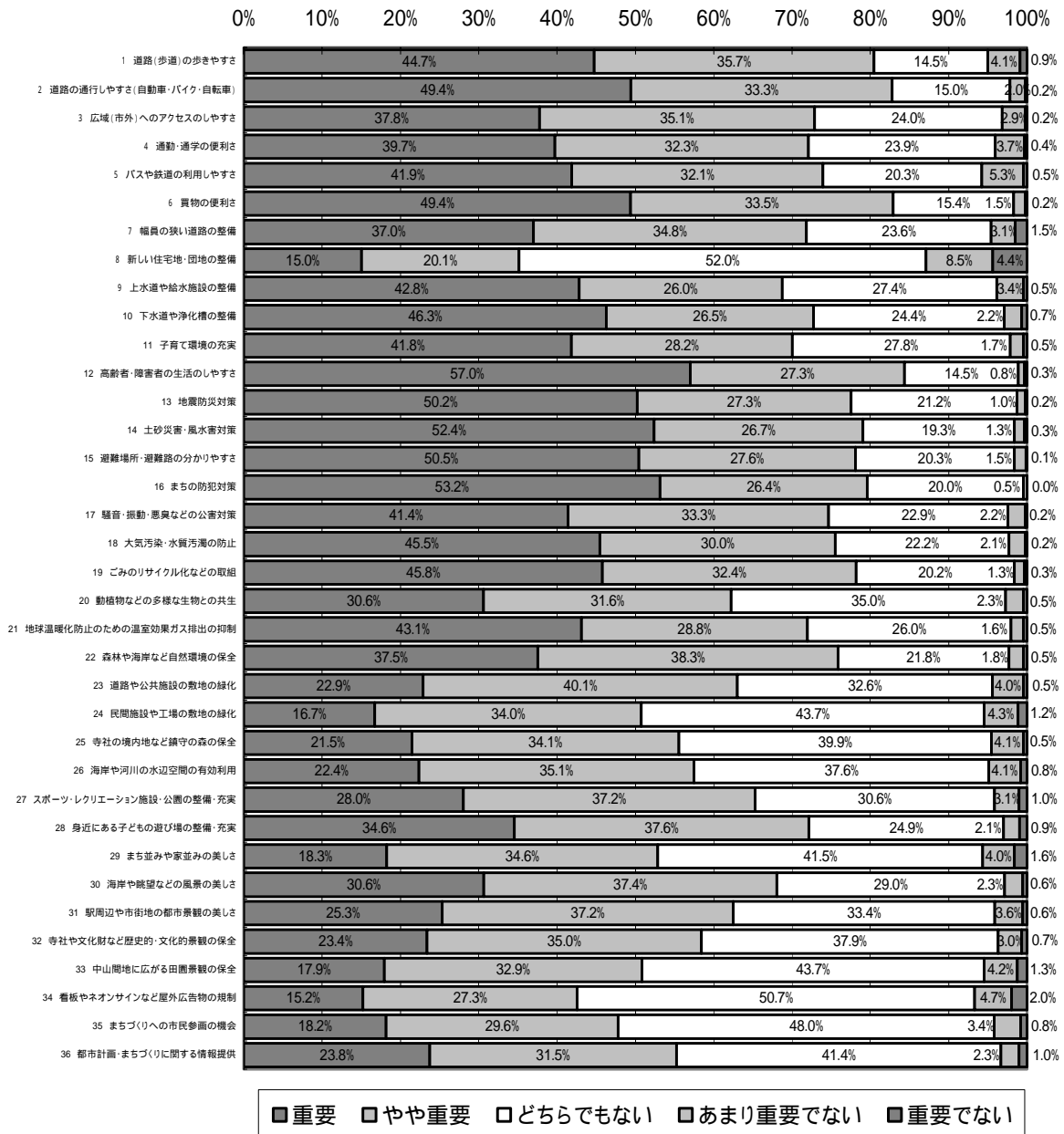


図 重要度の状況【全体】

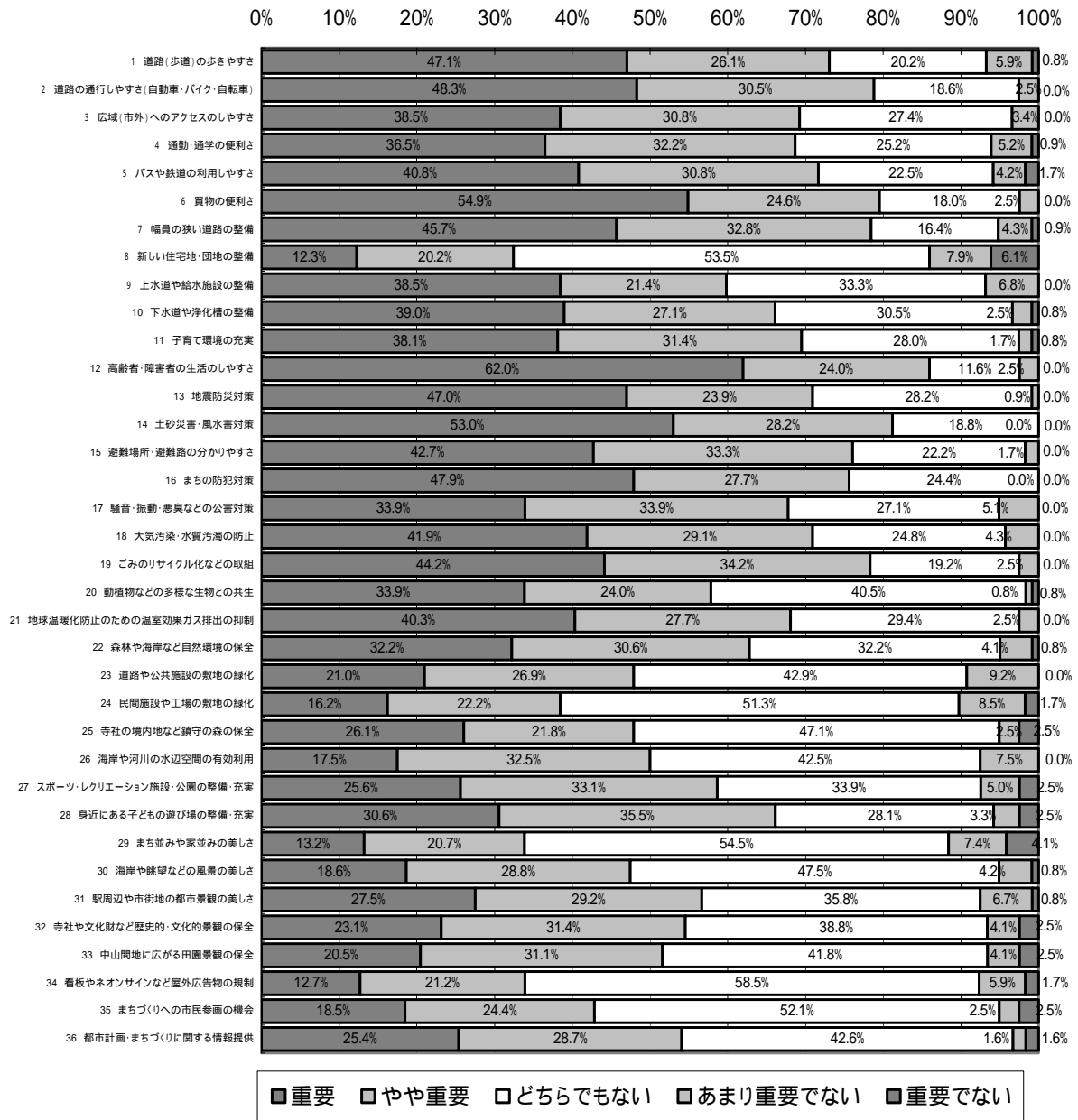
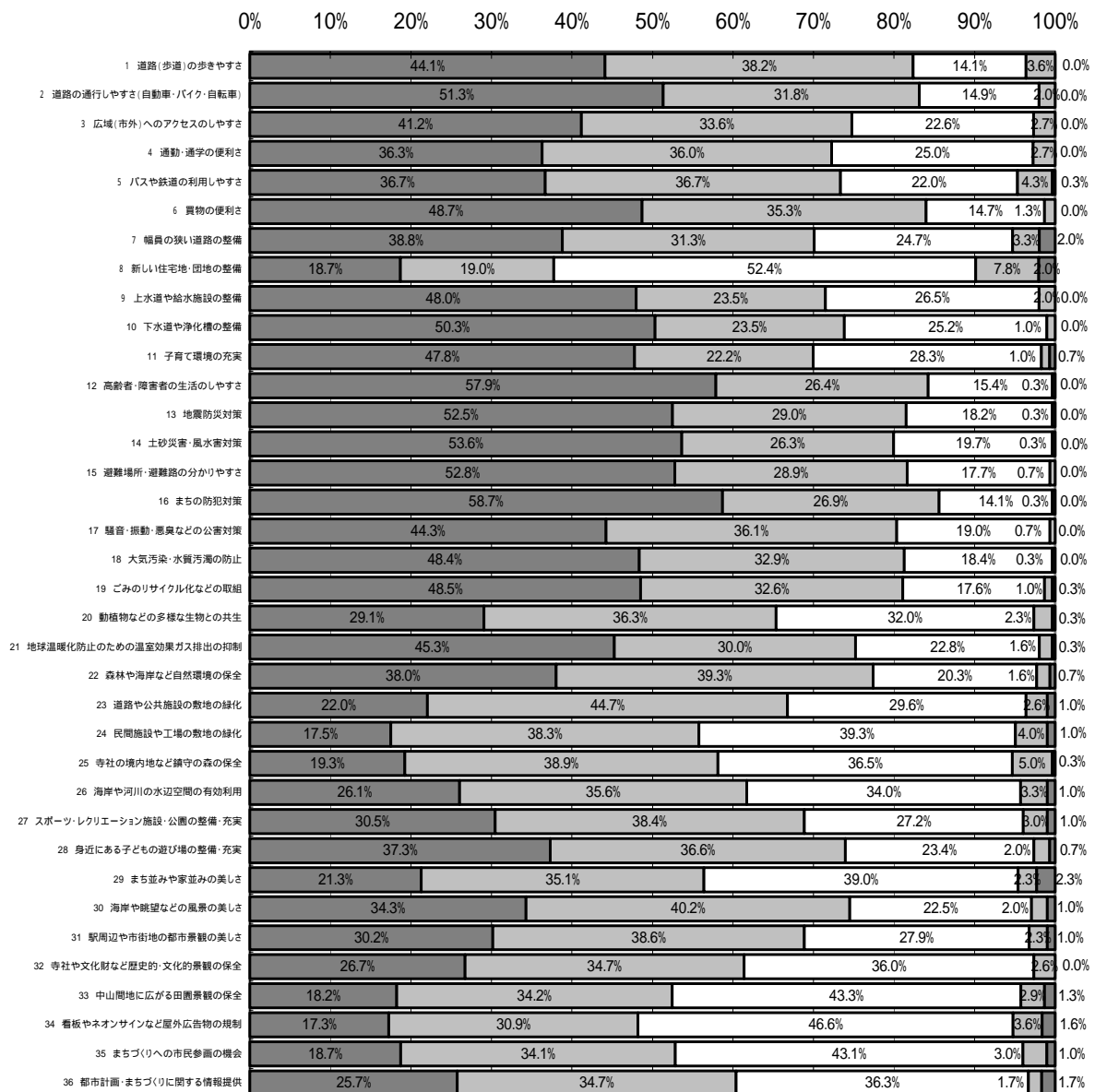


図 重要度の状況【東部地域】



重要
 やや重要
 どちらでもない
 あまり重要でない
 重要でない

図 重要度の状況【西部地域】

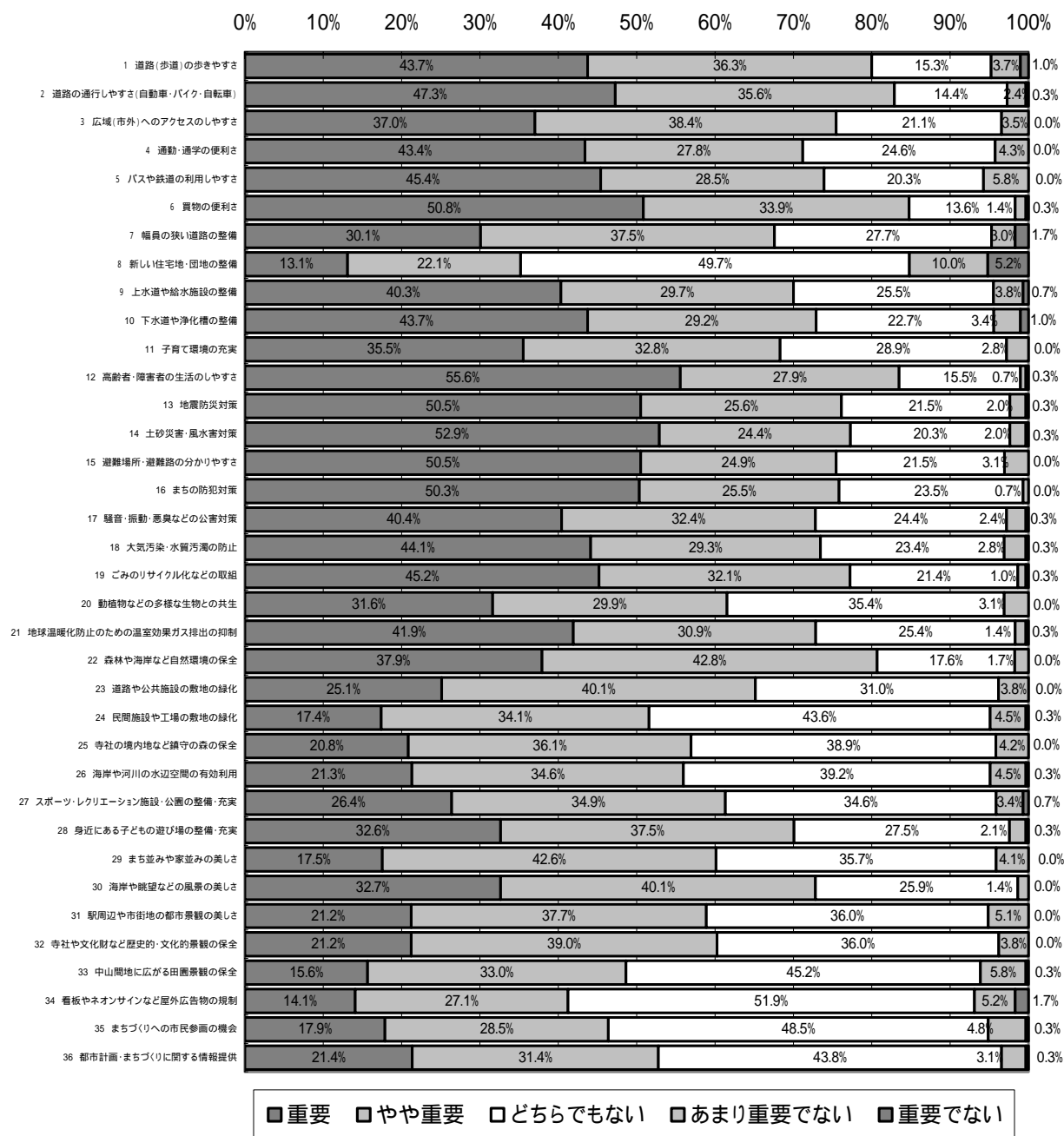


図 重要度の状況【南部地域】

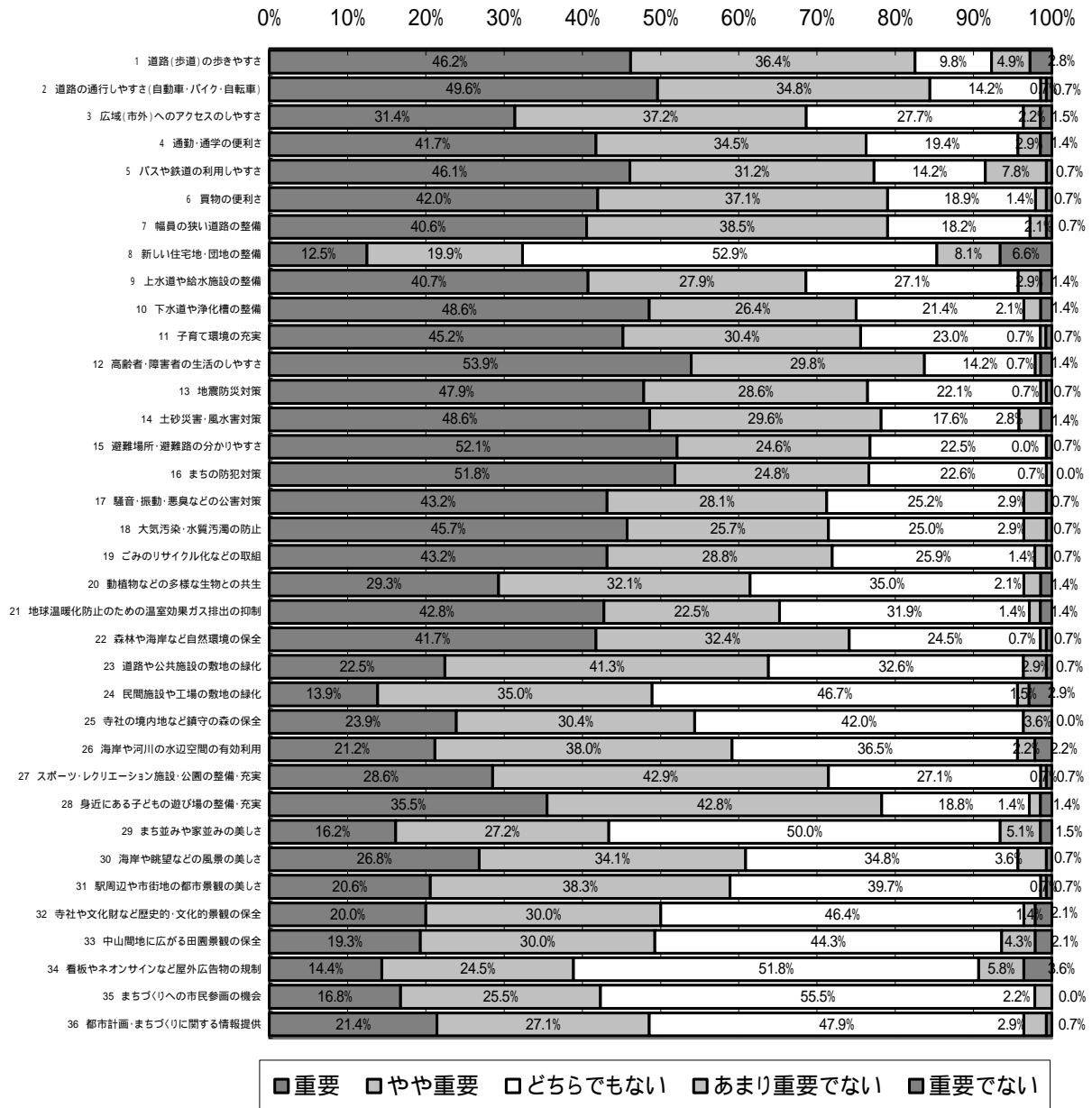


図 重要度の状況【北部地域】

9 - 3) 満足度と重要度の相関図による分析

< 分析の方法 >

満足度と重要度の分析を行うために、加重平均値による分析を行います。

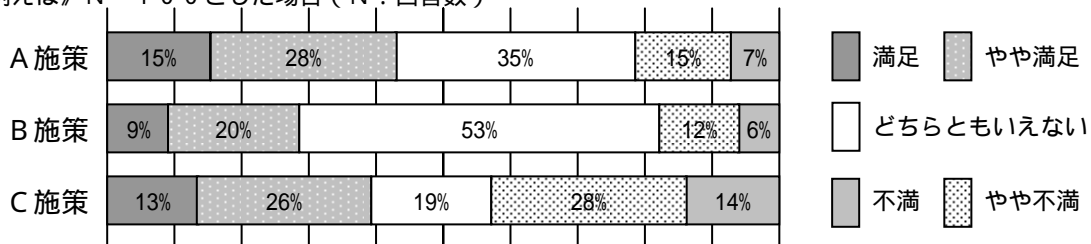
加重平均値とは、満足度や重要度を相対的にどのように判断しているかを比較しやすくするため数値化するもので、以下のように算出します。

【満足度（重要度も同じ）】

選択肢	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
点数	+2	+1	0	-1	-2
回答数	A	B	C	D	E

$$\text{加重平均値} = ((A \times 2) + (B \times 1) + (C \times 0) + (D \times -1) + (E \times -2)) / \text{回答数}$$

《例えば》N = 100とした場合（N：回答数）



・ A 施策の加重平均値

$$((15 \times 2 \text{点}) + (28 \times 1 \text{点}) + (35 \times 0 \text{点}) + (15 \times -1 \text{点}) + (7 \times -2 \text{点})) \div (15 + 28 + 35 + 15 + 7) = (30 + 28 - 15 - 14) \div 100 = 0.29$$

・ B 施策の加重平均値

$$((9 \times 2 \text{点}) + (20 \times 1 \text{点}) + (53 \times 0 \text{点}) + (12 \times -1 \text{点}) + (6 \times -2 \text{点})) \div (9 + 20 + 53 + 12 + 6) = (18 + 20 - 12 - 12) \div 100 = 0.14$$

・ C 施策の加重平均値

$$((13 \times 2 \text{点}) + (26 \times 1 \text{点}) + (19 \times 0 \text{点}) + (28 \times -1 \text{点}) + (14 \times -2 \text{点})) \div (13 + 26 + 19 + 28 + 14) = (26 + 26 - 28 - 28) \div 100 = -0.04$$

結果

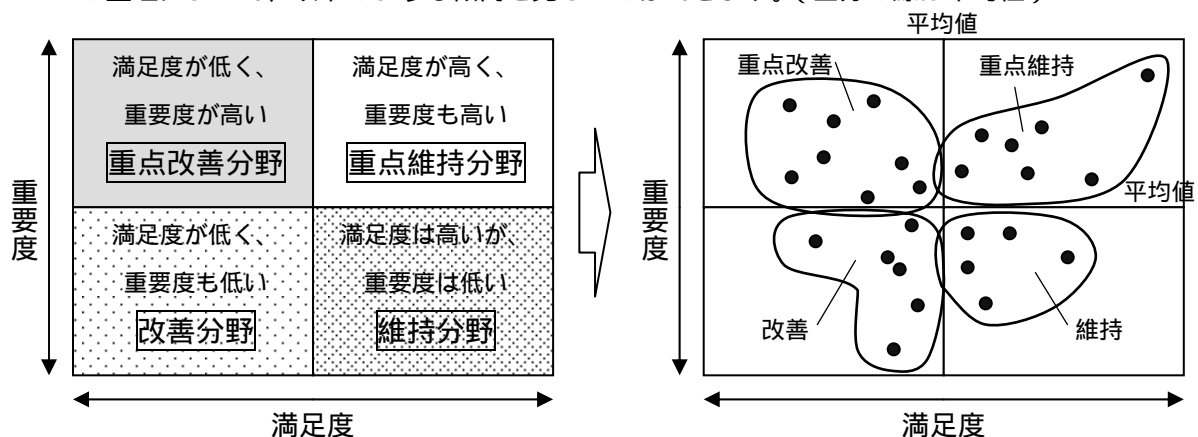
A 施策の満足指数は 0.29、B 施策の満足指数は 0.14、C 施策の満足指数は -0.04 となり、数値の大きいほうが満足していることとなります。

つまり、B 施策の方が満足している方が 29% と C 施策より少なかったものの、C 施策のほうが不満と回答した人の数が多い（B 施策に対する不満が少ない）ことから、満足の度合いとしては、C 施策より、B 施策のほうが満足の度合いが高いといえます。

重要度も同様です。

このように、満足度と重要度の相関図（グラフ）は、満足度と重要度について、加重平均値を算出し、縦軸を重要度、横軸を満足度とした、分布図で表現したものです。

この整理によって、以下のような傾向を見ることができます。（区分の線は平均値）



全体の満足度と重要度の相関図をみると、交通や生活の利便性、防災・防犯に関する項目が重点改善領域としてあげられます。また、上下水道などのライフラインや環境・公害に関する項目が重点維持領域としてあげられます。

表 満足度・重要度一覧表【全体】

項 目	満足度	重要度
1 道路（歩道）の歩きやすさ	0.21	1.19
2 道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）	0.05	1.30
3 広域（市外）へのアクセスのしやすさ	0.04	1.07
4 通勤・通学の便利さ	0.15	1.07
5 バスや鉄道の利用しやすさ	-0.30	1.10
6 買物の便利さ	0.00	1.30
7 幅員の狭い道路の整備	-0.16	1.03
8 新しい住宅地・団地の整備	0.16	0.33
9 上水道や給水施設の整備	0.64	1.07
10 下水道や浄化槽の整備	0.42	1.15
11 子育て環境の充実	0.15	1.09
12 高齢者・障害者の生活のしやすさ	-0.33	1.40
13 地震防災対策	-0.19	1.26
14 土砂災害・風水害対策	-0.23	1.29
15 避難場所・避難路の分かりやすさ	-0.03	1.27
16 まちの防犯対策	-0.11	1.32
17 騒音・振動・悪臭などの公害対策	0.29	1.13
18 大気汚染・水質汚濁の防止	0.38	1.18
19 ごみのリサイクル化などの取組	0.50	1.22
20 動植物などの多様な生物との共生	0.17	0.90
21 地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の抑制	0.07	1.13
22 森林や海岸など自然環境の保全	0.33	1.11
23 道路や公共施設の敷地の緑化	0.29	0.81
24 民間施設や工場の敷地の緑化	0.22	0.61
25 寺社の境内地など鎮守の森の保全	0.33	0.72
26 海岸や河川の水辺空間の有効利用	0.07	0.74
27 スポーツ・レクリエーション施設・公園の整備・充実	0.14	0.88
28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実	-0.30	1.03
29 まち並みや家並みの美しさ	0.21	0.64
30 海岸や眺望などの風景の美しさ	0.71	0.95
31 駅周辺や市街地の都市景観の美しさ	-0.05	0.83
32 寺社や文化財など歴史的・文化的景観の保全	0.24	0.77
33 中山間地に広がる田園景観の保全	0.07	0.62
34 看板やネオンサインなど屋外広告物の規制	0.03	0.49
35 まちづくりへの市民参画の機会	0.06	0.61
36 都市計画・まちづくりに関する情報提供	0.01	0.75

満足度平均値：0.12 重要度平均値：0.98

- 【重点改善領域】**
- 5 バスや鉄道の利用しやすさ
 - 12 高齢者・障害者の生活のしやすさ
 - 13 地震防災対策
 - 14 土砂災害・風水害対策
 - 16 まちの防犯対策
 - 28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実

- 【重点維持領域】**
- 9 上水道や給水施設の整備
 - 10 下水道や浄化槽の整備
 - 17 騒音・振動・悪臭などの公害対策
 - 18 大気汚染・水質汚濁の防止
 - 19 ごみのリサイクル化などの取組
 - 22 森林や海岸など自然環境の保全

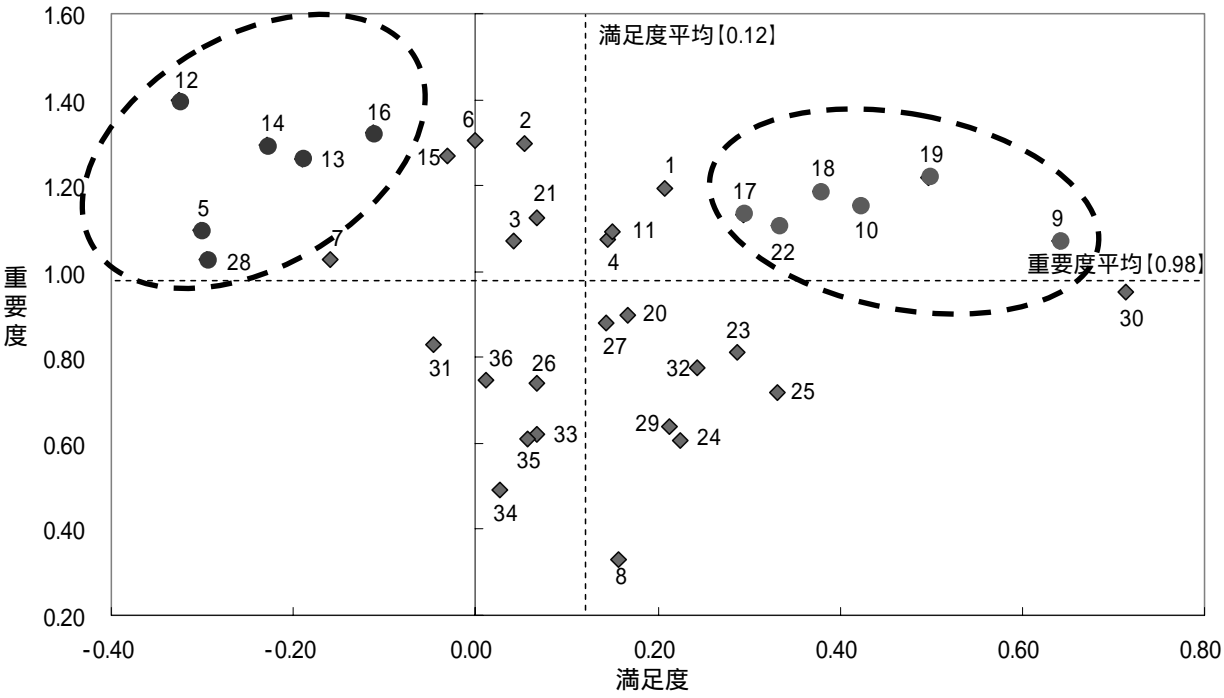


図 満足度と重要度の相関図【全体】

東部地域の満足度と重要度の相関図をみると、交通や買物、生活の利便性に関する項目が重点改善領域に多く含まれています。また、環境・公害に関する項目が重点維持領域としてあげられます。

表 満足度・重要度一覧表【東部地域】

設 問	満足度	重要度
1 道路（歩道）の歩きやすさ	-0.23	1.13
2 道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）	-0.36	1.25
3 広域（市外）へのアクセスのしやすさ	0.02	1.04
4 通勤・通学の便利さ	-0.16	0.98
5 バスや鉄道の利用しやすさ	-0.33	1.05
6 買物の便利さ	-0.47	1.32
7 幅員の狭い道路の整備	-0.51	1.18
8 新しい住宅地・団地の整備	-0.07	0.25
9 上水道や給水施設の整備	0.02	0.91
10 下水道や浄化槽の整備	-0.07	1.01
11 子育て環境の充実	-0.18	1.04
12 高齢者・障害者の生活のしやすさ	-0.61	1.45
13 地震防災対策	-0.31	1.17
14 土砂災害・風水害対策	-0.39	1.34
15 避難場所・避難路の分かりやすさ	-0.34	1.17
16 まちの防犯対策	-0.37	1.24
17 騒音・振動・悪臭などの公害対策	0.31	0.97
18 大気汚染・水質汚濁の防止	0.34	1.09
19 ごみのリサイクル化などの取組	0.55	1.20
20 動植物などの多様な生物との共生	-0.05	0.89
21 地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の抑制	0.04	1.06
22 森林や海岸など自然環境の保全	0.09	0.89
23 道路や公共施設の敷地の緑化	0.13	0.60
24 民間施設や工場の敷地の緑化	0.11	0.43
25 寺社の境内地など鎮守の森の保全	0.21	0.66
26 海岸や河川の水辺空間の有効利用	-0.07	0.60
27 スポーツ・レクリエーション施設・公園の整備・充実	0.21	0.74
28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実	-0.40	0.88
29 まち並みや家並みの美しさ	-0.01	0.31
30 海岸や眺望などの風景の美しさ	0.29	0.60
31 駅周辺や市街地の都市景観の美しさ	-0.24	0.76
32 寺社や文化財など歴史的・文化的景観の保全	0.16	0.69
33 中山間地に広がる田園景観の保全	-0.05	0.63
34 看板やネオンサインなど屋外広告物の規制	0.05	0.37
35 まちづくりへの市民参画の機会	-0.04	0.54
36 都市計画・まちづくりに関する情報提供	-0.12	0.75

満足度平均値： - 0.08 重要度平均値： 0.89

- 【重点改善領域】**
- 2 道路の通行しやすさ(自動車・バイク・自転車)
 - 6 買物の便利さ
 - 7 幅員の狭い道路の整備
 - 12 高齢者・障害者の生活のしやすさ
 - 14 土砂災害・風水害対策
 - 16 まちの防犯対策

- 【重点維持領域】**
- 17 騒音・振動・悪臭などの公害対策
 - 18 大気汚染・水質汚濁の防止
 - 19 ごみのリサイクル化などの取組

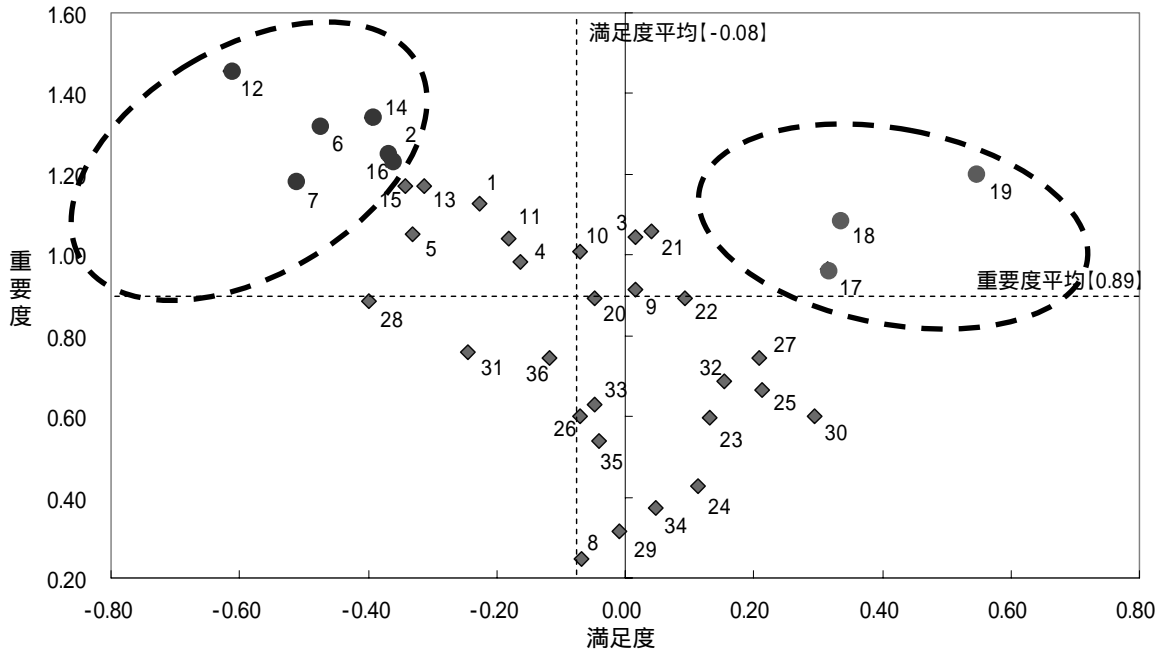


図 満足度と重要度の相関図【東部地域】

西部地域の満足度と重要度の相関図をみると、高齢者等の生活のしやすさや、防災・防犯に関する項目が重点改善領域としてあげられます。また、上下水道などのライフラインや環境・公害、買物の利便性に関する項目が重点維持領域としてあげられます。

表 満足度・重要度一覧表【西部地域】

設 問	満足度	重要度
1 道路（歩道）の歩きやすさ	0.37	1.23
2 道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）	0.24	1.32
3 広域（市外）へのアクセスのしやすさ	0.21	1.13
4 通勤・通学の便利さ	0.39	1.06
5 バスや鉄道の利用しやすさ	0.01	1.05
6 買物の便利さ	0.63	1.31
7 幅員の狭い道路の整備	0.02	1.02
8 新しい住宅地・団地の整備	0.26	0.45
9 上水道や給水施設の整備	0.84	1.17
10 下水道や浄化槽の整備	0.76	1.23
11 子育て環境の充実	0.25	1.15
12 高齢者・障害者の生活のしやすさ	-0.11	1.42
13 地震防災対策	-0.09	1.34
14 土砂災害・風水害対策	-0.07	1.33
15 避難場所・避難路の分かりやすさ	0.03	1.34
16 まちの防犯対策	-0.06	1.44
17 騒音・振動・悪臭などの公害対策	0.26	1.24
18 大気汚染・水質汚濁の防止	0.43	1.29
19 ごみのリサイクル化などの取組	0.52	1.28
20 動植物などの多様な生物との共生	0.23	0.92
21 地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の抑制	0.13	1.18
22 森林や海岸など自然環境の保全	0.40	1.12
23 道路や公共施設の敷地の緑化	0.30	0.84
24 民間施設や工場の敷地の緑化	0.21	0.67
25 寺社の境内地など鎮守の森の保全	0.35	0.72
26 海岸や河川の水辺空間の有効利用	0.10	0.83
27 スポーツ・レクリエーション施設・公園の整備・充実	0.09	0.94
28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実	-0.28	1.08
29 まち並みや家並みの美しさ	0.25	0.71
30 海岸や眺望などの風景の美しさ	0.82	1.05
31 駅周辺や市街地の都市景観の美しさ	-0.05	0.95
32 寺社や文化財など歴史的・文化的景観の保全	0.24	0.85
33 中山間地に広がる田園景観の保全	0.12	0.65
34 看板やネオンサインなど屋外広告物の規制	-0.01	0.59
35 まちづくりへの市民参画の機会	0.11	0.67
36 都市計画・まちづくりに関する情報提供	0.03	0.81

満足度平均値：0.22 重要度平均値：1.04

- 【重点改善領域】**
- 12 高齢者・障害者の生活のしやすさ
 - 13 地震防災対策
 - 14 土砂災害・風水害対策
 - 16 まちの防犯対策
 - 28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実

- 【重点維持領域】**
- 6 買物の便利さ
 - 9 上水道や給水施設の整備
 - 10 下水道や浄化槽の整備
 - 18 大気汚染・水質汚濁の防止
 - 19 ごみのリサイクル化などの取組

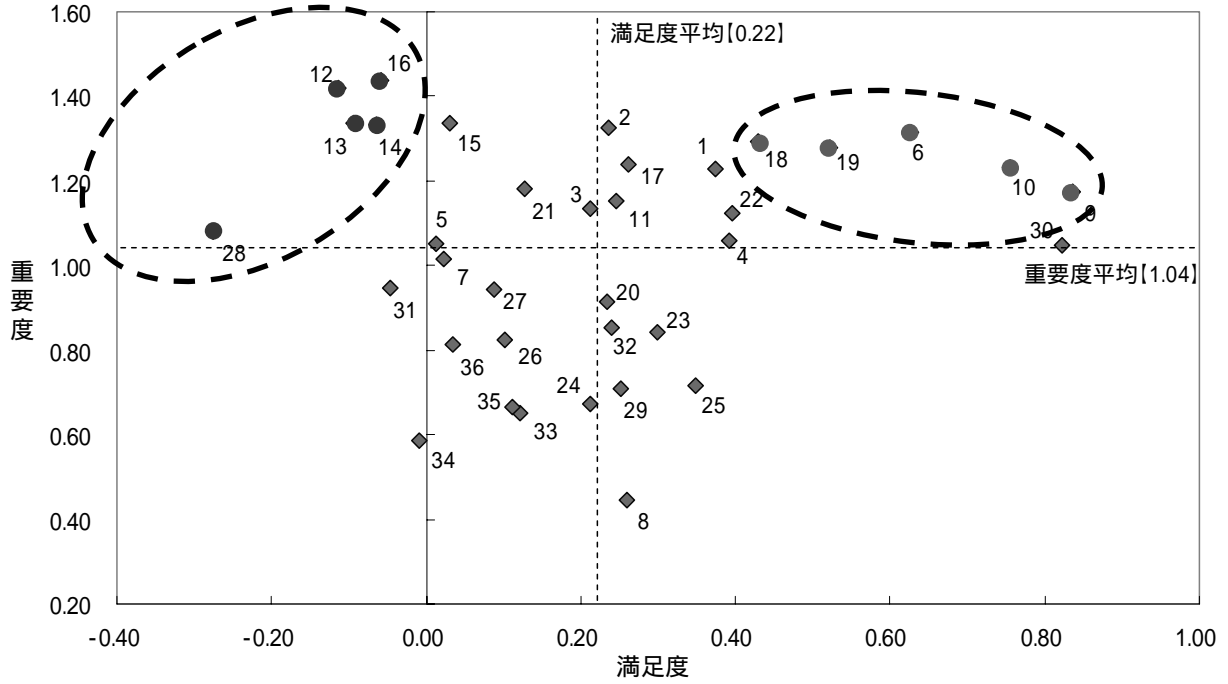


図 満足度と重要度の相関図【西部地域】

南部地域の満足度と重要度の相関図をみると、交通や買物、生活の利便性、防災に関する項目が重点改善領域としてあげられます。また、上下水道、歩道などの生活基盤や、自然環境・公害に関する項目が重点維持領域としてあげられます。

表 満足度・重要度一覧表【南部地域】

設 問	満足度	重要度
1 道路（歩道）の歩きやすさ	0.40	1.18
2 道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）	0.25	1.27
3 広域（市外）へのアクセスのしやすさ	-0.04	1.09
4 通勤・通学の便利さ	0.16	1.10
5 バスや鉄道の利用しやすさ	-0.54	1.14
6 買物の便利さ	-0.21	1.34
7 幅員の狭い道路の整備	-0.03	0.91
8 新しい住宅地・団地の整備	0.20	0.28
9 上水道や給水施設の整備	0.76	1.05
10 下水道や浄化槽の整備	0.42	1.11
11 子育て環境の充実	0.27	1.01
12 高齢者・障害者の生活のしやすさ	-0.30	1.38
13 地震防災対策	-0.17	1.24
14 土砂災害・風水害対策	-0.25	1.27
15 避難場所・避難路の分かりやすさ	0.10	1.23
16 まちの防犯対策	0.00	1.26
17 騒音・振動・悪臭などの公害対策	0.31	1.10
18 大気汚染・水質汚濁の防止	0.38	1.14
19 ごみのリサイクル化などの取組	0.47	1.21
20 動植物などの多様な生物との共生	0.16	0.90
21 地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の抑制	0.04	1.13
22 森林や海岸など自然環境の保全	0.40	1.17
23 道路や公共施設の敷地の緑化	0.37	0.86
24 民間施設や工場の敷地の緑化	0.31	0.64
25 寺社の境内地など鎮守の森の保全	0.39	0.74
26 海岸や河川の水辺空間の有効利用	0.12	0.72
27 スポーツ・レクリエーション施設・公園の整備・充実	0.30	0.83
28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実	-0.19	1.00
29 まち並みや家並みの美しさ	0.27	0.74
30 海岸や眺望などの風景の美しさ	0.82	1.04
31 駅周辺や市街地の都市景観の美しさ	0.02	0.75
32 寺社や文化財など歴史的・文化的景観の保全	0.32	0.78
33 中山間地に広がる田園景観の保全	0.08	0.58
34 看板やネオンサインなど屋外広告物の規制	0.09	0.47
35 まちづくりへの市民参画の機会	0.08	0.59
36 都市計画・まちづくりに関する情報提供	0.06	0.70

満足度平均値：0.16 重要度平均値：0.97

- 【重点改善領域】**
- 5 バスや鉄道の利用しやすさ
 - 6 買物の便利さ
 - 12 高齢者・障害者の生活のしやすさ
 - 13 地震防災対策
 - 14 土砂災害・風水害対策

- 【重点維持領域】**
- 1 道路（歩道）の歩きやすさ
 - 9 上水道や給水施設の整備
 - 10 下水道や浄化槽の整備
 - 18 大気汚染・水質汚濁の防止
 - 19 ごみのリサイクル化などの取組
 - 22 森林や海岸など自然環境の保全
 - 30 海岸や眺望などの風景の美しさ

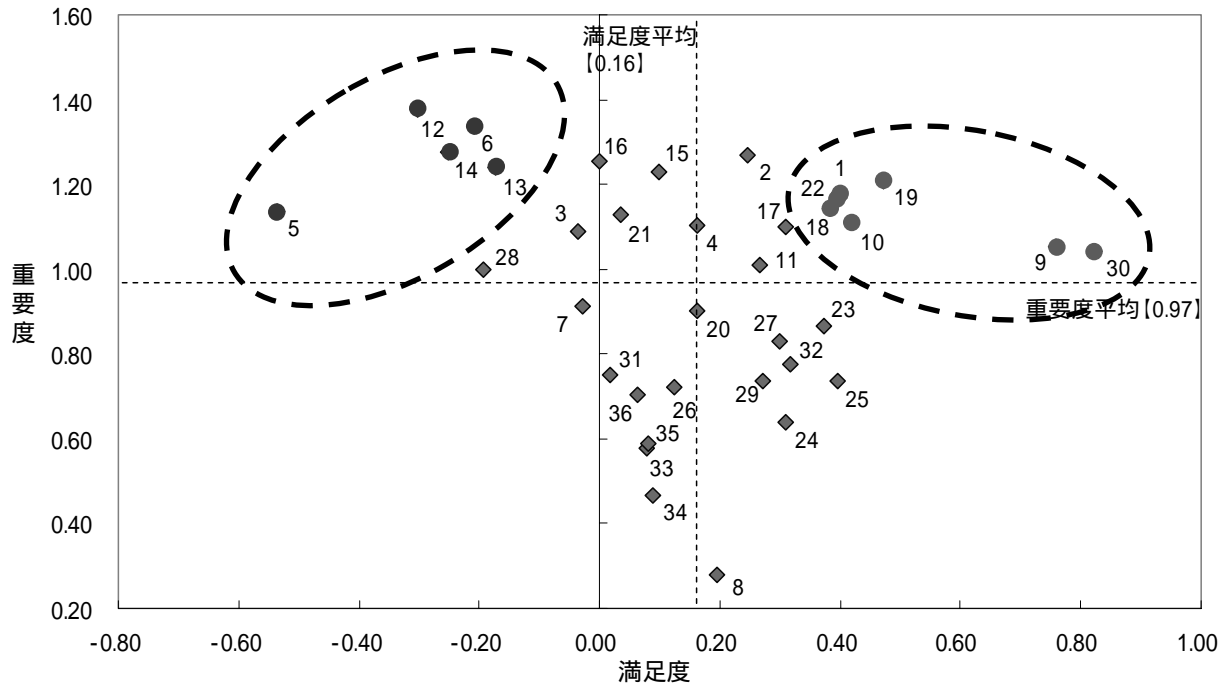


図 満足度と重要度の相関図【南部地域】

北部地域の満足度と重要度の相関図をみると、道路や交通、買物や生活の利便性、防災に関する項目が重点改善領域としてあげられます。また、環境・公害に関する項目が重点維持領域として多く含まれています。

表 満足度・重要度一覧表【北部地域】

設 問	満足度	重要度
1 道路（歩道）の歩きやすさ	-0.20	1.18
2 道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）	-0.39	1.32
3 広域（市外）へのアクセスのしやすさ	-0.18	0.95
4 通勤・通学の便利さ	-0.20	1.12
5 バスや鉄道の利用しやすさ	-0.49	1.14
6 買物の便利さ	-0.51	1.18
7 幅員の狭い道路の整備	-0.53	1.16
8 新しい住宅地・団地の整備	0.03	0.24
9 上水道や給水施設の整備	0.52	1.04
10 下水道や浄化槽の整備	0.12	1.19
11 子育て環境の充実	-0.04	1.19
12 高齢者・障害者の生活のしやすさ	-0.61	1.34
13 地震防災対策	-0.32	1.22
14 土砂災害・風水害対策	-0.38	1.21
15 避難場所・避難路の分かりやすさ	-0.17	1.27
16 まちの防犯対策	-0.22	1.28
17 騒音・振動・悪臭などの公害対策	0.29	1.10
18 大気汚染・水質汚濁の防止	0.26	1.13
19 ごみのリサイクル化などの取組	0.42	1.12
20 動植物などの多様な生物との共生	0.20	0.86
21 地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の抑制	0.03	1.04
22 森林や海岸など自然環境の保全	0.28	1.14
23 道路や公共施設の敷地の緑化	0.20	0.82
24 民間施設や工場の敷地の緑化	0.14	0.55
25 寺社の境内地など鎮守の森の保全	0.24	0.75
26 海岸や河川の水辺空間の有効利用	-0.03	0.74
27 スポーツ・レクリエーション施設・公園の整備・充実	-0.17	0.98
28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実	-0.49	1.09
29 まち並みや家並みの美しさ	0.18	0.51
30 海岸や眺望などの風景の美しさ	0.57	0.83
31 駅周辺や市街地の都市景観の美しさ	-0.04	0.77
32 寺社や文化財など歴史的・文化的景観の保全	0.14	0.64
33 中山間地に広がる田園景観の保全	0.00	0.60
34 看板やネオンサインなど屋外広告物の規制	-0.06	0.40
35 まちづくりへの市民参画の機会	-0.07	0.57
36 都市計画・まちづくりに関する情報提供	-0.08	0.66

満足度平均値： - 0.04 重要度平均値：0.95

- 【重点改善領域】**
- 2 道路の通行しやすさ(自動車・バイク・自転車)
 - 5 バスや鉄道の利用しやすさ
 - 6 買物の便利さ
 - 7 幅員の狭い道路の整備
 - 12 高齢者・障害者の生活のしやすさ
 - 13 地震防災対策
 - 14 土砂災害・風水害対策
 - 28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実

- 【重点維持領域】**
- 9 上水道や給水施設の整備
 - 17 騒音・振動・悪臭などの公害対策
 - 18 大気汚染・水質汚濁の防止
 - 19 ごみのリサイクル化などの取組
 - 22 森林や海岸など自然環境の保全

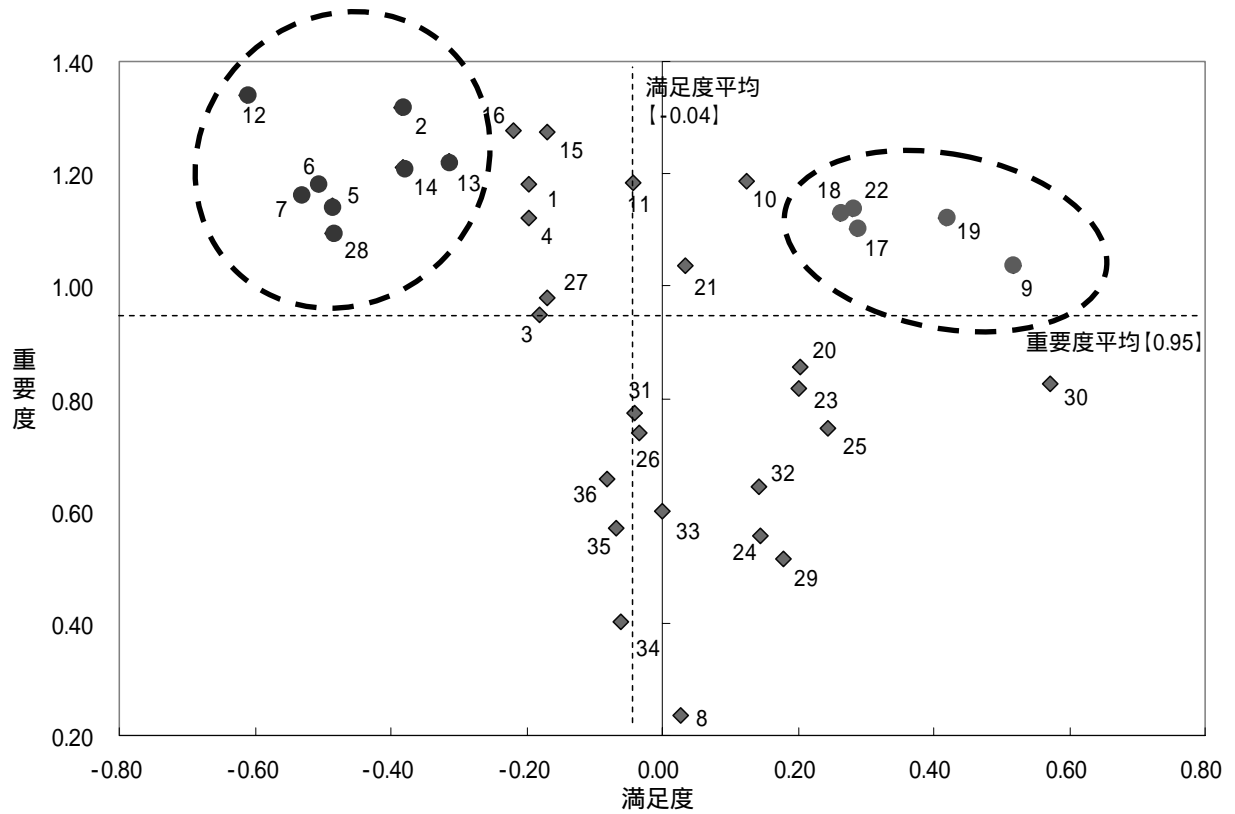


図 満足度と重要度の相関図【北部地域】

10) 今後、重点的に取り組むべきもの

今後、重点的に取り組むべきものについては、「高齢者・障害者の生活のしやすさ」が45.0%と最も多く、次いで「バスや鉄道の利用しやすさ」が22.1%、「身近にある子どもの遊び場の整備・充実」が21.3%、「土砂災害・風水害対策」が21.2%、「買物の便利さ」が21.1%となっており、交通・生活利便性の向上や安全・安心の暮らしに向けた取組が求められます。

地域別にみると、「高齢者・障害者の生活のしやすさ」は、全ての地域で重点的な取組としてあげられます。また、東部地域と北部地域においては、「道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）」が重点的に取り組むべきものと考えられています。

高齢化社会に対応した都市づくりや、郊外部における生活交通対策、市街地における子育て環境対策が求められます。

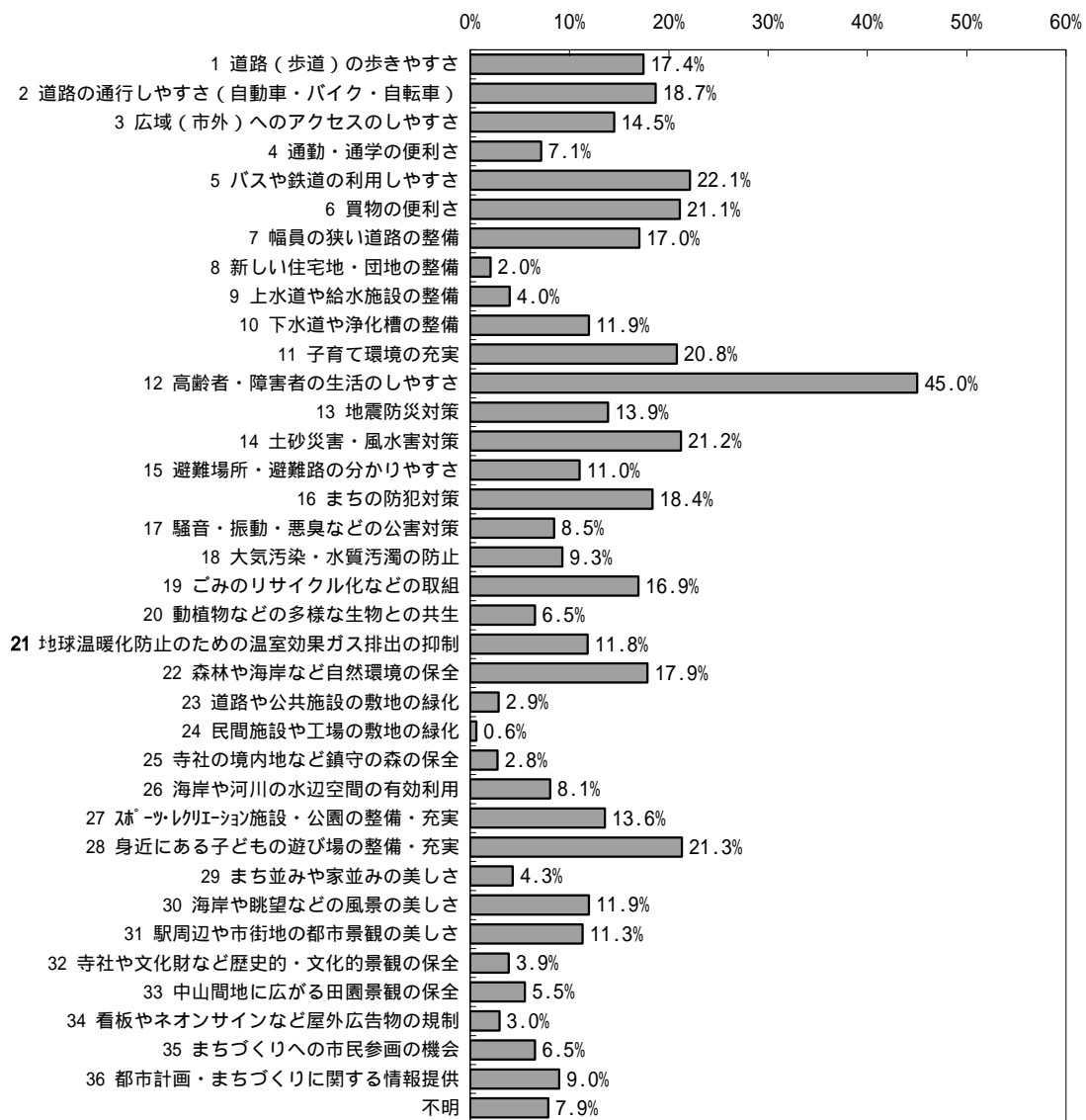


図 今後、重点的に取り組むべきもの【全体】

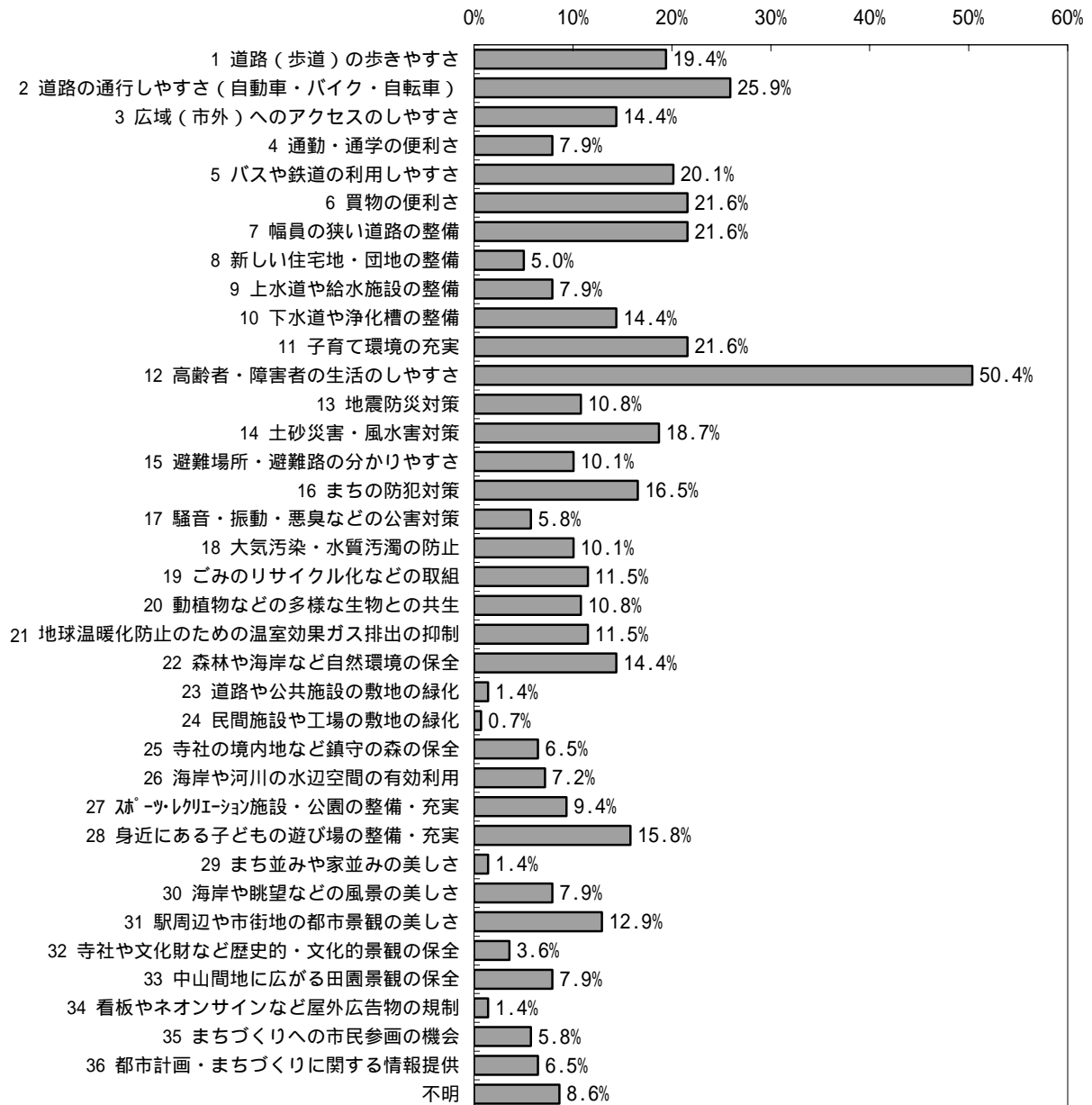


図 今後、重点的に取り組むべきもの【東部地域】

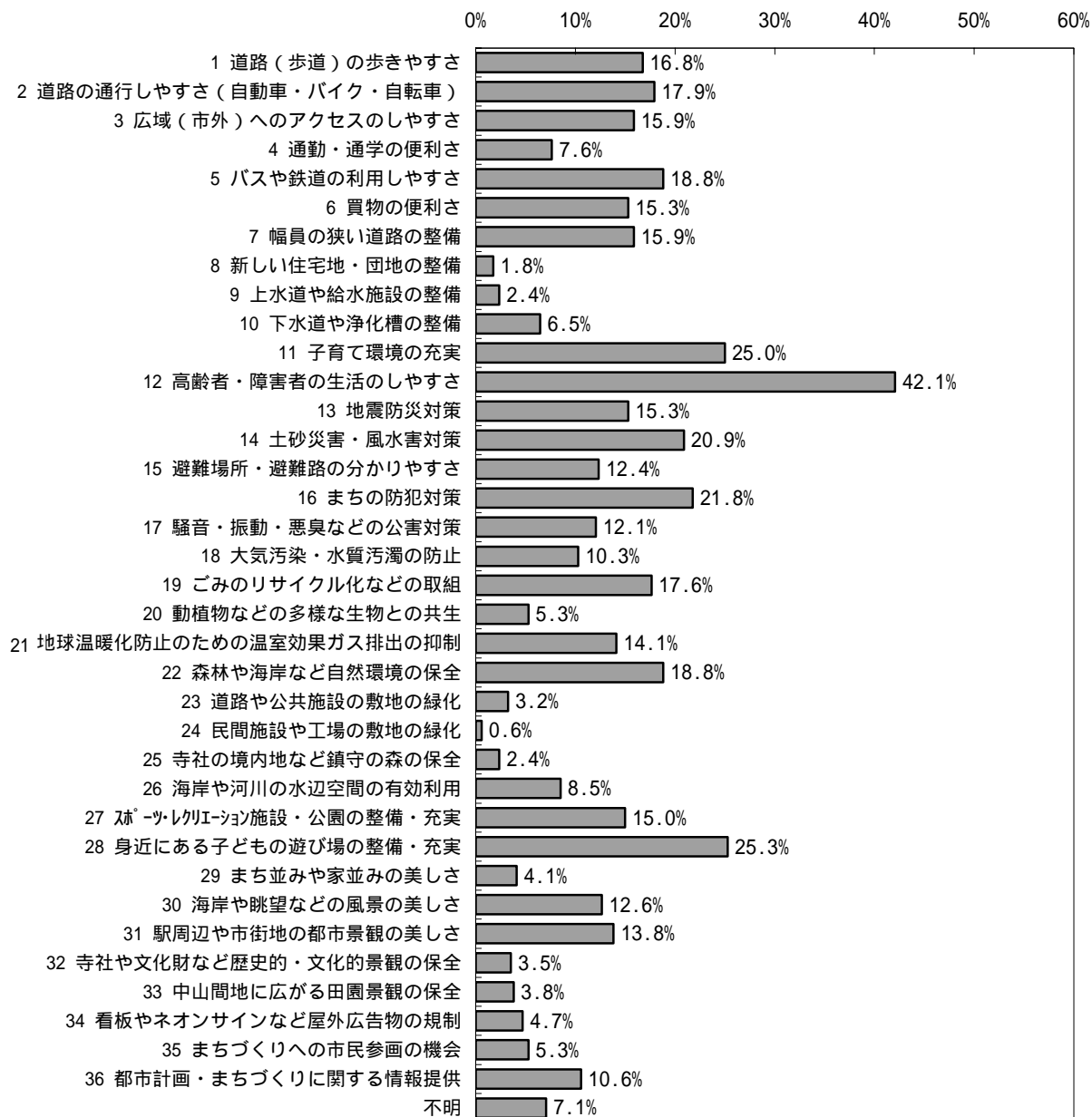


図 今後、重点的に取り組むべきもの【西部地域】

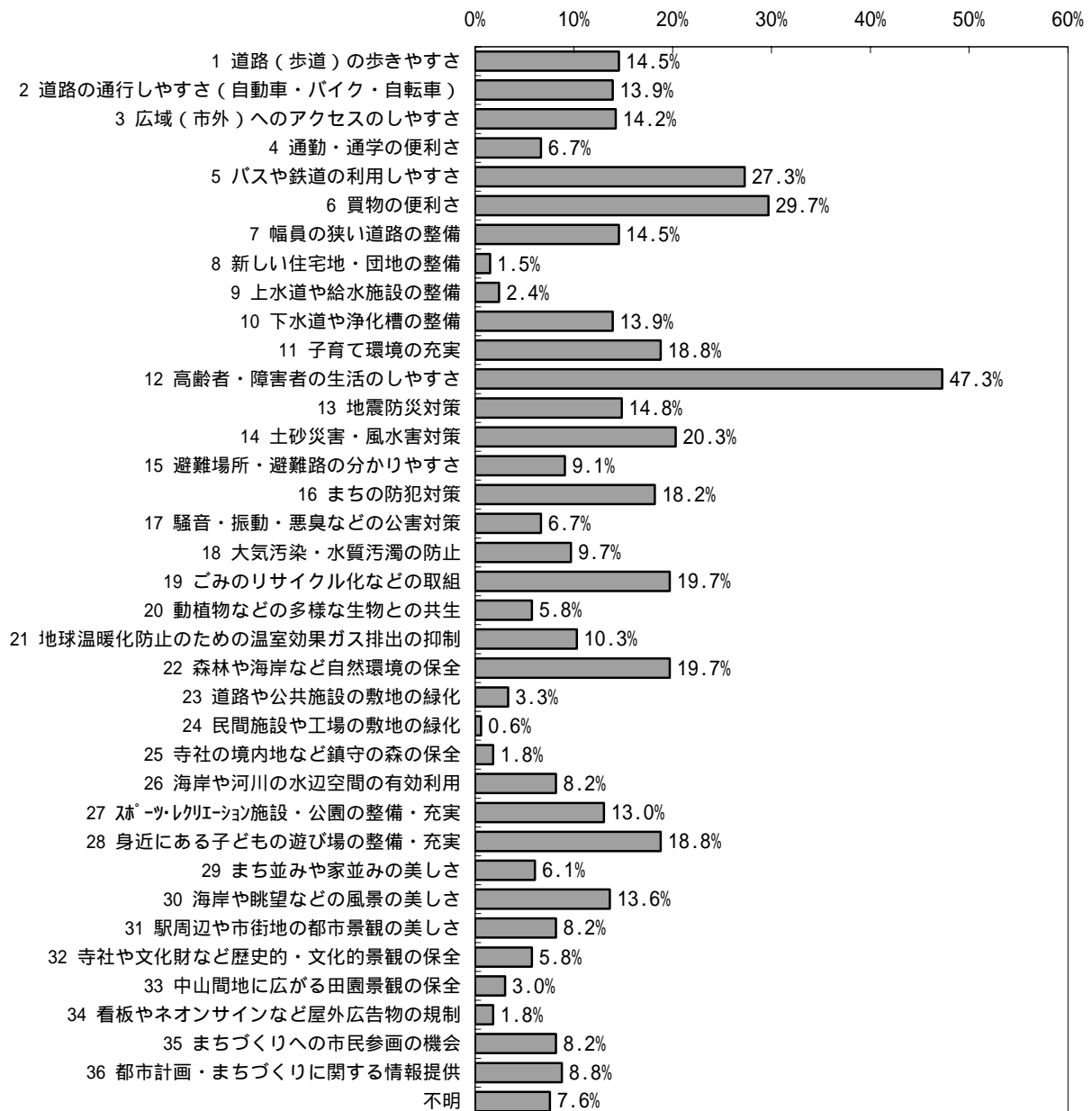


図 今後、重点的に取り組むべきもの【南部地域】

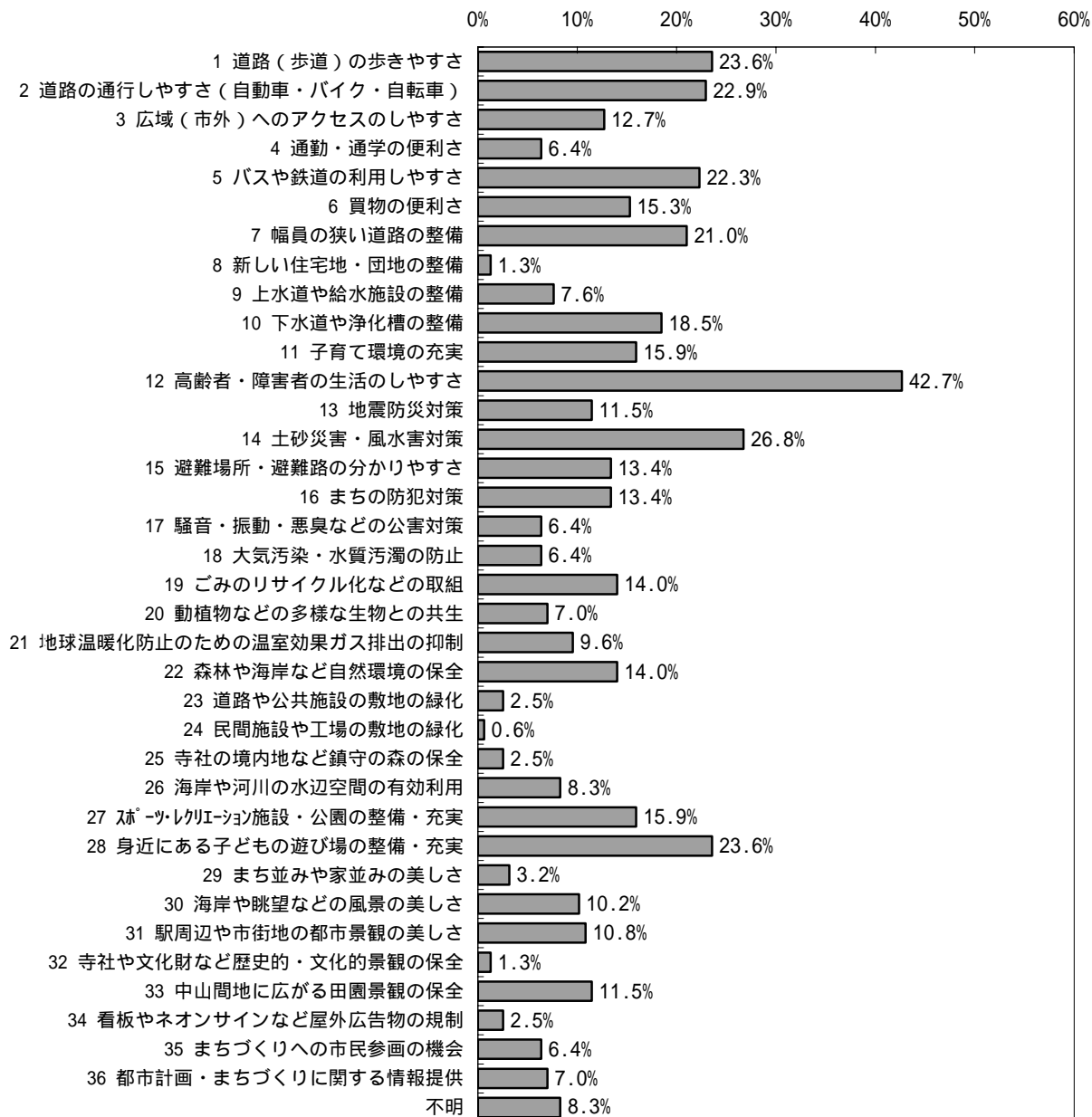


図 今後、重点的に取り組むべきもの【北部地域】

表 今後、重点的に取り組むべきもの（属性別）

		合計	1 道路（歩道）の歩きやすさ	2 道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）	3 広域（市外）へのアクセスのしやすさ	4 通勤・通学の利便性	5 バスや鉄道の利用しやすさ	6 買物の利便性	7 幅員の狭い道路の整備	8 新しい住宅地・団地の整備	9 上水道や給水施設の整備	10 下水道や浄化槽の整備	11 子育て環境の充実	12 高齢者・障害者の生活のしやすさ	13 地震防災対策	14 土砂災害・風水害対策	15 避難場所・避難路の分かりやすさ	16 まちの防犯対策	17 騒音・振動・悪臭などの公害対策	18 大気汚染・水質汚濁の防止
全体		980	171	183	142	70	217	207	167	20	39	117	204	441	136	208	108	180	83	91
		100.0%	17.4%	18.7%	14.5%	7.1%	22.1%	21.1%	17.0%	2.0%	4.0%	11.9%	20.8%	45.0%	13.9%	21.2%	11.0%	18.4%	8.5%	9.3%
		398	75	75	65	30	81	68	73	6	16	62	73	175	44	92	50	75	32	27
性別	男性	100.0%	18.8%	18.8%	16.3%	7.5%	20.4%	17.1%	18.3%	1.5%	4.0%	15.6%	18.3%	44.0%	11.1%	23.1%	12.6%	18.8%	8.0%	6.8%
	女性	100.0%	16.9%	18.0%	13.2%	6.2%	23.5%	23.9%	16.5%	2.4%	3.9%	9.4%	23.3%	46.8%	16.1%	20.6%	10.1%	18.3%	8.8%	10.6%
	不明	100.0%	10.8%	27.0%	13.5%	16.2%	21.6%	24.3%	10.8%	2.7%	5.4%	10.8%	10.8%	29.7%	10.8%	10.8%	8.1%	13.5%	8.1%	16.2%
年齢別	10代	22	5	5	5	3	4	5	1	0	1	1	3	7	5	5	3	5	1	1
	20代	57	11	13	10	3	14	17	10	2	0	3	23	20	13	14	6	9	9	3
	30代	98	18	14	11	9	17	21	14	4	3	5	43	30	19	16	5	21	9	9
	40代	128	22	26	25	18	39	26	24	2	3	14	37	60	17	25	7	34	12	14
	50代	148	24	32	22	11	32	29	28	1	9	19	29	66	19	36	14	33	16	15
	60代	270	44	56	41	12	50	62	50	6	14	47	44	138	33	57	34	44	21	25
	70代以上	244	45	33	27	14	61	44	38	5	8	26	24	117	28	53	38	33	15	24
	不明	13	2	4	1	0	0	3	2	0	1	2	1	3	2	2	1	1	0	0
	東部地域	139	27	36	20	11	28	30	30	7	11	20	30	70	15	26	14	23	8	14
	西部地域	340	57	61	54	26	64	52	54	6	8	22	85	143	52	71	42	74	41	35
南部地域	330	48	46	47	22	90	98	48	5	8	46	62	156	49	67	30	60	22	32	
北部地域	157	37	36	20	10	35	24	33	2	12	29	25	67	18	42	21	21	10	10	
不明	14	2	4	1	1	0	3	2	0	0	0	2	5	2	2	1	2	2	0	
	100.0%	14.3%	28.6%	7.1%	7.1%	0.0%	21.4%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	35.7%	14.3%	14.3%	7.1%	14.3%	14.3%	0.0%	
	19 ごみのリサイクル化などの取組	20 動植物などの多様な生物との共生	21 地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の抑制	22 森林や海岸など自然環境の保全	23 道路や公共施設の敷地の緑化	24 民間施設や工場の敷地の緑化	25 寺社の境内地など鎮守の森の保全	26 海岸や河川の水辺空間の有効利用	27 スポークレエーション施設・公園の整備・充実	28 身近にある子どもの遊び場の整備・充実	29 まち並みや家並みの美しさ	30 海岸や眺望などの風景の美しさ	31 駅周辺や市街地の都市景観の美しさ	32 寺社や文化財など歴史的・文化的景観の保全	33 中山間地に広がる田園景観の保全	34 看板やネオンサインなど屋外広告物の規制	35 まちづくりへの市民参画の機会	36 都市計画・まちづくりに関する情報提供	不明	
全体	166	64	116	175	28	6	27	79	133	209	42	117	111	38	54	29	64	88	77	
	16.9%	6.5%	11.8%	17.9%	2.9%	0.6%	2.8%	8.1%	13.6%	21.3%	4.3%	11.9%	11.3%	3.9%	5.5%	3.0%	6.5%	9.0%	7.9%	
性別	男性	56	25	36	77	13	3	16	43	69	20	52	39	19	27	8	31	47	24	
	女性	102	38	73	91	15	3	11	35	62	22	63	70	19	26	20	31	35	45	
	不明	8	1	7	7	0	0	0	1	2	10	0	2	0	1	2	6	8		
	21.6%	2.7%	18.9%	18.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	5.4%	27.0%	0.0%	5.4%	5.4%	0.0%	2.7%	5.4%	16.2%	21.6%		
年齢別	10代	3	2	1	4	1	0	0	1	6	7	4	4	2	0	1	3	3	0	
	20代	4	1	3	4	1	0	0	1	14	19	9	4	5	0	2	1	2	3	
	30代	14	5	13	18	4	1	1	8	27	46	4	18	12	3	1	7	8	2	
	40代	19	7	11	21	2	1	3	13	21	30	2	19	16	3	4	5	9	4	
	50代	38	13	16	35	4	1	7	10	19	23	4	24	11	8	7	14	14	5	
	60代	56	17	44	45	6	2	5	28	23	47	14	28	36	9	21	15	28	19	
	70代以上	30	18	25	44	10	1	11	18	23	35	5	18	27	14	19	5	19	22	40
	不明	2	1	3	4	0	0	0	0	0	2	0	2	2	1	0	0	2	4	
	15.4%	7.7%	23.1%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%	15.4%	15.4%	7.7%	7.7%	0.0%	15.4%	30.8%		
地域別	東部地域	16	15	16	20	2	1	9	10	13	22	2	11	18	5	11	2	8	12	
	西部地域	60	18	48	64	11	2	8	29	51	14	43	47	12	13	16	18	36	24	
	南部地域	65	19	34	65	11	2	6	27	43	20	45	27	19	10	6	27	29	25	
	北部地域	22	11	15	22	4	1	4	13	25	37	5	16	17	2	18	4	10	11	13
	不明	3	1	3	4	0	0	0	0	1	2	1	2	2	0	2	1	3	3	
	21.4%	7.1%	21.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	14.3%	7.1%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	7.1%	7.1%	21.4%	21.4%	

3 光市の将来について

11) 光市の将来に望ましい都市について

光市の将来に望ましい都市については、「災害に強く安心して暮らせる都市」が52.9%と最も多く、次いで「道路や公共施設などが、誰もが使いやすいよう配慮されている都市」が49.6%、「自然環境が多く残っている都市」が33.1%、「計画的な土地利用により、快適な居住環境が形成されている都市」が32.0%となっています。

各地域ともほぼ同様の傾向にありますが、東部地域においては「道路や公共施設などが、誰もが使いやすいよう配慮されている都市」が強く望まれています。

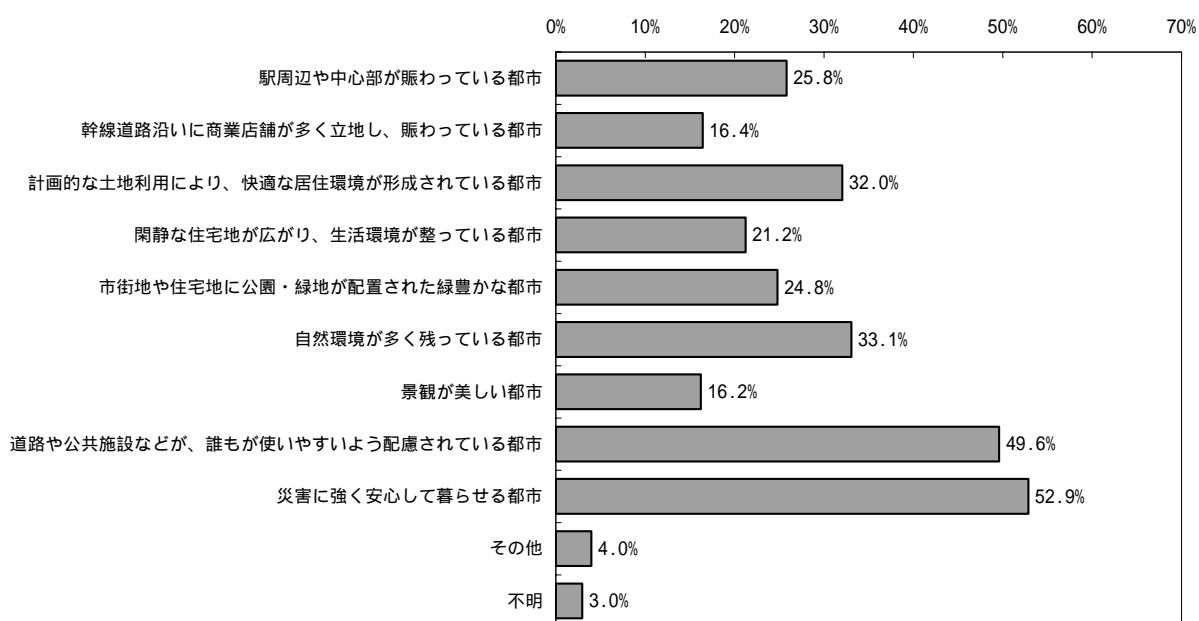


図 光市の将来に望ましい都市について【全体】

その他の意見

- ・子どもを育てやすく将来子どもたちに魅力がある都市
- ・大型商業施設を中心とした商業区域と自然環境を残した居住区域を分別化し、双方が互いにアクセスしやすい環境
- ・まつりなどのコミュニケーションの場が多くある市
- ・税金が安く、お年寄りや子どもが安心して暮らせるまち
- ・医療と介護を兼ね備えた施設の充実を図る都市
- ・地元企業が栄え、大人・子どもの人数が増えている都市 など

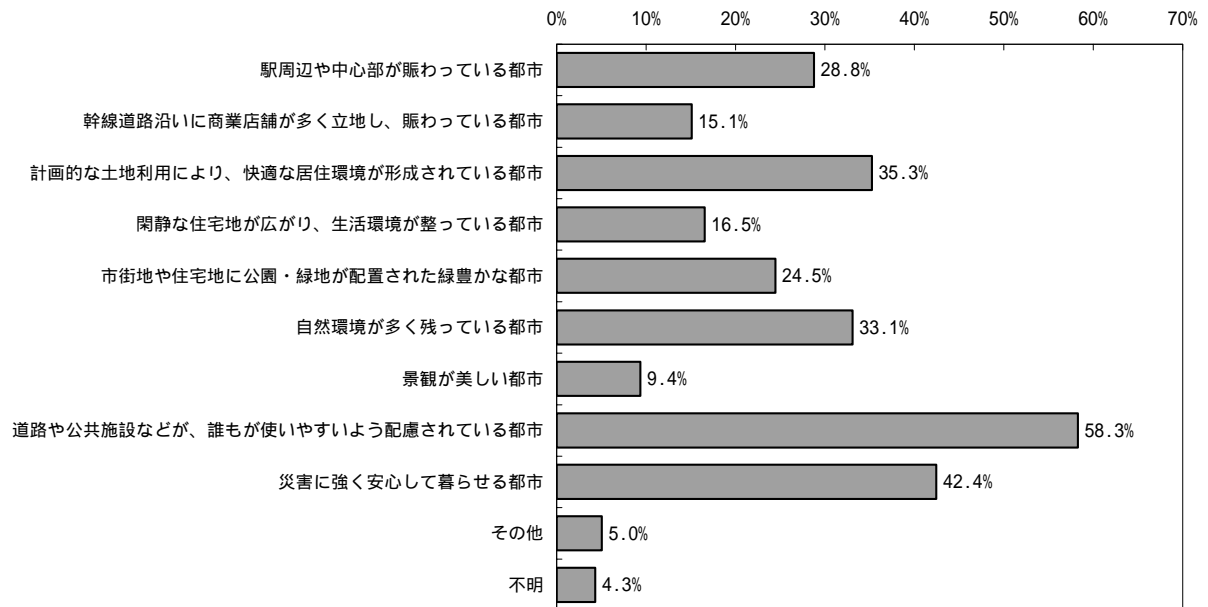


図 光市の将来に望ましい都市について【東部地域】

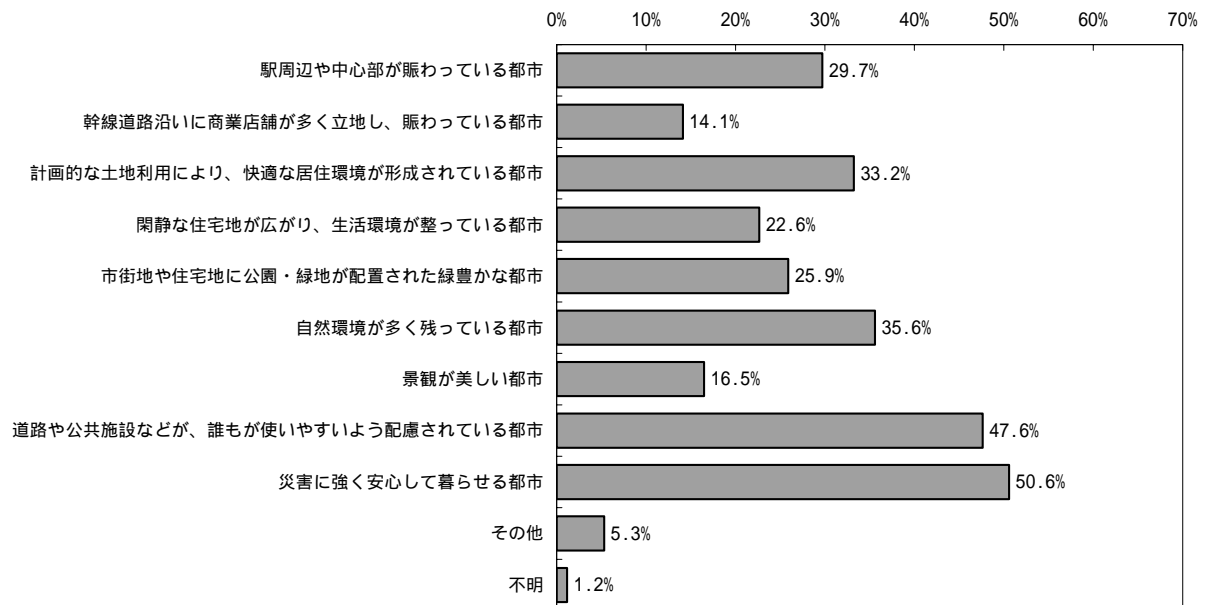


図 光市の将来に望ましい都市について【西部地域】

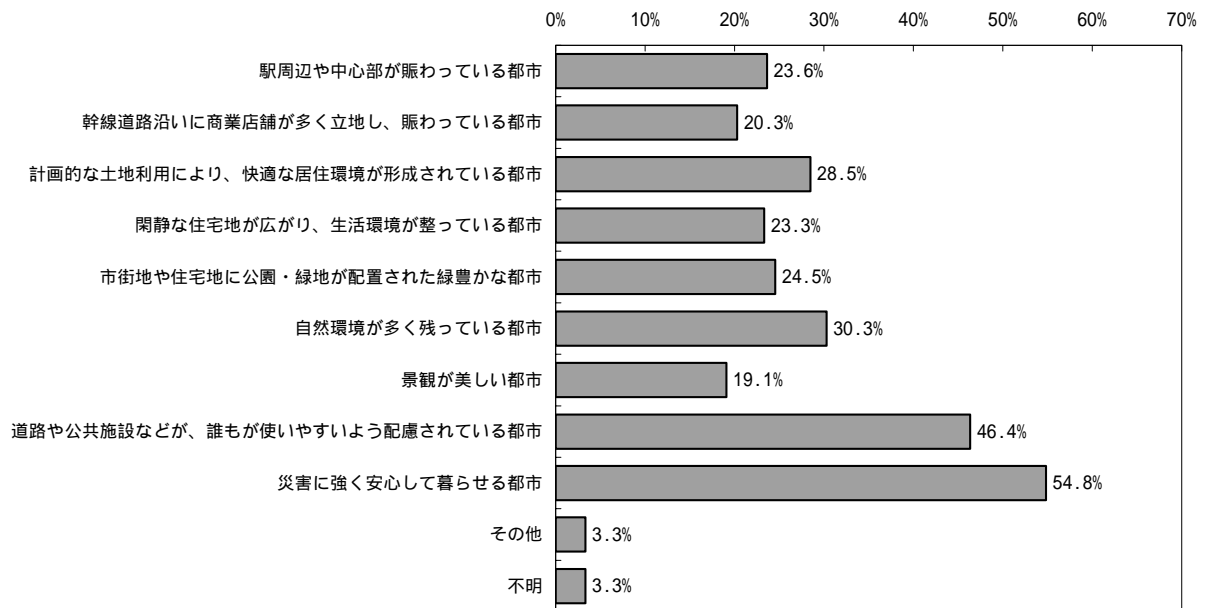


図 光市の将来に望ましい都市について【南部地域】

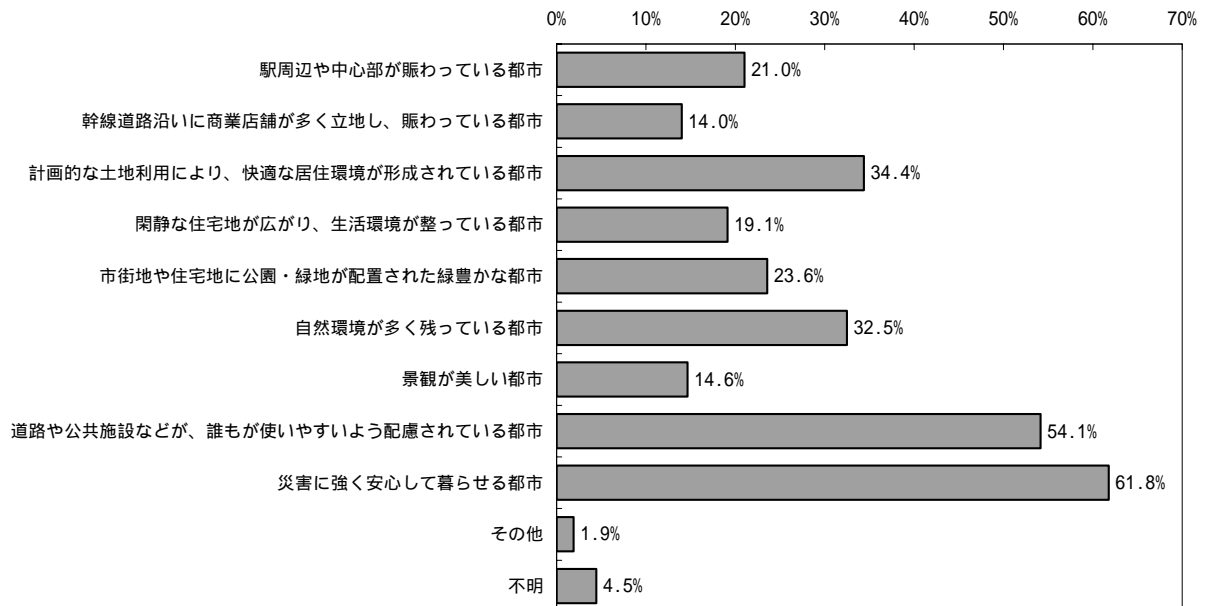


図 光市の将来に望ましい都市について【北部地域】

表 光市の将来に望ましい都市について（属性別）

		合計	駅周辺や中心部 が賑わっている 都市	幹線道路沿いに 商業店舗が多く 立地し、賑わっ ている都市	計画的な土地利 用により、快適 な居住環境が形 成されている都 市	閑静な住宅地が 広がり、生活環 境が整っている 都市	市街地や住宅地 に公園・緑地が 配置された緑豊 かな都市	自然環境が多く 残っている都市	景観が美しい都 市	道路や公共施設 などが、誰もが 使いやすいよう 配慮されている 都市	災害に強く安心 して暮らせる都 市	その他	不明
全体		980 100.0 %	253 25.8 %	161 16.4 %	314 32.0 %	208 21.2 %	243 24.8 %	324 33.1 %	159 16.2 %	486 49.6 %	518 52.9 %	39 4.0 %	29 3.0 %
性別	男性	398 100.0 %	90 22.6 %	63 15.8 %	138 34.7 %	94 23.6 %	96 24.1 %	140 35.2 %	66 16.6 %	193 48.5 %	190 47.7 %	21 5.3 %	13 3.3 %
	女性	545 100.0 %	156 28.6 %	89 16.3 %	165 30.3 %	109 20.0 %	141 25.9 %	173 31.7 %	88 16.1 %	274 50.3 %	314 57.6 %	16 2.9 %	11 2.0 %
	不明	37 100.0 %	7 18.9 %	9 24.3 %	11 29.7 %	5 13.5 %	6 16.2 %	11 29.7 %	5 13.5 %	19 51.4 %	14 37.8 %	2 5.4 %	5 13.5 %
年齢別	10代	22 100.0 %	7 31.8 %	2 9.1 %	3 13.6 %	2 9.1 %	8 36.4 %	7 31.8 %	8 36.4 %	9 40.9 %	9 40.9 %	3 13.6 %	0 0.0 %
	20代	57 100.0 %	19 33.3 %	9 15.8 %	20 35.1 %	9 15.8 %	17 29.8 %	20 35.1 %	12 21.1 %	28 49.1 %	25 43.9 %	3 5.3 %	1 1.8 %
	30代	98 100.0 %	26 26.5 %	17 17.3 %	25 25.5 %	24 24.5 %	41 41.8 %	31 31.6 %	22 22.4 %	44 44.9 %	46 46.9 %	6 6.1 %	0 0.0 %
	40代	128 100.0 %	26 20.3 %	19 14.8 %	37 28.9 %	31 24.2 %	30 23.4 %	43 33.6 %	23 18.0 %	66 51.6 %	64 50.0 %	13 10.2 %	2 1.6 %
	50代	148 100.0 %	36 24.3 %	28 18.9 %	57 38.5 %	33 22.3 %	34 23.0 %	54 36.5 %	25 16.9 %	74 50.0 %	73 49.3 %	4 2.7 %	3 2.0 %
	60代	270 100.0 %	77 28.5 %	45 16.7 %	92 34.1 %	59 21.9 %	61 22.6 %	94 34.8 %	33 12.2 %	134 49.6 %	151 55.9 %	7 2.6 %	7 2.6 %
	70代以上	244 100.0 %	60 24.6 %	38 15.6 %	75 30.7 %	48 19.7 %	49 20.1 %	71 29.1 %	34 13.9 %	125 51.2 %	144 59.0 %	3 1.2 %	15 6.1 %
	不明	13 100.0 %	2 15.4 %	3 23.1 %	5 38.5 %	2 15.4 %	3 23.1 %	4 30.8 %	2 15.4 %	6 46.2 %	6 46.2 %	0 0.0 %	1 7.7 %
地域別	東部地域	139 100.0 %	40 28.8 %	21 15.1 %	49 35.3 %	23 16.5 %	34 24.5 %	46 33.1 %	13 9.4 %	81 58.3 %	59 42.4 %	7 5.0 %	6 4.3 %
	西部地域	340 100.0 %	101 29.7 %	48 14.1 %	113 33.2 %	77 22.6 %	88 25.9 %	121 35.6 %	56 16.5 %	162 47.6 %	172 50.6 %	18 5.3 %	4 1.2 %
	南部地域	330 100.0 %	78 23.6 %	67 20.3 %	94 28.5 %	77 23.3 %	81 24.5 %	100 30.3 %	63 19.1 %	153 46.4 %	181 54.8 %	11 3.3 %	11 3.3 %
	北部地域	157 100.0 %	33 21.0 %	22 14.0 %	54 34.4 %	30 19.1 %	37 23.6 %	51 32.5 %	23 14.6 %	85 54.1 %	97 61.8 %	3 1.9 %	7 4.5 %
	不明	14 100.0 %	1 7.1 %	3 21.4 %	4 28.6 %	1 7.1 %	3 21.4 %	6 42.9 %	4 28.6 %	5 35.7 %	9 64.3 %	0 0.0 %	1 7.1 %

4 土地利用について

12) 商業地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性

商業地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性については、「日常生活品を購入しやすいように、地域の拠点ごとに商業施設の立地を誘導する」が50.5%と最も多く、次いで「商業地を増やす必要はなく、現状のままでよい」が16.5%、「駅周辺など中心部に商業施設を集約し、求心力を高める」が15.7%となっています。

地域別にみると、全ての地域で「地域の拠点」が最も望まれています。西部地域では駅周辺など中心部の求心力、南部地域では幹線道路沿道の商業立地も望まれています。

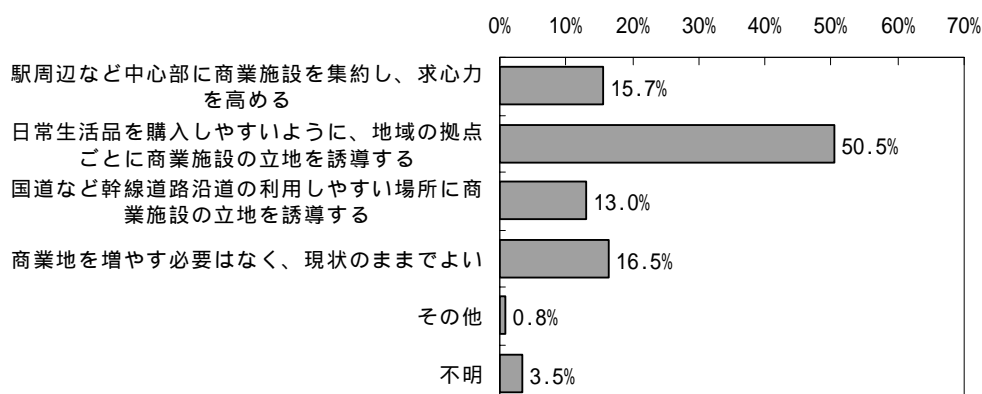


図 商業地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【全体】

その他の意見

- ・高齢者が訪れやすいようシャトルバスを整備する
- ・買物できない人のためにシャトルバス宅配を行う
- ・市民が一体になって商業地の充実を考える
- ・商業施設の大型化は望まない など

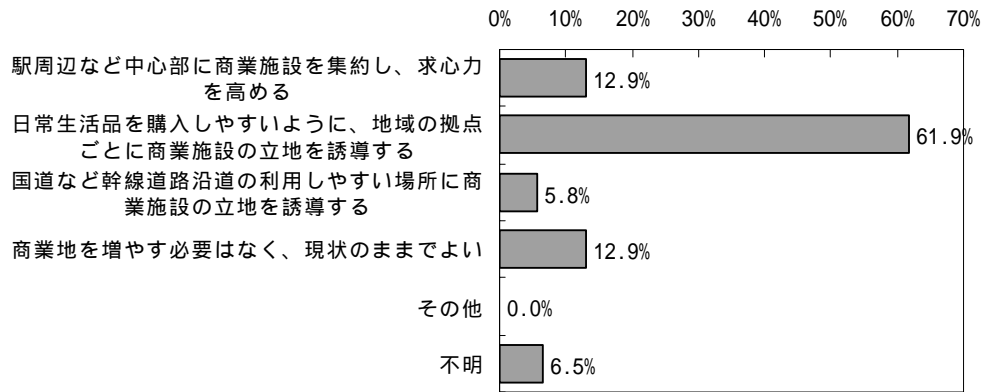


図 商業地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【東部地域】

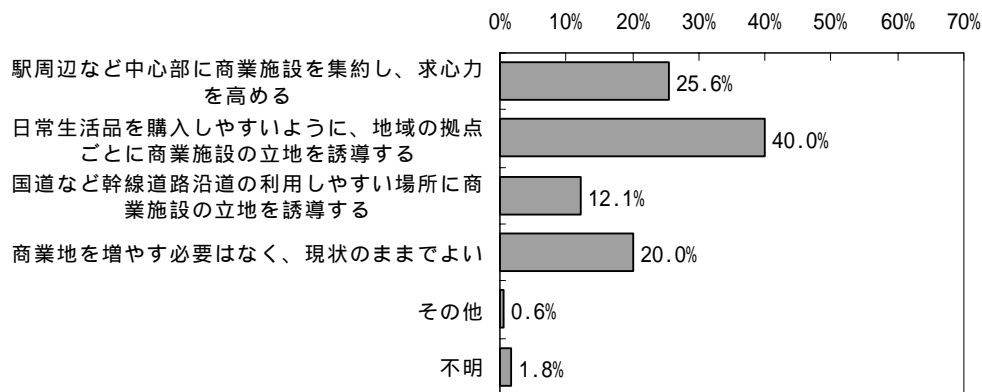


図 商業地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【西部地域】

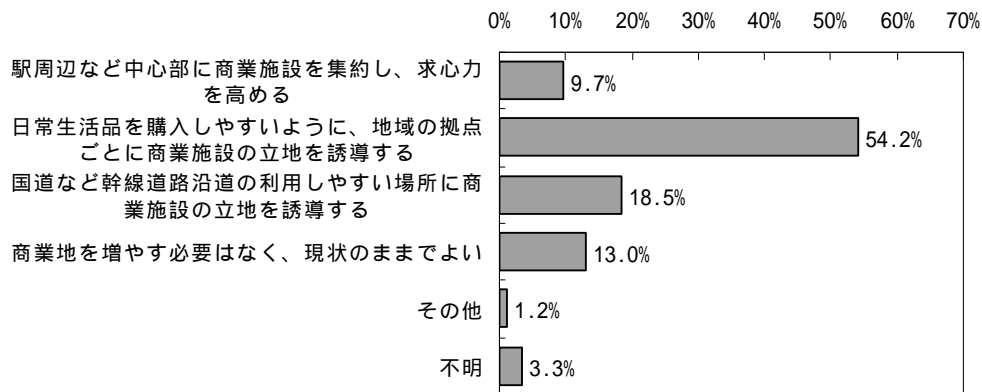


図 商業地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【南部地域】

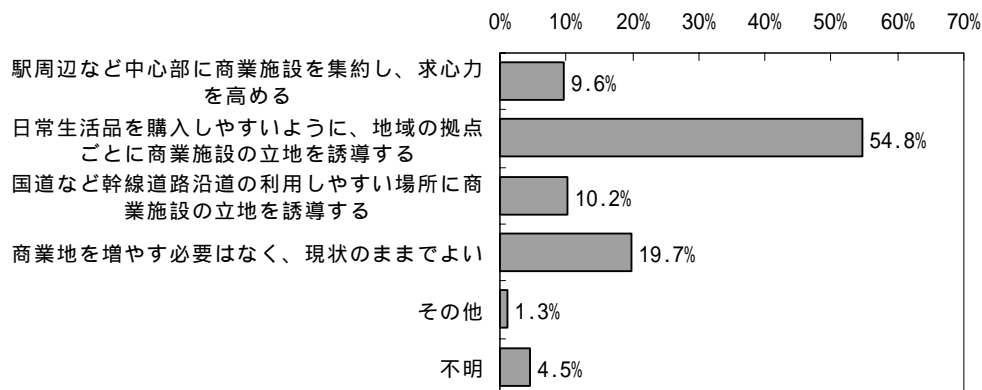


図 商業地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【北部地域】

表 商業地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性（属性別）

		合計	駅周辺など中心部に商業施設を集約し、求心力を高める	日常生活品を購入しやすいように、地域の拠点ごとに商業施設の立地を誘導する	国道など幹線道路沿道の利用しやすい場所に商業施設の立地を誘導する	商業地を増やす必要はなく、現状のままでもよい	その他	不明
全体		980	154	495	127	162	8	34
		100.0 %	15.7 %	50.5 %	13.0 %	16.5 %	0.8 %	3.5 %
性別	男性	398	68	202	46	66	2	14
		100.0 %	17.1 %	50.8 %	11.6 %	16.6 %	0.5 %	3.5 %
	女性	545	83	271	78	91	6	16
	100.0 %	15.2 %	49.7 %	14.3 %	16.7 %	1.1 %	2.9 %	
	不明	37	3	22	3	5	0	4
	100.0 %	8.1 %	59.5 %	8.1 %	13.5 %	0.0 %	10.8 %	
年齢別	10代	22	3	12	2	5	0	0
		100.0 %	13.6 %	54.5 %	9.1 %	22.7 %	0.0 %	0.0 %
	20代	57	13	21	9	12	1	1
		100.0 %	22.8 %	36.8 %	15.8 %	21.1 %	1.8 %	1.8 %
	30代	98	14	38	24	19	2	1
		100.0 %	14.3 %	38.8 %	24.5 %	19.4 %	2.0 %	1.0 %
	40代	128	26	50	26	22	2	2
		100.0 %	20.3 %	39.1 %	20.3 %	17.2 %	1.6 %	1.6 %
50代	148	21	71	26	25	1	4	
	100.0 %	14.2 %	48.0 %	17.6 %	16.9 %	0.7 %	2.7 %	
60代	270	46	152	22	41	0	9	
	100.0 %	17.0 %	56.3 %	8.1 %	15.2 %	0.0 %	3.3 %	
70代以上	244	30	142	18	36	2	16	
	100.0 %	12.3 %	58.2 %	7.4 %	14.8 %	0.8 %	6.6 %	
	不明	13	1	9	0	2	0	1
	100.0 %	7.7 %	69.2 %	0.0 %	15.4 %	0.0 %	7.7 %	
地域別	東部地域	139	18	86	8	18	0	9
		100.0 %	12.9 %	61.9 %	5.8 %	12.9 %	0.0 %	6.5 %
	西部地域	340	87	136	41	68	2	6
		100.0 %	25.6 %	40.0 %	12.1 %	20.0 %	0.6 %	1.8 %
	南部地域	330	32	179	61	43	4	11
		100.0 %	9.7 %	54.2 %	18.5 %	13.0 %	1.2 %	3.3 %
北部地域	157	15	86	16	31	2	7	
	100.0 %	9.6 %	54.8 %	10.2 %	19.7 %	1.3 %	4.5 %	
	不明	14	2	8	1	2	0	1
	100.0 %	14.3 %	57.1 %	7.1 %	14.3 %	0.0 %	7.1 %	

13) 工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性

工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性については、「周辺環境へ影響がある工場であっても、環境対策や敷地内に緑化を行うことなどで周辺への影響を低減させることができれば、移転・集約をしなくてもよい」が46.9%と最も多く、次いで「周辺環境へ影響がある工場は、立地条件のよい工業団地等へ移転・集約する」が34.9%となっています。

東部地域、西部地域、南部地域では、全体の傾向と同様に「周辺環境へ影響がある工場であっても、環境対策や敷地内に緑化を行うことなどで周辺への影響を低減させることができれば、移転・集約をしなくてもよい」が最も多くなっていますが、北部地域では、周辺環境へ影響がある工場は、立地条件のよい工業団地等へ移転・集約する」が最も多くなっています。

工場と周辺の住宅地が共生するための環境対策・緑化対策か、工場と周辺の住宅地を分離することによる住環境や自然環境の維持が求められます。

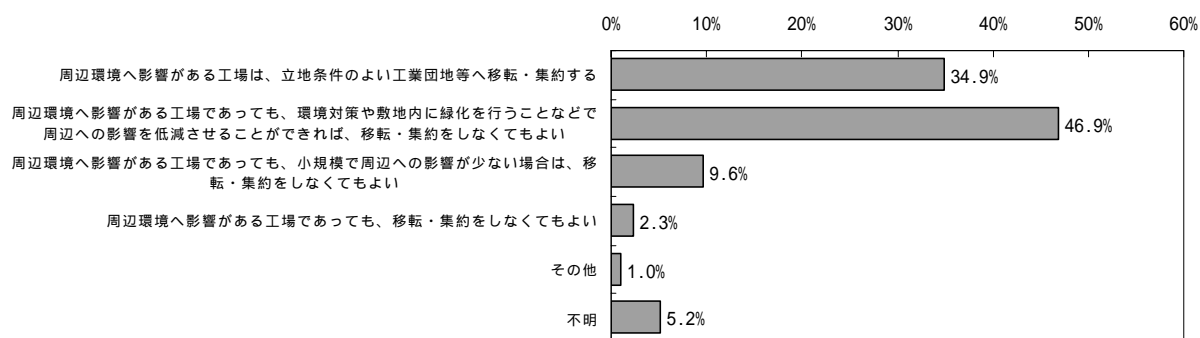


図 工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【全体】

その他の意見

- ・緑化だけでなく、水質を厳しくチェックする
- ・どういう工場を目指すのか明確にする など

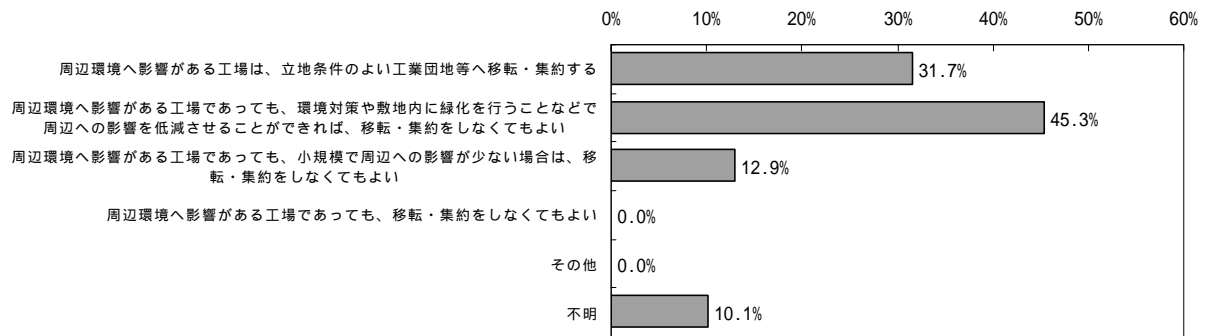


図 工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【東部地域】

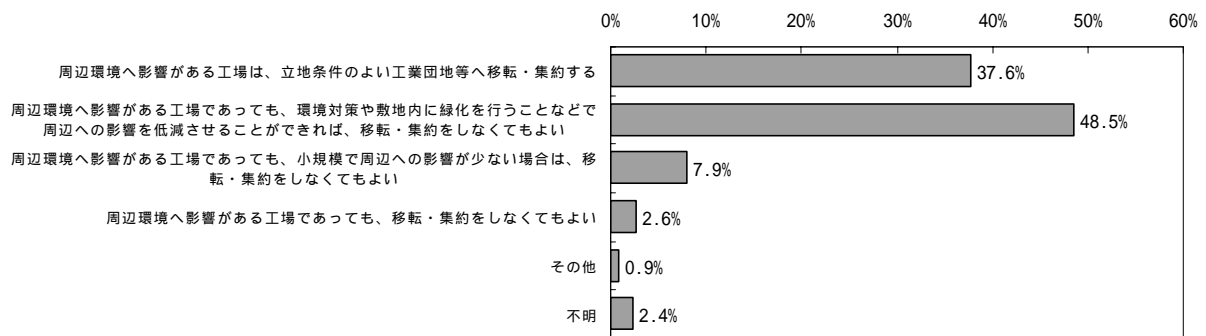


図 工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【西部地域】

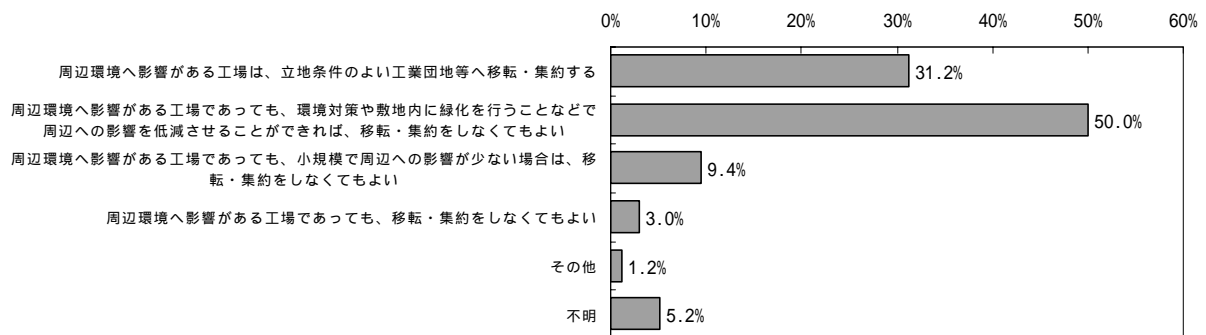


図 工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【南部地域】

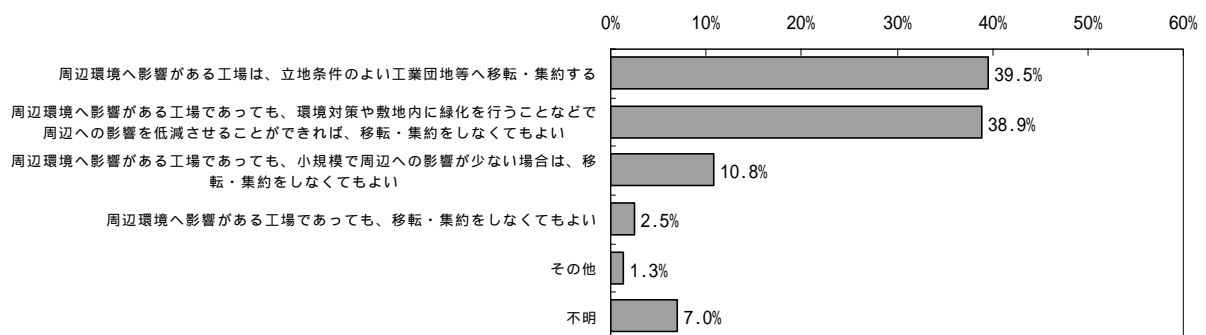


図 工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【北部地域】

表 工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性（属性別）

		合計	周辺環境へ影響がある工場は、立地条件のよい工業団地等へ移転・集約する	周辺環境へ影響がある工場であっても、環境対策や敷地内に緑化を行うことなどで周辺への影響を低減させることができれば、移転・集約をしなくてもよい	周辺環境へ影響がある工場であっても、小規模で周辺への影響が少ない場合は、移転・集約をしなくてもよい	周辺環境へ影響がある工場であっても、移転・集約をしなくてもよい	その他	不明
全体		980 100.0 %	342 34.9 %	460 46.9 %	94 9.6 %	23 2.3 %	10 1.0 %	51 5.2 %
性別	男性	398 100.0 %	128 32.2 %	189 47.5 %	42 10.6 %	14 3.5 %	4 1.0 %	21 5.3 %
	女性	545 100.0 %	200 36.7 %	257 47.2 %	49 9.0 %	7 1.3 %	6 1.1 %	26 4.8 %
	不明	37 100.0 %	14 37.8 %	14 37.8 %	3 8.1 %	2 5.4 %	0 0.0 %	4 10.8 %
年齢別	10代	22 100.0 %	8 36.4 %	7 31.8 %	4 18.2 %	0 0.0 %	2 9.1 %	1 4.5 %
	20代	57 100.0 %	17 29.8 %	29 50.9 %	4 7.0 %	5 8.8 %	1 1.8 %	1 1.8 %
	30代	98 100.0 %	34 34.7 %	54 55.1 %	8 8.2 %	1 1.0 %	1 1.0 %	0 0.0 %
	40代	128 100.0 %	44 34.4 %	65 50.8 %	11 8.6 %	3 2.3 %	3 2.3 %	2 1.6 %
	50代	148 100.0 %	64 43.2 %	62 41.9 %	16 10.8 %	2 1.4 %	0 0.0 %	4 2.7 %
	60代	270 100.0 %	99 36.7 %	129 47.8 %	21 7.8 %	6 2.2 %	1 0.4 %	14 5.2 %
	70代以上	244 100.0 %	72 29.5 %	109 44.7 %	28 11.5 %	5 2.0 %	2 0.8 %	28 11.5 %
	不明	13 100.0 %	4 30.8 %	5 38.5 %	2 15.4 %	1 7.7 %	0 0.0 %	1 7.7 %
地域別	東部地域	139 100.0 %	44 31.7 %	63 45.3 %	18 12.9 %	0 0.0 %	0 0.0 %	14 10.1 %
	西部地域	340 100.0 %	128 37.6 %	165 48.5 %	27 7.9 %	9 2.6 %	3 0.9 %	8 2.4 %
	南部地域	330 100.0 %	103 31.2 %	165 50.0 %	31 9.4 %	10 3.0 %	4 1.2 %	17 5.2 %
	北部地域	157 100.0 %	62 39.5 %	61 38.9 %	17 10.8 %	4 2.5 %	2 1.3 %	11 7.0 %
	不明	14 100.0 %	5 35.7 %	6 42.9 %	1 7.1 %	0 0.0 %	1 7.1 %	1 7.1 %

14) 住宅地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性

住宅地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性については、「地域において計画的な土地利用を行い、現状の快適な生活環境を守る」が44.3%と最も多く、次いで「市街地で活用されていない土地を住宅地として有効的に利用する」が22.1%、「住宅地を増やす必要はなく、現状のままでよい」が21.3%となっています。

新たな住宅地の供給や住宅の中高層化よりも、計画的な土地利用や現状の生活環境の維持が求められています。

地域別にみても、同じ傾向にあります。

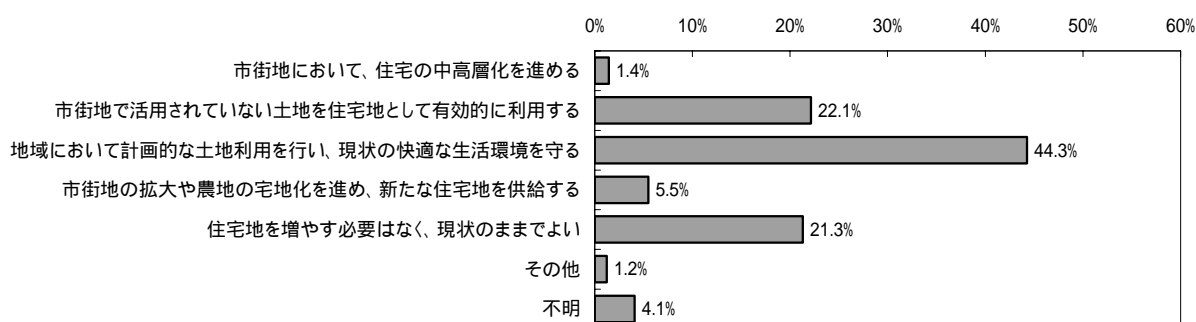


図 住宅地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【全体】

その他の意見

- ・空地、廃屋、空家の有効活用、地域公会所、老人施設、子育て事業などへの転用
- ・宅地造成を名目として山を崩すのはやめてほしい
- ・駅近くに高齢者が利用しやすいマンションを建設する
- ・休耕田を宅地や公園に利用する
- ・身寄りのないお年寄りが死亡した場合、市の所有として土地を売買し財源にあてる など

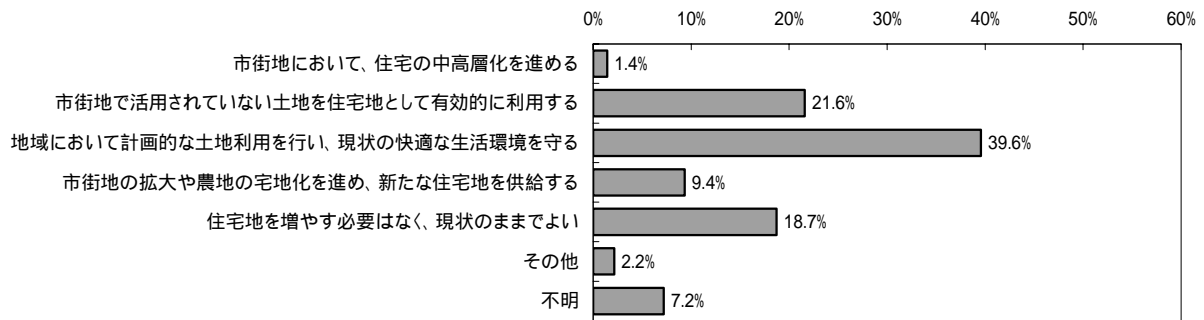


図 住宅地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【東部地域】

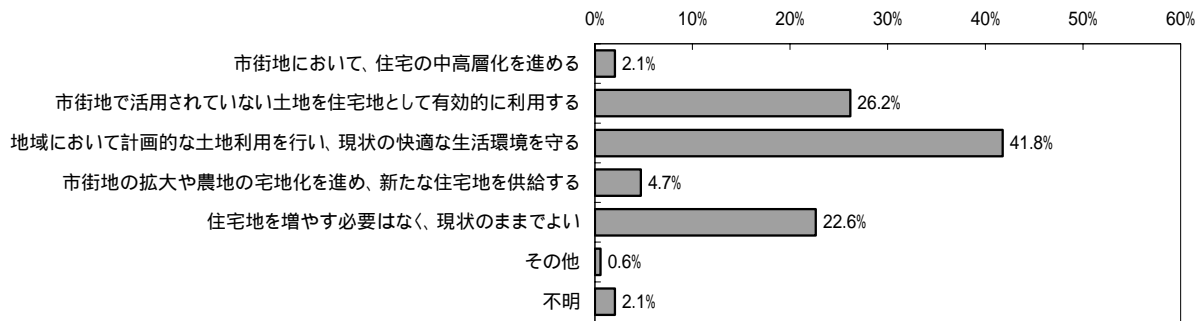


図 住宅地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【西部地域】

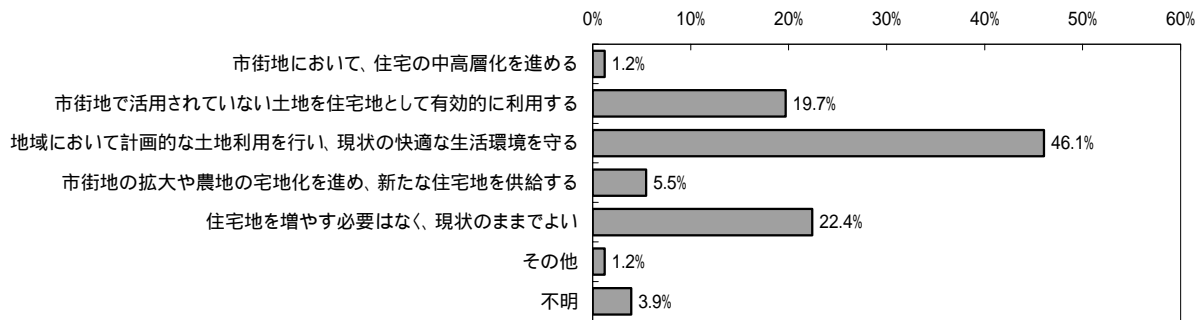


図 住宅地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【南部地域】

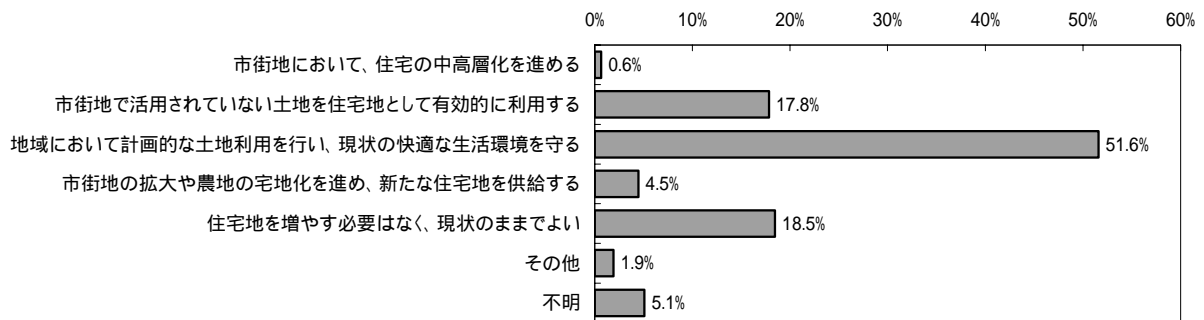


図 住宅地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【北部地域】

表 住宅地の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性（属性別）

		合計	市街地において、住宅の中高層化を進める	市街地で活用されていない土地を住宅地として有効的に利用する	地域において計画的な土地利用を行い、現状の快適な生活環境を守る	市街地の拡大や農地の宅地化を進め、新たな住宅地を供給する	住宅地を増やす必要はなく、現状のまままでよい	その他	不明
全体		980	14	217	434	54	209	12	40
		100.0 %	1.4 %	22.1 %	44.3 %	5.5 %	21.3 %	1.2 %	4.1 %
性別	男性	398	6	74	172	26	97	6	17
		100.0 %	1.5 %	18.6 %	43.2 %	6.5 %	24.4 %	1.5 %	4.3 %
	女性	545	7	131	253	26	103	6	19
		100.0 %	1.3 %	24.0 %	46.4 %	4.8 %	18.9 %	1.1 %	3.5 %
不明	37	1	12	9	2	9	0	4	
		100.0 %	2.7 %	32.4 %	24.3 %	5.4 %	24.3 %	0.0 %	10.8 %
年齢別	10代	22	0	4	12	1	4	1	0
		100.0 %	0.0 %	18.2 %	54.5 %	4.5 %	18.2 %	4.5 %	0.0 %
	20代	57	0	19	22	3	13	0	0
		100.0 %	0.0 %	33.3 %	38.6 %	5.3 %	22.8 %	0.0 %	0.0 %
	30代	98	2	30	36	9	20	1	0
		100.0 %	2.0 %	30.6 %	36.7 %	9.2 %	20.4 %	1.0 %	0.0 %
	40代	128	4	31	61	2	25	3	2
		100.0 %	3.1 %	24.2 %	47.7 %	1.6 %	19.5 %	2.3 %	1.6 %
	50代	148	0	29	64	14	32	3	6
		100.0 %	0.0 %	19.6 %	43.2 %	9.5 %	21.6 %	2.0 %	4.1 %
	60代	270	4	49	136	14	56	3	8
		100.0 %	1.5 %	18.1 %	50.4 %	5.2 %	20.7 %	1.1 %	3.0 %
	70代以上	244	3	52	98	11	57	1	22
		100.0 %	1.2 %	21.3 %	40.2 %	4.5 %	23.4 %	0.4 %	9.0 %
不明	13	1	3	5	0	2	0	2	
		100.0 %	7.7 %	23.1 %	38.5 %	0.0 %	15.4 %	0.0 %	15.4 %
地域別	東部地域	139	2	30	55	13	26	3	10
		100.0 %	1.4 %	21.6 %	39.6 %	9.4 %	18.7 %	2.2 %	7.2 %
	西部地域	340	7	89	142	16	77	2	7
		100.0 %	2.1 %	26.2 %	41.8 %	4.7 %	22.6 %	0.6 %	2.1 %
	南部地域	330	4	65	152	18	74	4	13
		100.0 %	1.2 %	19.7 %	46.1 %	5.5 %	22.4 %	1.2 %	3.9 %
	北部地域	157	1	28	81	7	29	3	8
		100.0 %	0.6 %	17.8 %	51.6 %	4.5 %	18.5 %	1.9 %	5.1 %
不明	14	0	5	4	0	3	0	2	
		100.0 %	0.0 %	35.7 %	28.6 %	0.0 %	21.4 %	0.0 %	14.3 %

15) 農業地域の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性

農業地域の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性については、「農地や山林を積極的に保全する」が54.4%と最も多く、次いで「生活環境を維持するため、住宅などの必要最低限の建設を容認する」が29.2%となっています。

農地や山林を保全し、住宅などの建設を控えることが求められています。
地域別にみても、同じ傾向にあります。

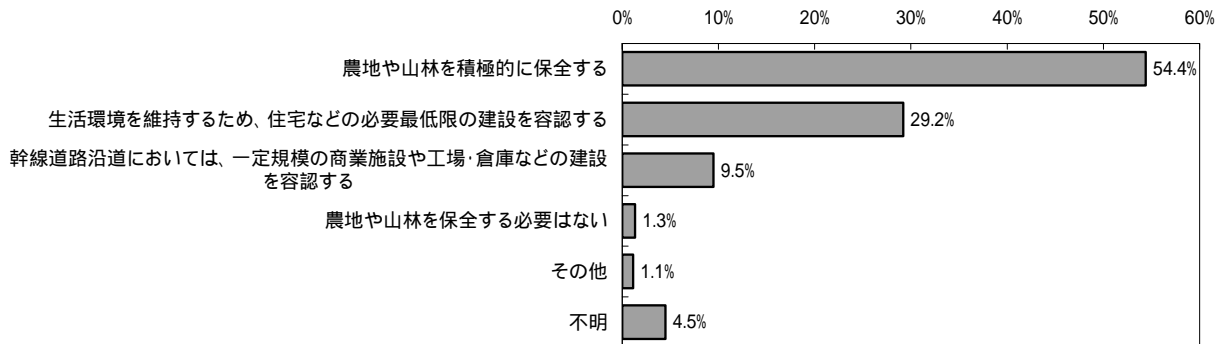


図 農業地域の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【全体】

その他の意見

- ・農地や山林を積極的に利用する
- ・地産地消を前提とした農業と生活が直結した環境地域
- ・幹線道路沿いの市街化調整区域の見直しを図る
- ・熊対策のため里山を整備する など

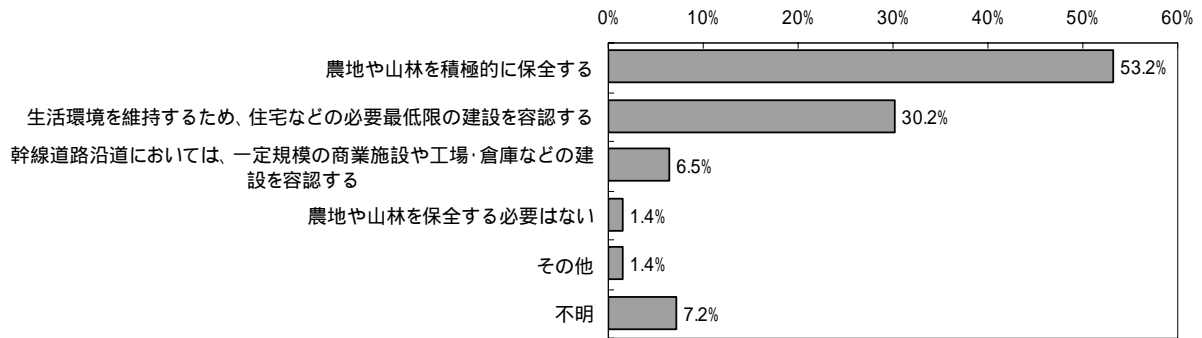


図 農業地域の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【東部地域】

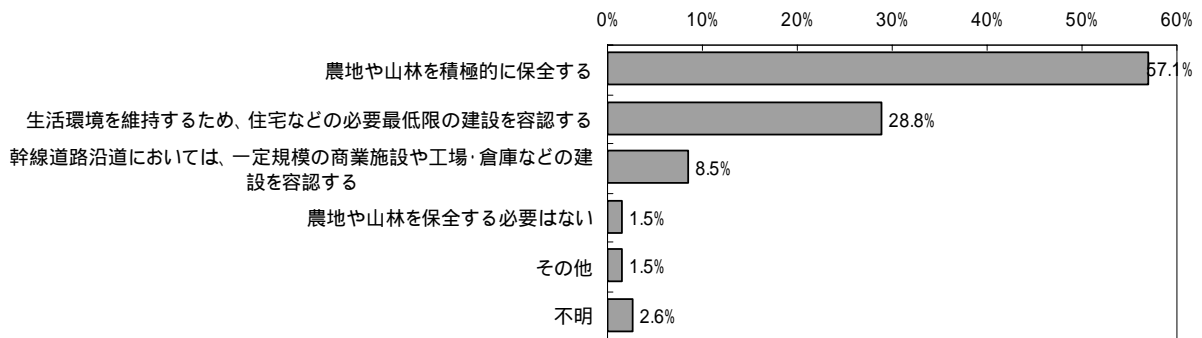


図 農業地域の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【西部地域】

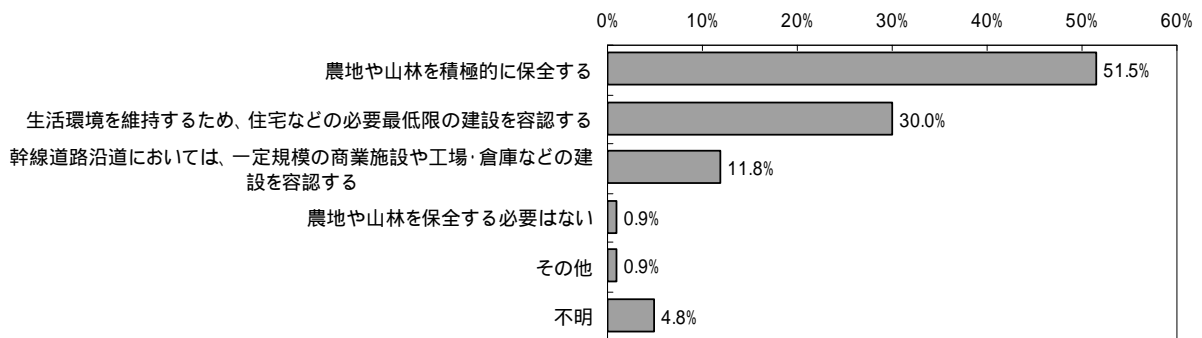


図 農業地域の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【南部地域】

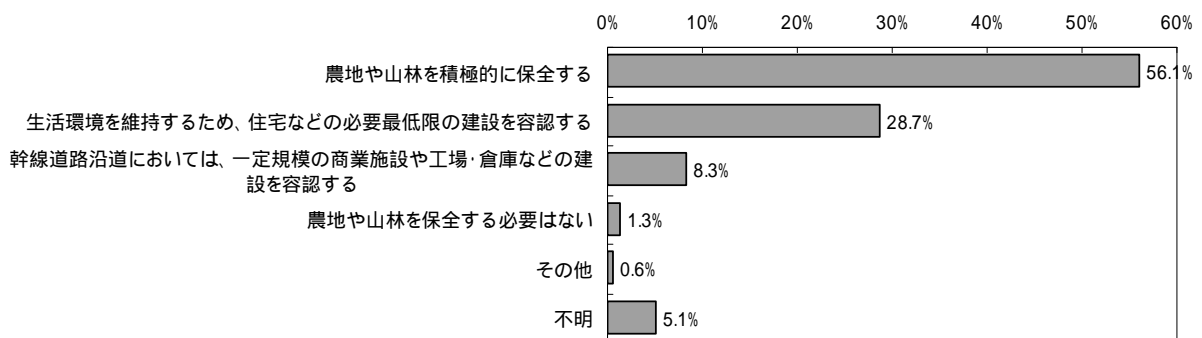


図 農業地域の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性【北部地域】

表 農業地域の今後の土地利用のあり方として、望ましい方向性（属性別）

		合計	農地や山林を積極的に保全する	生活環境を維持するため、住宅などの必要最低限の建設を容認する	幹線道路沿道においては、一定規模の商業施設や工場・倉庫などの建設を容認する	農地や山林を保全する必要はない	その他	不明
全体		980	533	286	93	13	11	44
		100.0 %	54.4 %	29.2 %	9.5 %	1.3 %	1.1 %	4.5 %
性別	男性	398	203	118	50	4	4	19
		100.0 %	51.0 %	29.6 %	12.6 %	1.0 %	1.0 %	4.8 %
	女性	545	308	160	41	9	6	21
	100.0 %	56.5 %	29.4 %	7.5 %	1.7 %	1.1 %	3.9 %	
	不明	37	22	8	2	0	1	4
	100.0 %	59.5 %	21.6 %	5.4 %	0.0 %	2.7 %	10.8 %	
年齢別	10代	22	12	7	0	0	2	1
		100.0 %	54.5 %	31.8 %	0.0 %	0.0 %	9.1 %	4.5 %
	20代	57	33	17	6	1	0	0
		100.0 %	57.9 %	29.8 %	10.5 %	1.8 %	0.0 %	0.0 %
	30代	98	47	34	14	2	1	0
		100.0 %	48.0 %	34.7 %	14.3 %	2.0 %	1.0 %	0.0 %
	40代	128	69	32	23	0	2	2
		100.0 %	53.9 %	25.0 %	18.0 %	0.0 %	1.6 %	1.6 %
50代	148	90	38	14	1	0	5	
	100.0 %	60.8 %	25.7 %	9.5 %	0.7 %	0.0 %	3.4 %	
60代	270	154	73	21	5	5	12	
	100.0 %	57.0 %	27.0 %	7.8 %	1.9 %	1.9 %	4.4 %	
70代以上	244	122	81	13	4	1	23	
	100.0 %	50.0 %	33.2 %	5.3 %	1.6 %	0.4 %	9.4 %	
	不明	13	6	4	2	0	0	1
	100.0 %	46.2 %	30.8 %	15.4 %	0.0 %	0.0 %	7.7 %	
地域別	東部地域	139	74	42	9	2	2	10
		100.0 %	53.2 %	30.2 %	6.5 %	1.4 %	1.4 %	7.2 %
	西部地域	340	194	98	29	5	5	9
		100.0 %	57.1 %	28.8 %	8.5 %	1.5 %	1.5 %	2.6 %
	南部地域	330	170	99	39	3	3	16
		100.0 %	51.5 %	30.0 %	11.8 %	0.9 %	0.9 %	4.8 %
北部地域	157	88	45	13	2	1	8	
	100.0 %	56.1 %	28.7 %	8.3 %	1.3 %	0.6 %	5.1 %	
	不明	14	7	2	3	1	0	1
	100.0 %	50.0 %	14.3 %	21.4 %	7.1 %	0.0 %	7.1 %	

16) 土地利用の制限について、良好な居住環境を形成するために重要なこと

良好な居住環境を形成するための土地利用の制限について重要なことは、「建物の種類や高さの制限は、周辺の居住環境や日当りに問題を生じる場合など必要最小限のみとすることが望ましい」が43.1%と最も多く、次いで「良好な居住環境や周辺の自然環境を守るため、一定の地域ごとに建物の種類や高さを制限することが望ましい」が40.7%となっています。

居住環境や自然環境を守るために、一定の制限を設けることが求められています。

地域別にみると、西部地域では、「良好な居住環境や周辺の自然環境を守るため、一定の地域ごとに建物の種類や高さを制限することが望ましい」が最も多くなっています。

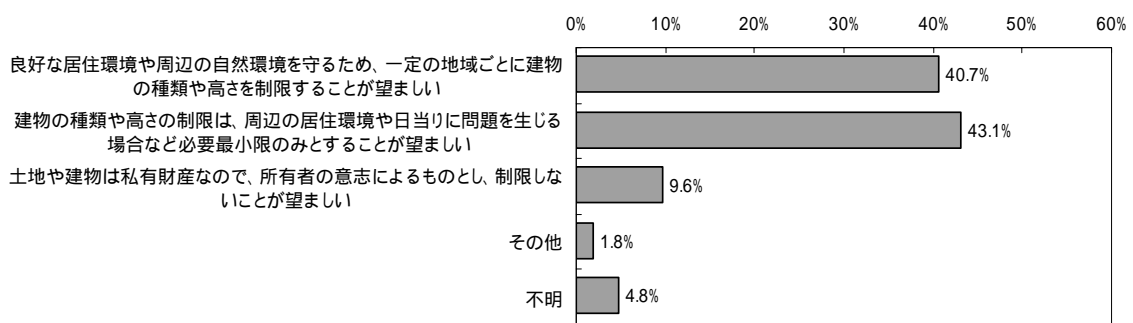


図 土地利用の制限について重要なこと【全体】

その他の意見

- ・生活道路の道幅が狭い
- ・山や田の荒廃による環境の悪化を防ぐ
- ・制限等考えず、人口の減少を止めること
- ・他市に買物など行かなくてもすむような、人が集まるスーパー等をつくる
- ・高齢化むけの飲食店および小売店を誘致してほしい など

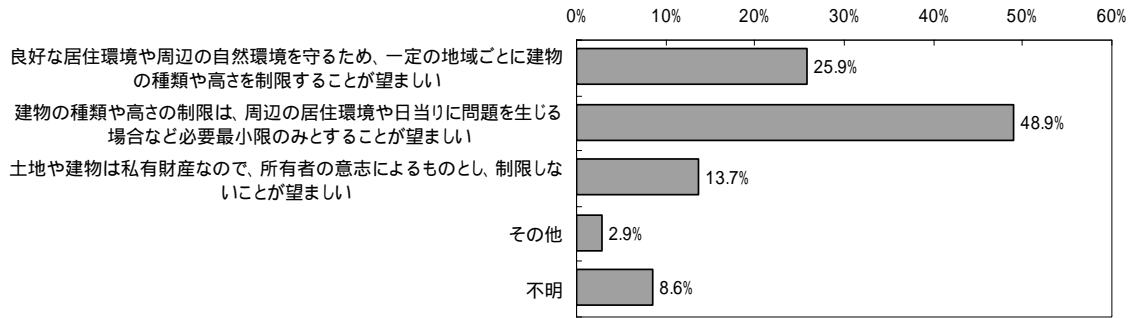


図 土地利用の制限について重要なこと【東部地域】

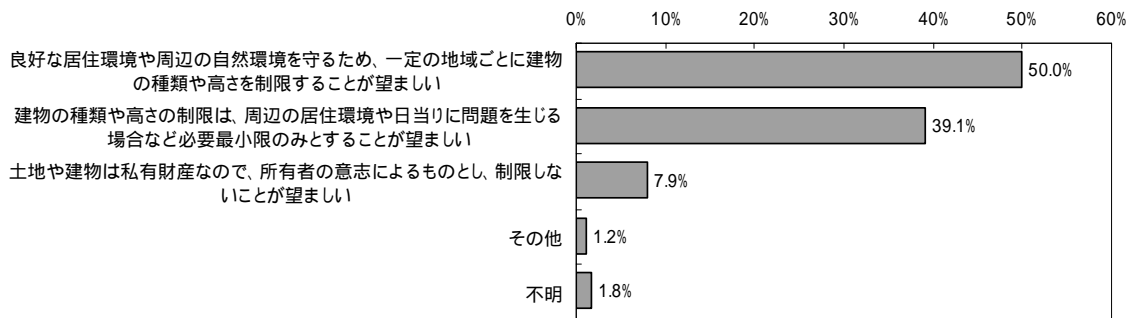


図 土地利用の制限について重要なこと【西部地域】

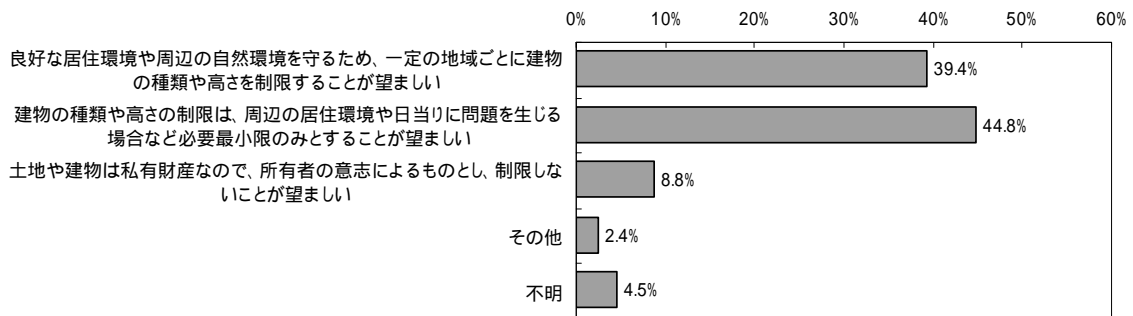


図 土地利用の制限について重要なこと【南部地域】

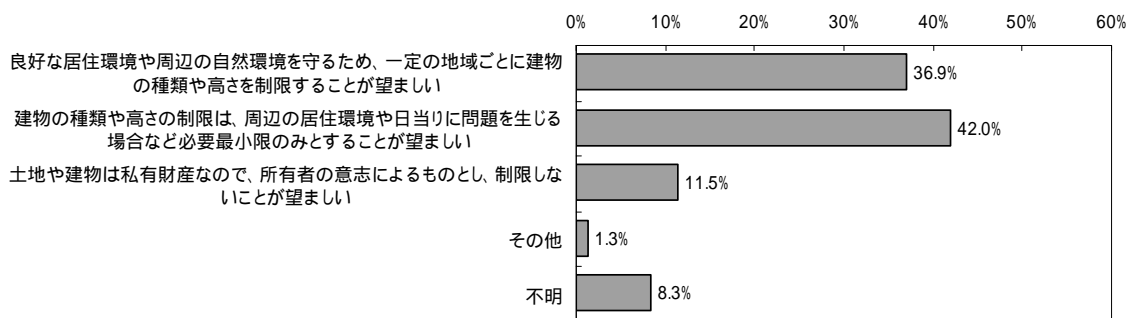


図 土地利用の制限について重要なこと【北部地域】

表 土地利用の制限について重要なこと（属性別）

		合計	良好な居住環境や 周辺の自然環境を 守るため、一定の 地域ごとに建物の 種類や高さを制限 することが望まし い	建物の種類や高さ の制限は、周辺の 居住環境や日当り に問題を生じる場 合など必要最小限 のみとすることが 望ましい	土地や建物は私有 財産なので、所有 者の意志によるも のとし、制限しな いことが望ましい	その他	不明
全体		980 100.0 %	399 40.7 %	422 43.1 %	94 9.6 %	18 1.8 %	47 4.8 %
性別	男性	398 100.0 %	173 43.5 %	158 39.7 %	38 9.5 %	8 2.0 %	21 5.3 %
	女性	545 100.0 %	214 39.3 %	248 45.5 %	52 9.5 %	10 1.8 %	21 3.9 %
	不明	37 100.0 %	12 32.4 %	16 43.2 %	4 10.8 %	0 0.0 %	5 13.5 %
年齢別	10代	22 100.0 %	8 36.4 %	10 45.5 %	0 0.0 %	4 18.2 %	0 0.0 %
	20代	57 100.0 %	26 45.6 %	24 42.1 %	6 10.5 %	0 0.0 %	1 1.8 %
	30代	98 100.0 %	41 41.8 %	53 54.1 %	3 3.1 %	0 0.0 %	1 1.0 %
	40代	128 100.0 %	48 37.5 %	65 50.8 %	10 7.8 %	3 2.3 %	2 1.6 %
	50代	148 100.0 %	68 45.9 %	63 42.6 %	10 6.8 %	4 2.7 %	3 2.0 %
	60代	270 100.0 %	111 41.1 %	108 40.0 %	38 14.1 %	3 1.1 %	10 3.7 %
	70代以上	244 100.0 %	93 38.1 %	94 38.5 %	25 10.2 %	4 1.6 %	28 11.5 %
	不明	13 100.0 %	4 30.8 %	5 38.5 %	2 15.4 %	0 0.0 %	2 15.4 %
地域別	東部地域	139 100.0 %	36 25.9 %	68 48.9 %	19 13.7 %	4 2.9 %	12 8.6 %
	西部地域	340 100.0 %	170 50.0 %	133 39.1 %	27 7.9 %	4 1.2 %	6 1.8 %
	南部地域	330 100.0 %	130 39.4 %	148 44.8 %	29 8.8 %	8 2.4 %	15 4.5 %
	北部地域	157 100.0 %	58 36.9 %	66 42.0 %	18 11.5 %	2 1.3 %	13 8.3 %
	不明	14 100.0 %	5 35.7 %	7 50.0 %	1 7.1 %	0 0.0 %	1 7.1 %

5 分野別の取組について

17) 道路の整備に関して、優先度が高い取組

道路の整備に関して、優先度が高い取組については、「歩行者が安全に通行することのできる歩道の整備」が53.4%と最も多く、次いで「住宅地の道路や通学路など身近な生活道路の整備」が43.8%、「安心して自転車に乗れる自転車専用道路の整備」が31.5%となっています。

広域的な幹線道路よりも、身近な生活道路や歩行者、自転車が安全に通行することのできる道路整備が求められています。

地域別にみると、西部地域では、他の地域と比較して幹線道路の整備に対する優先度が高くなっており、南部地域では、道路景観の整備に対する優先度が高くなっています。

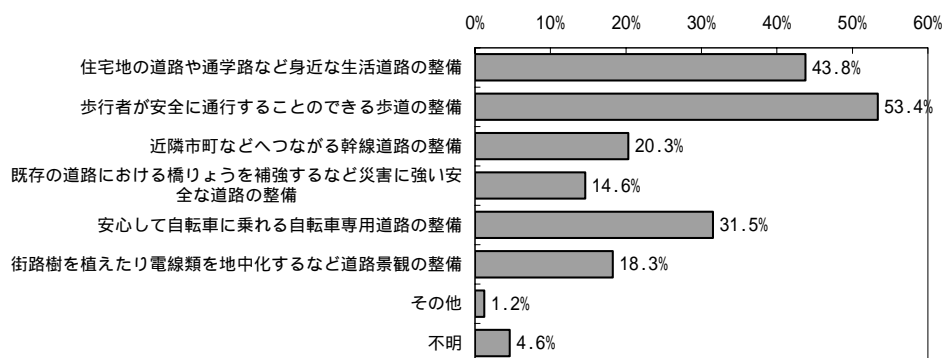


図 道路の整備に関して、優先度が高い取組【全体】

その他の意見

- ・自動車などの流れをスムーズにするため、信号の同期化
- ・外灯を増やす
- ・徳山下松方面への幹線道路の拡大
- ・無駄な整備をしない など

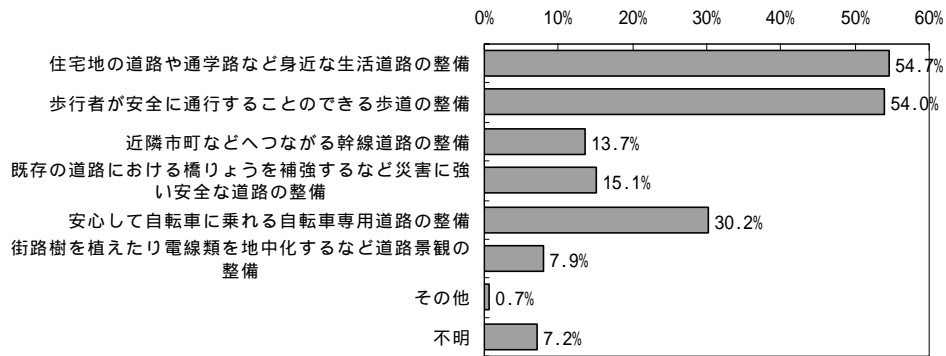


図 道路の整備に関して、優先度が高い取組【東部地域】

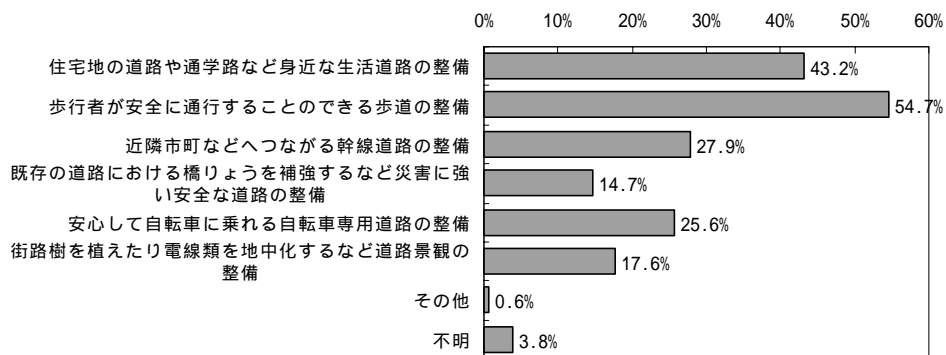


図 道路の整備に関して、優先度が高い取組【西部地域】

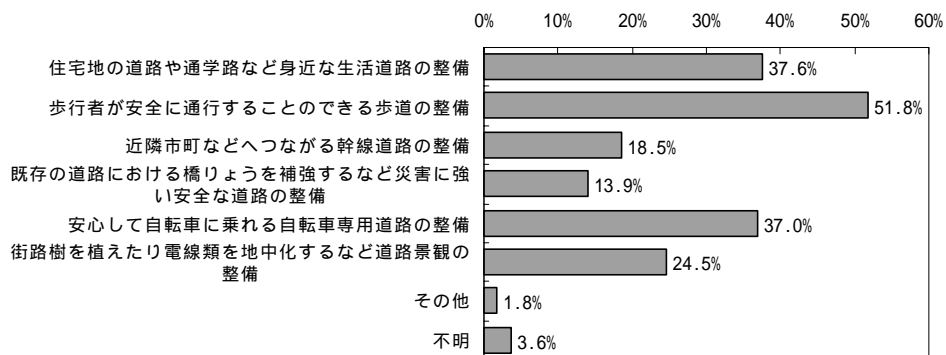


図 道路の整備に関して、優先度が高い取組【南部地域】

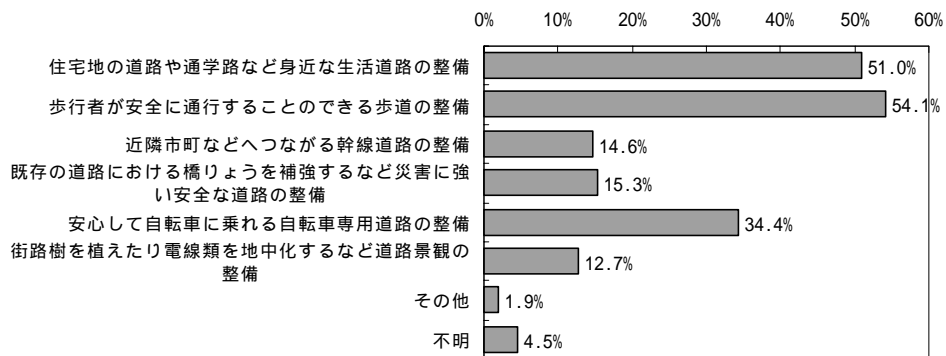


図 道路の整備に関して、優先度が高い取組【北部地域】

表 道路の整備に関して、優先度が高い取組（属性別）

		合計	住宅地の道路や通学路など身近な生活道路の整備	歩行者が安全に通行することのできる歩道の整備	近隣市町などへつながら幹線道路の整備	既存の道路における橋りょうを補強するなど災害に強い安全な道路の整備	安心して自転車に乗れる自転車専用道路の整備	街路樹を植えたり電線類を地中化するなど道路景観の整備	その他	不明
全体		980	429	523	199	143	309	179	12	45
		100.0 %	43.8 %	53.4 %	20.3 %	14.6 %	31.5 %	18.3 %	1.2 %	4.6 %
性別	男性	398	177	206	97	51	120	76	7	15
		100.0 %	44.5 %	51.8 %	24.4 %	12.8 %	30.2 %	19.1 %	1.8 %	3.8 %
	女性	545	242	304	96	91	176	91	5	23
		100.0 %	44.4 %	55.8 %	17.6 %	16.7 %	32.3 %	16.7 %	0.9 %	4.2 %
不明	37	10	13	6	1	13	12	0	7	
		100.0 %	27.0 %	35.1 %	16.2 %	2.7 %	35.1 %	32.4 %	0.0 %	18.9 %
年齢別	10代	22	12	10	1	3	12	3	1	0
		100.0 %	54.5 %	45.5 %	4.5 %	13.6 %	54.5 %	13.6 %	4.5 %	0.0 %
	20代	57	31	33	14	5	15	7	1	1
		100.0 %	54.4 %	57.9 %	24.6 %	8.8 %	26.3 %	12.3 %	1.8 %	1.8 %
	30代	98	54	43	28	20	24	19	0	1
		100.0 %	55.1 %	43.9 %	28.6 %	20.4 %	24.5 %	19.4 %	0.0 %	1.0 %
	40代	128	64	59	32	19	52	15	2	2
		100.0 %	50.0 %	46.1 %	25.0 %	14.8 %	40.6 %	11.7 %	1.6 %	1.6 %
	50代	148	68	71	43	21	38	37	2	4
		100.0 %	45.9 %	48.0 %	29.1 %	14.2 %	25.7 %	25.0 %	1.4 %	2.7 %
	60代	270	109	142	56	42	87	48	3	17
		100.0 %	40.4 %	52.6 %	20.7 %	15.6 %	32.2 %	17.8 %	1.1 %	6.3 %
	70代以上	244	88	158	24	33	77	45	3	17
		100.0 %	36.1 %	64.8 %	9.8 %	13.5 %	31.6 %	18.4 %	1.2 %	7.0 %
不明	13	3	7	1	0	4	5	0	3	
		100.0 %	23.1 %	53.8 %	7.7 %	0.0 %	30.8 %	38.5 %	0.0 %	23.1 %
地域別	東部地域	139	76	75	19	21	42	11	1	10
		100.0 %	54.7 %	54.0 %	13.7 %	15.1 %	30.2 %	7.9 %	0.7 %	7.2 %
	西部地域	340	147	186	95	50	87	60	2	13
		100.0 %	43.2 %	54.7 %	27.9 %	14.7 %	25.6 %	17.6 %	0.6 %	3.8 %
	南部地域	330	124	171	61	46	122	81	6	12
		100.0 %	37.6 %	51.8 %	18.5 %	13.9 %	37.0 %	24.5 %	1.8 %	3.6 %
	北部地域	157	80	85	23	24	54	20	3	7
100.0 %		51.0 %	54.1 %	14.6 %	15.3 %	34.4 %	12.7 %	1.9 %	4.5 %	
不明	14	2	6	1	2	4	7	0	3	
		100.0 %	14.3 %	42.9 %	7.1 %	14.3 %	28.6 %	50.0 %	0.0 %	21.4 %

18) 良好な居住環境の形成に関して、優先度が高い取組

良好な居住環境の形成に関して、優先度が高い取組については、「上下水道や周辺の生活関連施設など生活基盤を充実する」が46.1%と最も多く、次いで「広場や緑地などを配置し、ゆとりある住環境づくりを進める」が38.7%となっています。

上下水道の整備や広場、緑地の配置など、身近な住環境づくりの優先度が高くなっています。

地域別にみると、東部地域と北部地域において「上下水道や周辺の生活関連施設など生活基盤を充実する」が突出して多くなっており、生活基盤の充実が求められていることが分かります。また、西部地域においては、「広場や緑地などを配置し、ゆとりある住環境づくりを進める」が最も多くなっています。

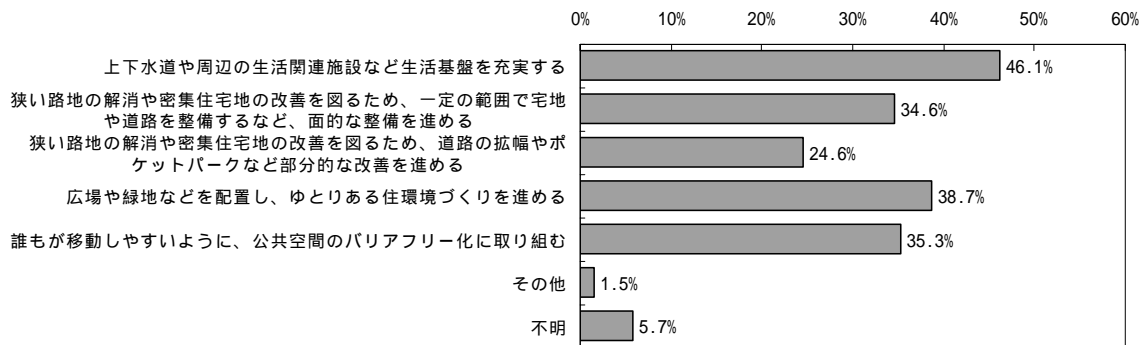


図 良好な居住環境の形成に関して、優先度が高い取組【全体】

その他の意見

- ・外灯の整備
- ・放置された農地、山、空き家などは安全や景観を考える
- ・団地の道路の補修
- ・一人ひとりが見に周りの美化に気をつける
- ・憩いの場、温泉、道の駅などの整備 など

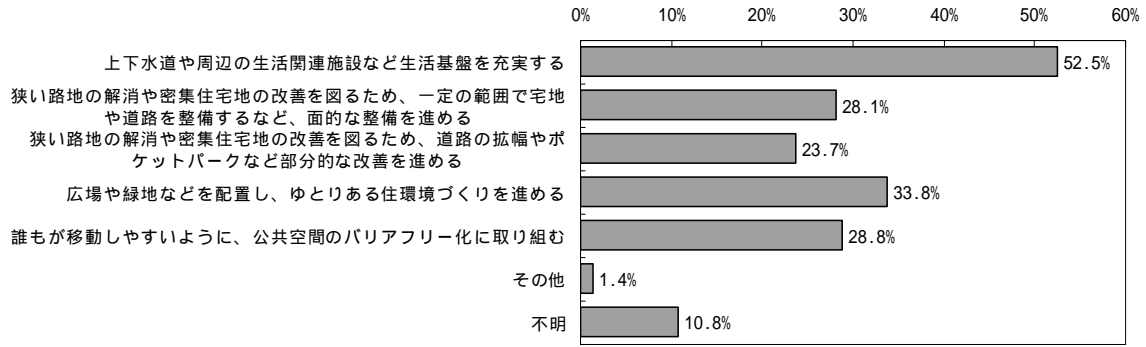


図 良好な居住環境の形成に関して、優先度が高い取組【東部地域】

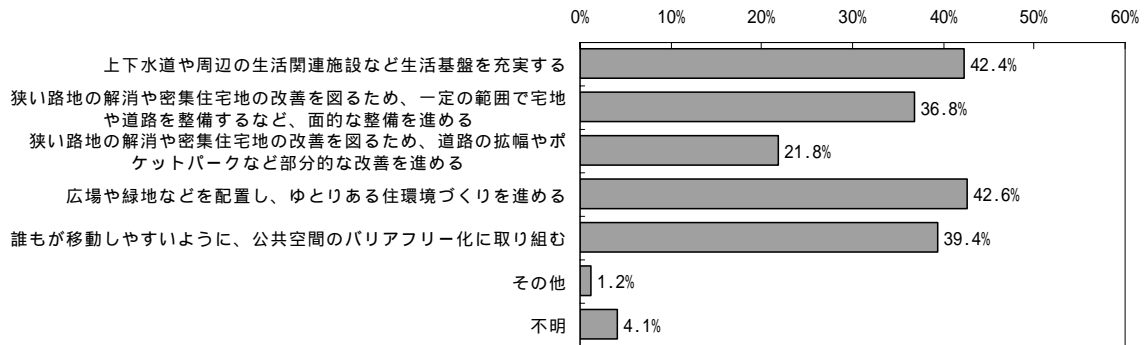


図 良好な居住環境の形成に関して、優先度が高い取組【西部地域】

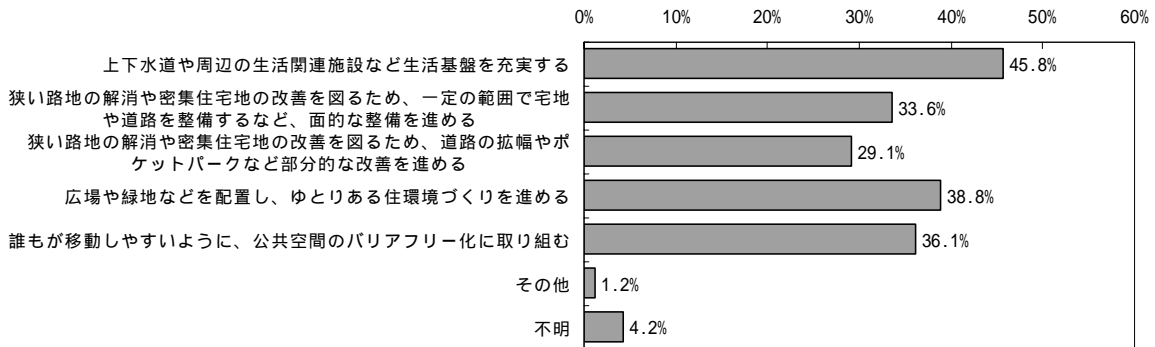


図 良好な居住環境の形成に関して、優先度が高い取組【南部地域】

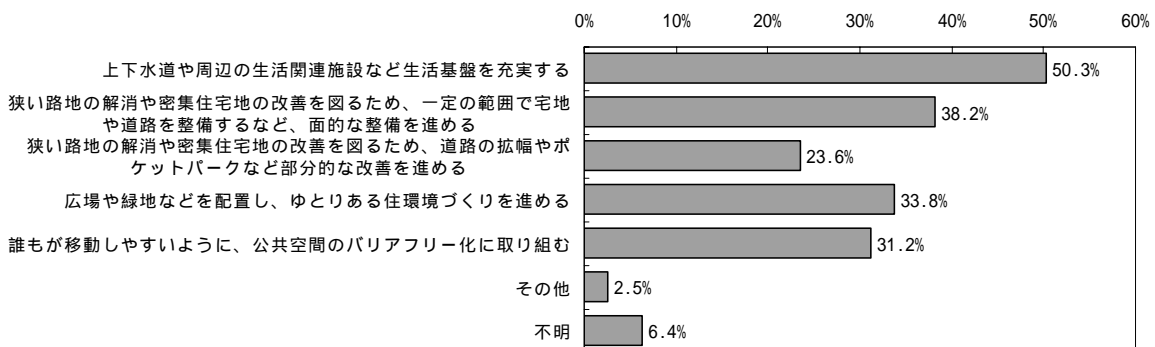


図 良好な居住環境の形成に関して、優先度が高い取組【北部地域】

表 良好な居住環境の形成に関して、優先度が高い取組（属性別）

		合計	上下水道や周辺の生活関連施設など生活基盤を充実する	狭い路地の解消や密集住宅地の改善を図るため、一定の範囲で宅地や道路を整備するなど、面的な整備を進める	狭い路地の解消や密集住宅地の改善を図るため、道路の拡幅やポケットパークなど部分的な改善を進める	広場や緑地などを配置し、ゆとりある住環境づくりを進める	誰もが移動しやすいように、公共空間のバリアフリー化に取り組む	その他	不明
全体		980 100.0 %	452 46.1 %	339 34.6 %	241 24.6 %	379 38.7 %	346 35.3 %	15 1.5 %	56 5.7 %
性別	男性	398 100.0 %	186 46.7 %	152 38.2 %	108 27.1 %	152 38.2 %	116 29.1 %	8 2.0 %	20 5.0 %
	女性	545 100.0 %	255 46.8 %	171 31.4 %	127 23.3 %	213 39.1 %	221 40.6 %	7 1.3 %	29 5.3 %
	不明	37 100.0 %	11 29.7 %	16 43.2 %	6 16.2 %	14 37.8 %	9 24.3 %	0 0.0 %	7 18.9 %
年齢別	10代	22 100.0 %	10 45.5 %	6 27.3 %	3 13.6 %	9 40.9 %	11 50.0 %	2 9.1 %	0 0.0 %
	20代	57 100.0 %	17 29.8 %	22 38.6 %	13 22.8 %	28 49.1 %	29 50.9 %	0 0.0 %	0 0.0 %
	30代	98 100.0 %	39 39.8 %	33 33.7 %	34 34.7 %	52 53.1 %	28 28.6 %	0 0.0 %	1 1.0 %
	40代	128 100.0 %	67 52.3 %	40 31.3 %	38 29.7 %	39 30.5 %	54 42.2 %	1 0.8 %	4 3.1 %
	50代	148 100.0 %	67 45.3 %	56 37.8 %	31 20.9 %	55 37.2 %	63 42.6 %	4 2.7 %	5 3.4 %
	60代	270 100.0 %	141 52.2 %	91 33.7 %	66 24.4 %	99 36.7 %	79 29.3 %	7 2.6 %	18 6.7 %
	70代以上	244 100.0 %	108 44.3 %	85 34.8 %	53 21.7 %	93 38.1 %	78 32.0 %	1 0.4 %	25 10.2 %
	不明	13 100.0 %	3 23.1 %	6 46.2 %	3 23.1 %	4 30.8 %	4 30.8 %	0 0.0 %	3 23.1 %
地域別	東部地域	139 100.0 %	73 52.5 %	39 28.1 %	33 23.7 %	47 33.8 %	40 28.8 %	2 1.4 %	15 10.8 %
	西部地域	340 100.0 %	144 42.4 %	125 36.8 %	74 21.8 %	145 42.6 %	134 39.4 %	4 1.2 %	14 4.1 %
	南部地域	330 100.0 %	151 45.8 %	111 33.6 %	96 29.1 %	128 38.8 %	119 36.1 %	4 1.2 %	14 4.2 %
	北部地域	157 100.0 %	79 50.3 %	60 38.2 %	37 23.6 %	53 33.8 %	49 31.2 %	4 2.5 %	10 6.4 %
	不明	14 100.0 %	5 35.7 %	4 28.6 %	1 7.1 %	6 42.9 %	4 28.6 %	1 7.1 %	3 21.4 %

19) 防災対策に関して、優先度が高い取組

防災対策に関して、優先度が高い取組については、「避難場所になる学校施設などの耐震化の促進」が49.1%と最も多く、次いで「災害・防災情報等を伝達する手段としての情報通信システムの整備」が29.2%、「河川や海岸の堤防を整備するなど治水対策の実施」が28.2%となっています。

避難場所になる施設の耐震性の強化を図ることが求められています。

地域別にみると、北部地域では、他の地域と比較して「河川や海岸の堤防を整備するなど治水対策の実施」が多くなっており、島田川上流における治水対策が求められていることがうかがえます。

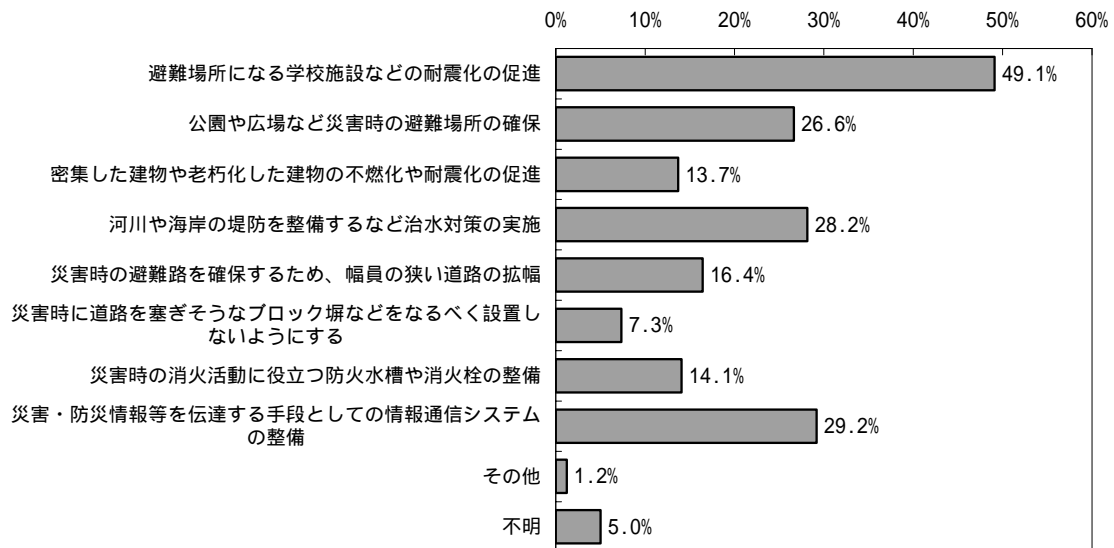


図 防災対策に関して、優先度が高い取組【全体】

その他の意見

- ・火災が発生した際の消化水の確保
- ・近隣都市との支援関係
- ・集中豪雨対策として、道路の水はけの改良
- ・避難所の場所、方法の周知徹底 など

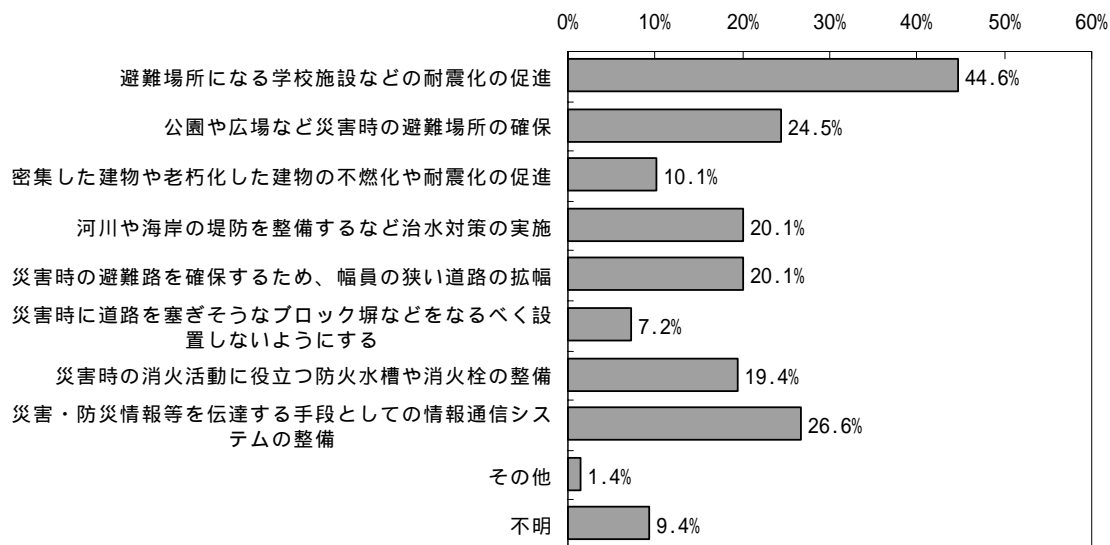


図 防災対策に関して、優先度が高い取組【東部地域】

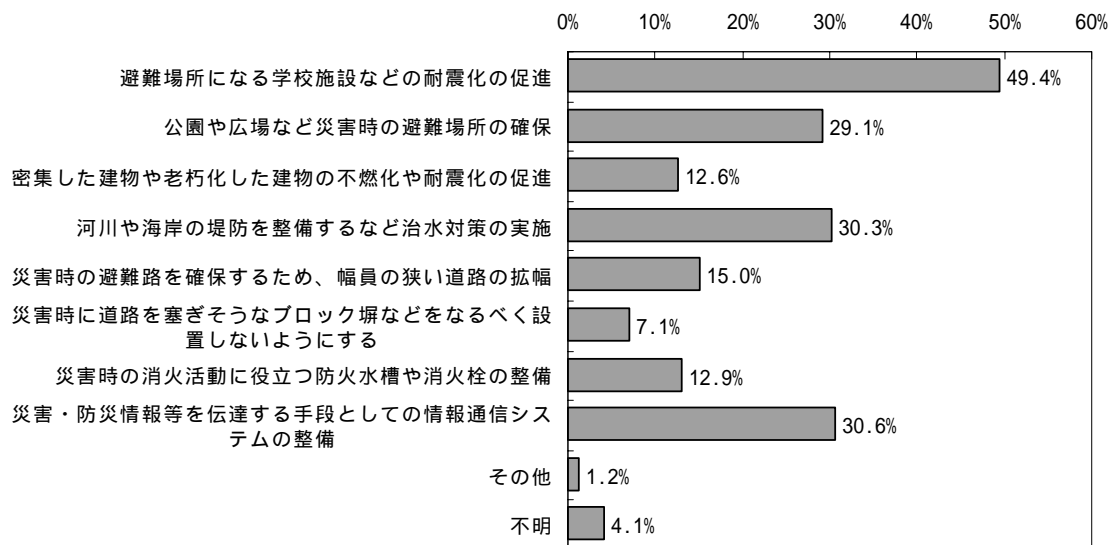


図 防災対策に関して、優先度が高い取組【西部地域】

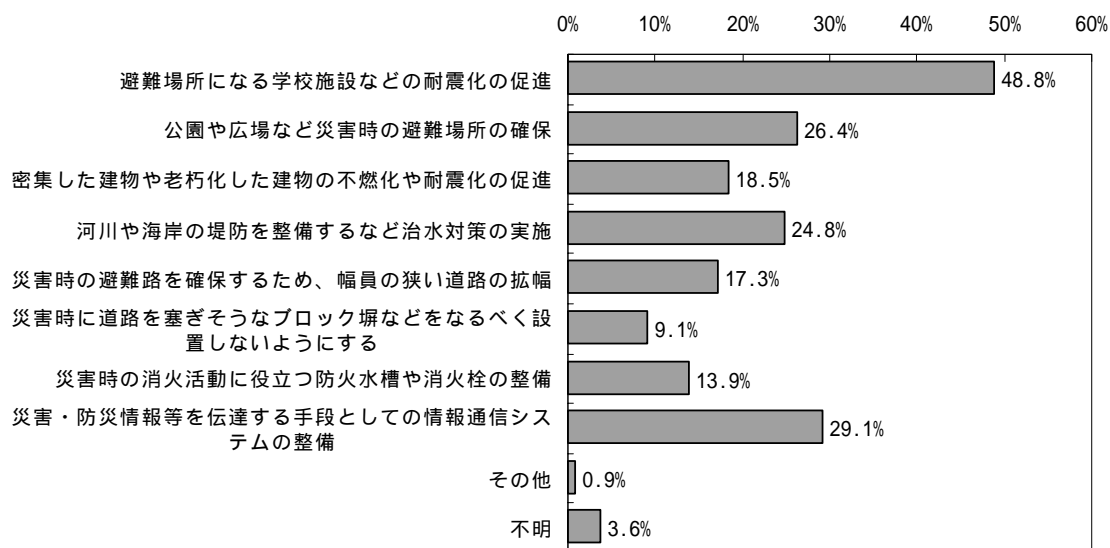


図 防災対策に関して、優先度が高い取組【南部地域】

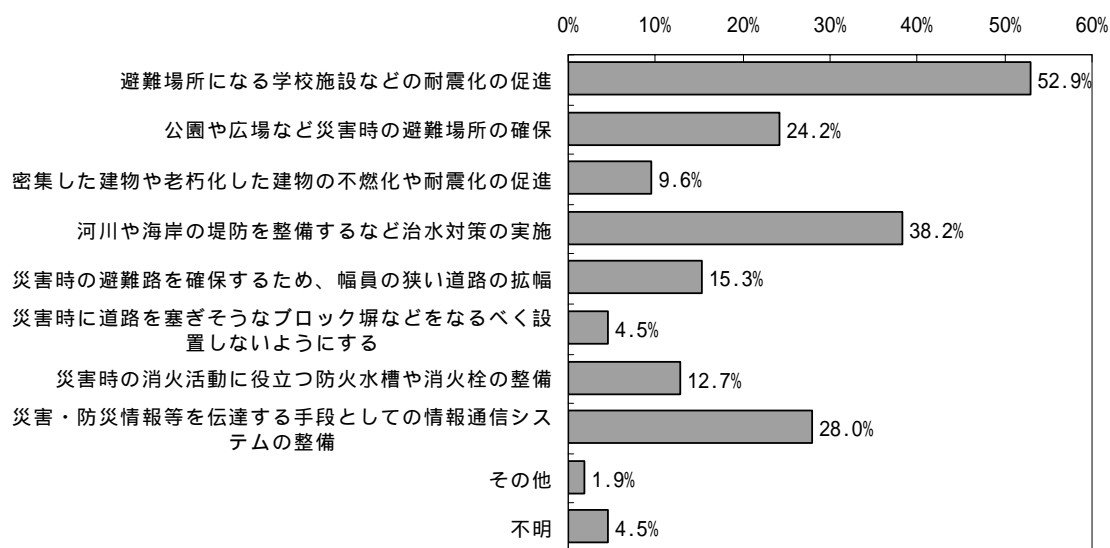


図 防災対策に関して、優先度が高い取組【北部地域】

表 防災対策に関して、優先度が高い取組（属性別）

		合計	避難場所になる学校施設などの耐震化の促進	公園や広場など災害時の避難場所の確保	密集した建物や老朽化した建物の不燃化や耐震化の促進	河川や海岸の堤防を整備するなど治水対策の実施	災害時の避難路を確保するため、幅員の狭い道路の拡幅	災害時に道路を塞ぎそうなブロック塀などをなるべく設置しないようにする	災害時の消火活動に役立つ防火水槽や消火栓の整備	災害・防災情報等を伝達する手段としての情報通信システムの整備	その他	不明	
全体		980	481	261	134	276	161	72	138	286	12	49	
		100.0 %	49.1 %	26.6 %	13.7 %	28.2 %	16.4 %	7.3 %	14.1 %	29.2 %	1.2 %	5.0 %	
性別	男性	398	191	110	51	114	75	32	57	111	5	17	
		100.0 %	48.0 %	27.6 %	12.8 %	28.6 %	18.8 %	8.0 %	14.3 %	27.9 %	1.3 %	4.3 %	
	女性	545	281	143	81	150	82	36	76	163	7	25	
		100.0 %	51.6 %	26.2 %	14.9 %	27.5 %	15.0 %	6.6 %	13.9 %	29.9 %	1.3 %	4.6 %	
	不明	37	9	8	2	12	4	4	5	12	0	7	
		100.0 %	24.3 %	21.6 %	5.4 %	32.4 %	10.8 %	10.8 %	13.5 %	32.4 %	0.0 %	18.9 %	
年齢別	10代	22	13	5	4	3	2	1	3	9	2	0	
		100.0 %	59.1 %	22.7 %	18.2 %	13.6 %	9.1 %	4.5 %	13.6 %	40.9 %	9.1 %	0.0 %	
	20代	57	29	14	12	13	15	2	9	17	1	0	
		100.0 %	50.9 %	24.6 %	21.1 %	22.8 %	26.3 %	3.5 %	15.8 %	29.8 %	1.8 %	0.0 %	
	30代	98	53	25	23	27	19	8	6	28	2	1	
		100.0 %	54.1 %	25.5 %	23.5 %	27.6 %	19.4 %	8.2 %	6.1 %	28.6 %	2.0 %	1.0 %	
	40代	128	69	33	24	32	22	11	9	42	1	4	
		100.0 %	53.9 %	25.8 %	18.8 %	25.0 %	17.2 %	8.6 %	7.0 %	32.8 %	0.8 %	3.1 %	
	50代	148	70	40	18	42	28	11	26	47	4	4	
		100.0 %	47.3 %	27.0 %	12.2 %	28.4 %	18.9 %	7.4 %	17.6 %	31.8 %	2.7 %	2.7 %	
	60代	270	132	77	34	83	37	15	40	71	1	17	
		100.0 %	48.9 %	28.5 %	12.6 %	30.7 %	13.7 %	5.6 %	14.8 %	26.3 %	0.4 %	6.3 %	
	70代以上	244	109	65	18	72	37	24	44	68	1	20	
		100.0 %	44.7 %	26.6 %	7.4 %	29.5 %	15.2 %	9.8 %	18.0 %	27.9 %	0.4 %	8.2 %	
	不明	13	6	2	1	4	1	0	1	4	0	3	
		100.0 %	46.2 %	15.4 %	7.7 %	30.8 %	7.7 %	0.0 %	7.7 %	30.8 %	0.0 %	23.1 %	
	地域別	東部地域	139	62	34	14	28	28	10	27	37	2	13
			100.0 %	44.6 %	24.5 %	10.1 %	20.1 %	20.1 %	7.2 %	19.4 %	26.6 %	1.4 %	9.4 %
西部地域		340	168	99	43	103	51	24	44	104	4	14	
		100.0 %	49.4 %	29.1 %	12.6 %	30.3 %	15.0 %	7.1 %	12.9 %	30.6 %	1.2 %	4.1 %	
南部地域		330	161	87	61	82	57	30	46	96	3	12	
		100.0 %	48.8 %	26.4 %	18.5 %	24.8 %	17.3 %	9.1 %	13.9 %	29.1 %	0.9 %	3.6 %	
北部地域		157	83	38	15	60	24	7	20	44	3	7	
		100.0 %	52.9 %	24.2 %	9.6 %	38.2 %	15.3 %	4.5 %	12.7 %	28.0 %	1.9 %	4.5 %	
不明		14	7	3	1	3	1	1	1	5	0	3	
		100.0 %	50.0 %	21.4 %	7.1 %	21.4 %	7.1 %	7.1 %	7.1 %	35.7 %	0.0 %	21.4 %	

20) 環境に関して、優先度が高い取組

環境に関して、優先度が高い取組については、「ごみの発生を抑え、リサイクルを推進するなど、資源が循環する社会を目指す」が49.5%と最も多く、次いで「自然の保水機能や浄化機能を守るため、河川や森林、農地を保全する」が43.6%となっています。

循環型社会の形成の推進や自然環境の保全に関する市民意識が高いことがわかります。

地域別にみると、北部地域では自然環境を保全することが最も多くなっており、南部地域では市民や行政などが一体となった環境保全活動を進めることが他の地域より多くなっています。

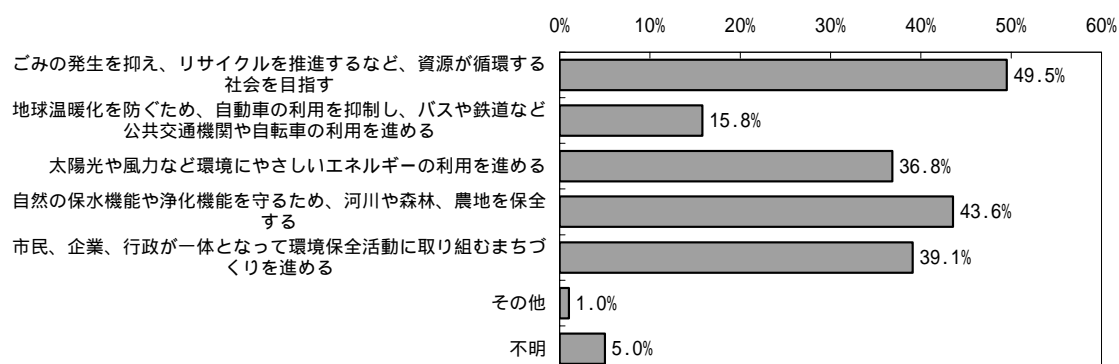


図 環境に関して、優先度が高い取組【全体】

その他の意見

- ・CO₂削減に取り組むため、電気自動車の自動車購入時の補助金制度
- ・騒音、振動、悪臭等の公害対策
- ・リサイクル推進のため、自治会による定期的廃品回収 など

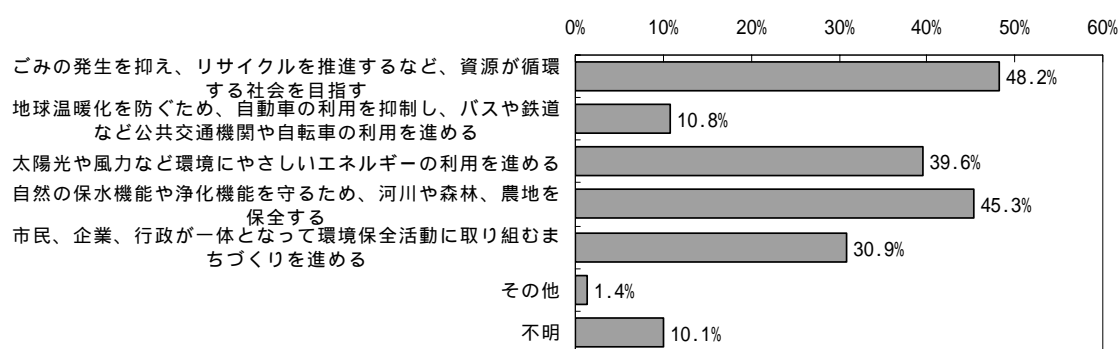


図 環境に関して、優先度が高い取組【東部地域】

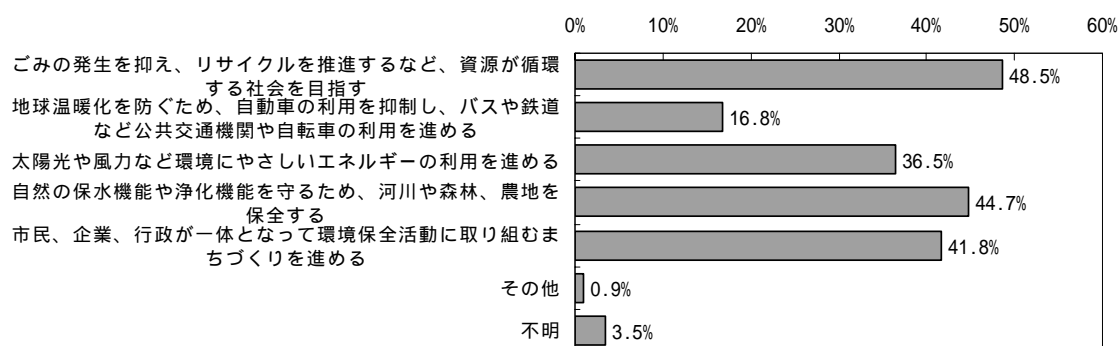


図 環境に関して、優先度が高い取組【西部地域】

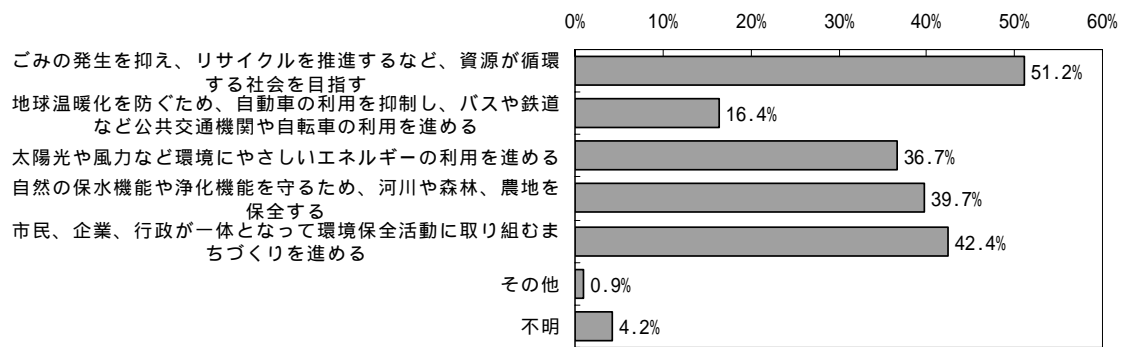


図 環境に関して、優先度が高い取組【南部地域】

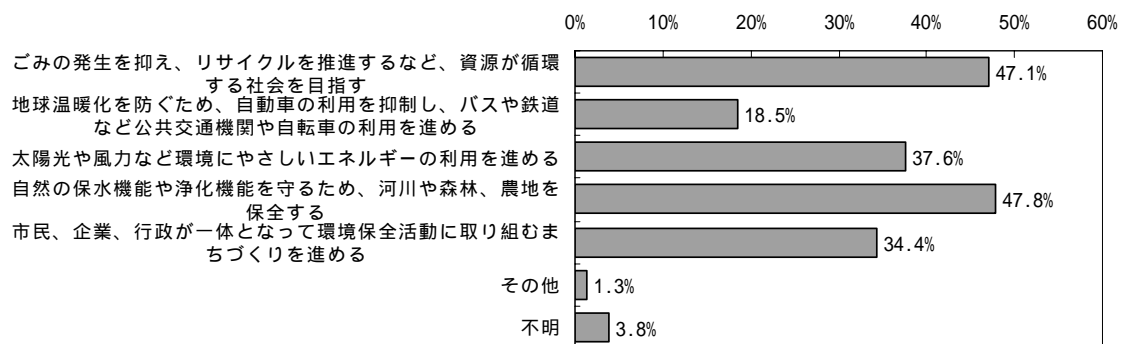


図 環境に関して、優先度が高い取組【北部地域】

表 環境に関して、優先度が高い取組（属性別）

		合計	ごみの発生を抑え、リサイクルを推進するなど、資源が循環する社会を目指す	地球温暖化を防ぐため、自動車の利用を抑制し、バスや鉄道など公共交通機関や自転車の利用を進める	太陽光や風力など環境にやさしいエネルギーの利用を進める	自然の保水機能や浄化機能を守るため、河川や森林、農地を保全する	市民、企業、行政が一体となって環境保全活動に取り組むまちづくりを進める	その他	不明
全体		980	485	155	361	427	383	10	49
		100.0 %	49.5 %	15.8 %	36.8 %	43.6 %	39.1 %	1.0 %	5.0 %
性別	男性	398	178	69	144	177	168	5	18
		100.0 %	44.7 %	17.3 %	36.2 %	44.5 %	42.2 %	1.3 %	4.5 %
	女性	545	287	82	205	236	209	4	24
		100.0 %	52.7 %	15.0 %	37.6 %	43.3 %	38.3 %	0.7 %	4.4 %
	不明	37	20	4	12	14	6	1	7
		100.0 %	54.1 %	10.8 %	32.4 %	37.8 %	16.2 %	2.7 %	18.9 %
年齢別	10代	22	12	2	12	6	8	2	0
		100.0 %	54.5 %	9.1 %	54.5 %	27.3 %	36.4 %	9.1 %	0.0 %
	20代	57	17	11	33	24	25	0	1
		100.0 %	29.8 %	19.3 %	57.9 %	42.1 %	43.9 %	0.0 %	1.8 %
	30代	98	47	12	58	43	33	1	1
		100.0 %	48.0 %	12.2 %	59.2 %	43.9 %	33.7 %	1.0 %	1.0 %
	40代	128	64	15	56	56	52	3	3
		100.0 %	50.0 %	11.7 %	43.8 %	43.8 %	40.6 %	2.3 %	2.3 %
	50代	148	78	18	53	77	55	1	4
		100.0 %	52.7 %	12.2 %	35.8 %	52.0 %	37.2 %	0.7 %	2.7 %
60代	270	139	43	76	114	116	1	17	
	100.0 %	51.5 %	15.9 %	28.1 %	42.2 %	43.0 %	0.4 %	6.3 %	
70代以上	244	120	54	70	101	91	2	20	
	100.0 %	49.2 %	22.1 %	28.7 %	41.4 %	37.3 %	0.8 %	8.2 %	
	不明	13	8	0	3	6	3	0	3
		100.0 %	61.5 %	0.0 %	23.1 %	46.2 %	23.1 %	0.0 %	23.1 %
地域別	東部地域	139	67	15	55	63	43	2	14
		100.0 %	48.2 %	10.8 %	39.6 %	45.3 %	30.9 %	1.4 %	10.1 %
	西部地域	340	165	57	124	152	142	3	12
		100.0 %	48.5 %	16.8 %	36.5 %	44.7 %	41.8 %	0.9 %	3.5 %
	南部地域	330	169	54	121	131	140	3	14
		100.0 %	51.2 %	16.4 %	36.7 %	39.7 %	42.4 %	0.9 %	4.2 %
北部地域	157	74	29	59	75	54	2	6	
	100.0 %	47.1 %	18.5 %	37.6 %	47.8 %	34.4 %	1.3 %	3.8 %	
	不明	14	10	0	2	6	4	0	3
		100.0 %	71.4 %	0.0 %	14.3 %	42.9 %	28.6 %	0.0 %	21.4 %

21) 景観形成に関して、優先度が高い取組

景観形成に関して、優先度が高い取組については、「道路や公園などの公共施設のうち良好な景観を形成するうえで重要なものについて、周辺と調和した整備を行い、良好な景観のシンボルとし、景観形成を誘導する」が53.0%と最も多く、次いで「市民、企業、行政が一体となって、良好な景観形成の普及、啓発を進める」が33.4%、「地域における重要な建物や樹木について、重点的に保全する」が27.3%となっています。

良好な景観のシンボルとなるような公共施設の整備とともに、良好な景観形成の普及、啓発を進めることが求められています。

地域別にみると、西部地域では、他の地域と比較して「景観形成に重要な特定の地区において一定の規制を設け、建物の高さや外壁の色などを規制し、景観形成を誘導する」が多くっており、良好な景観形成のための規制についての意識が高いことが推測できます。

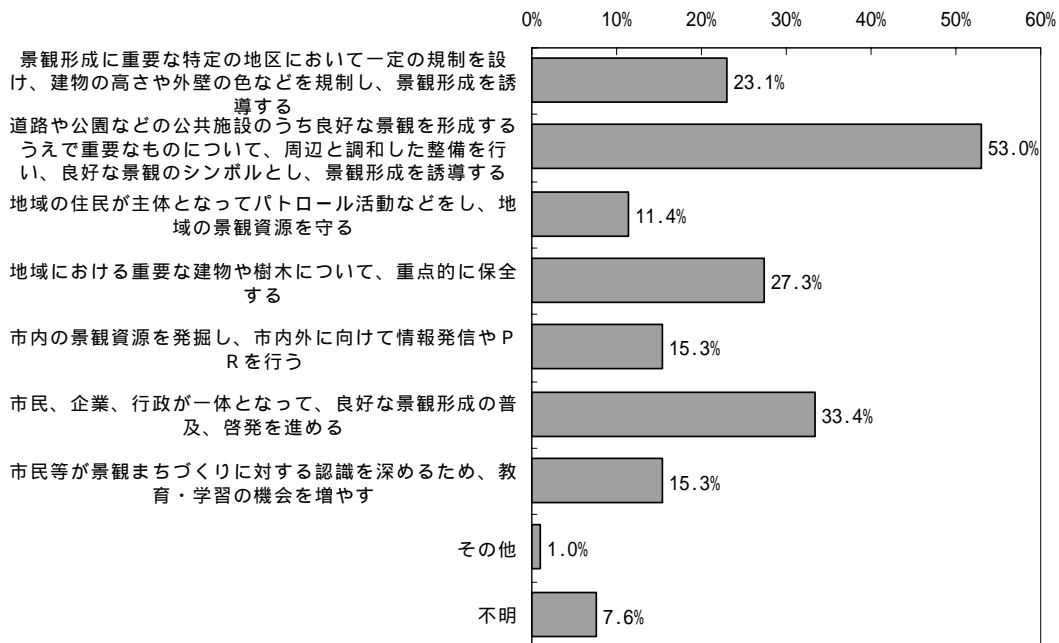


図 景観形成に関して、優先度が高い取組【全体】

その他の意見

- ・パチンコ、風俗等の店の出店を規制する
- ・シンガポールのようにごみのポイ捨てには罰金をとる など

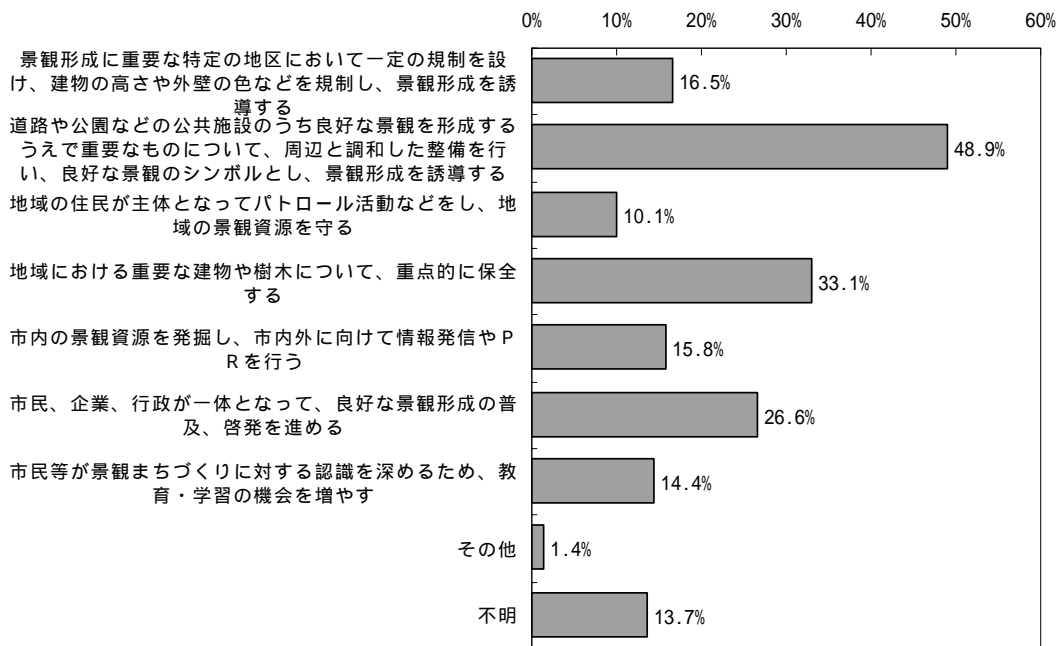


図 景観形成に関して、優先度が高い取組【東部地域】

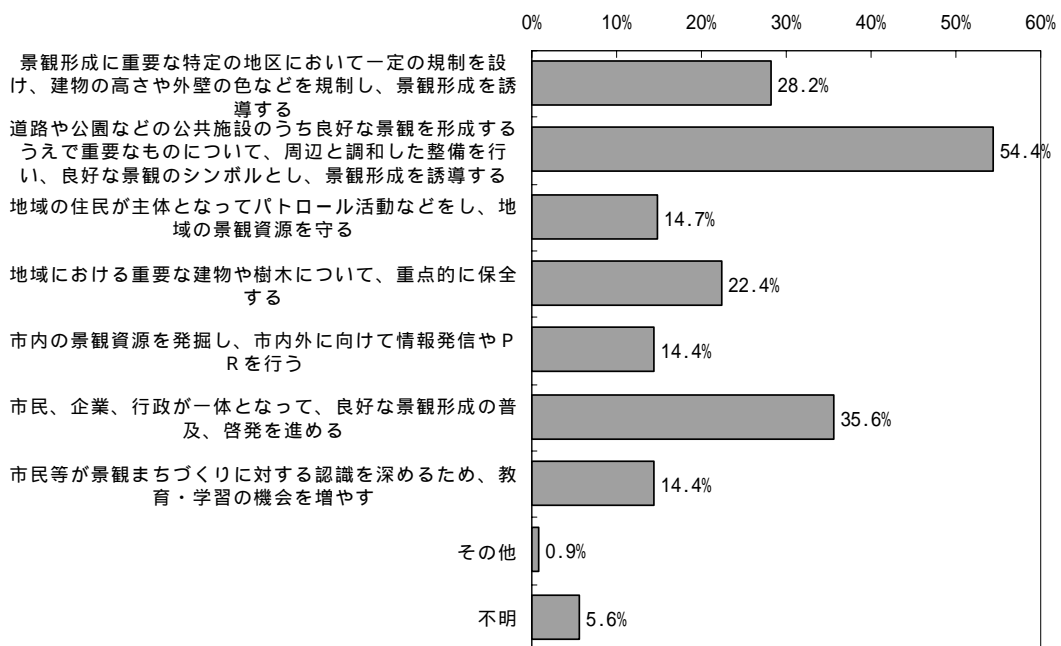


図 景観形成に関して、優先度が高い取組【西部地域】

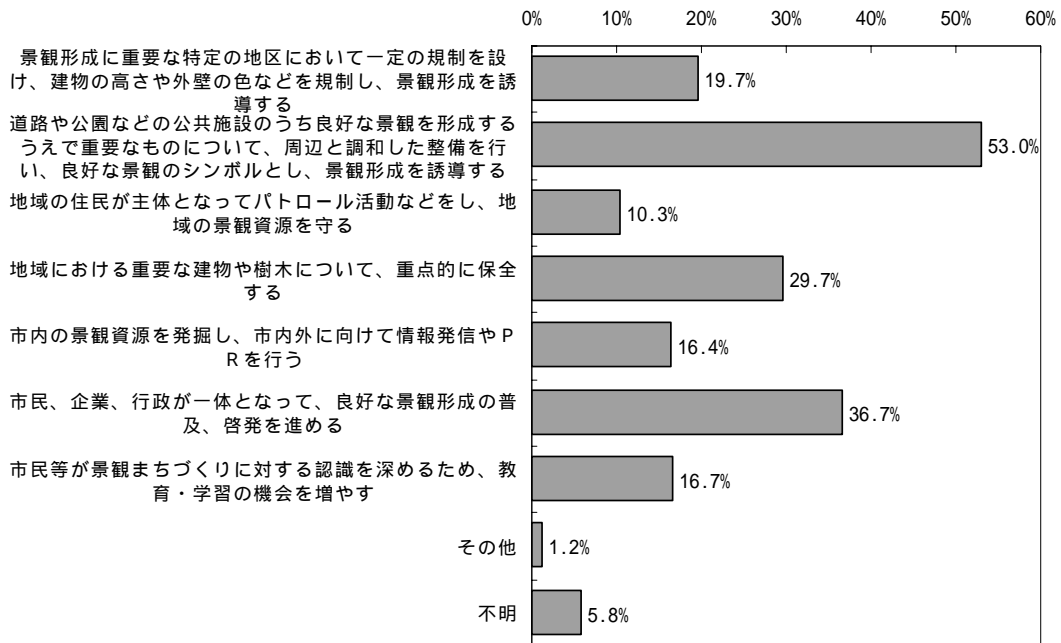


図 景観形成に関して、優先度が高い取組【南部地域】

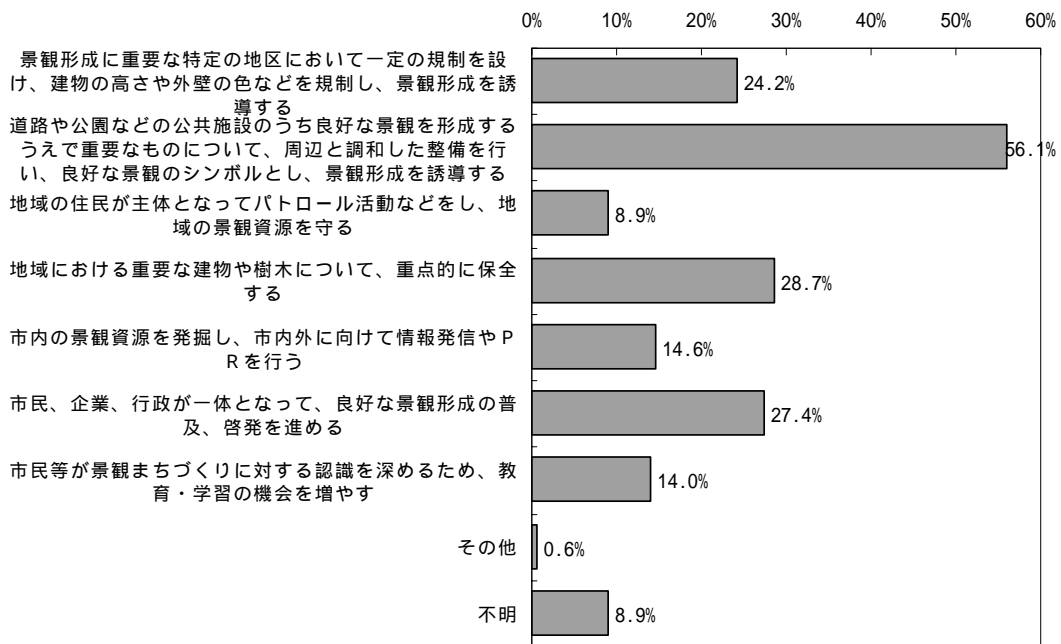


図 景観形成に関して、優先度が高い取組【北部地域】

表 景観形成に関して、優先度が高い取組（属性別）

		合計	景観形成に重要な特定の地区において一定の規制を設け、建物の高さや外壁の色などを規制し、景観形成を誘導する	道路や公園などの公共施設のうち良好な景観を形成するうえで重要なものについて、周辺と調和した整備を行い、良好な景観のシンボルとし、景観形成を誘導する	地域の住民が主体となってパトロール活動などをし、地域の景観資源を守る	地域における重要な建物や樹木について、重点的に保全する	市内の景観資源を発掘し、市内外に向けて情報発信やPRを行う	市民、企業、行政が一体となって、良好な景観形成の普及、啓発を進める	市民等が景観まちづくりに対する認識を深めるため、教育・学習の機会を増やす	その他	不明
全体		980 100.0 %	226 23.1 %	519 53.0 %	112 11.4 %	268 27.3 %	150 15.3 %	327 33.4 %	150 15.3 %	10 1.0 %	74 7.6 %
性別	男性	398 100.0 %	92 23.1 %	213 53.5 %	40 10.1 %	117 29.4 %	63 15.8 %	138 34.7 %	56 14.1 %	5 1.3 %	26 6.5 %
	女性	545 100.0 %	126 23.1 %	297 54.5 %	67 12.3 %	143 26.2 %	80 14.7 %	177 32.5 %	87 16.0 %	5 0.9 %	41 7.5 %
	不明	37 100.0 %	8 21.6 %	9 24.3 %	5 13.5 %	8 21.6 %	7 18.9 %	12 32.4 %	7 18.9 %	0 0.0 %	7 18.9 %
年齢別	10代	22 100.0 %	4 18.2 %	9 40.9 %	5 22.7 %	7 31.8 %	4 18.2 %	9 40.9 %	1 4.5 %	2 9.1 %	0 0.0 %
	20代	57 100.0 %	10 17.5 %	39 68.4 %	5 8.8 %	17 29.8 %	7 12.3 %	24 42.1 %	7 12.3 %	0 0.0 %	2 3.5 %
	30代	98 100.0 %	30 30.6 %	62 63.3 %	13 13.3 %	34 34.7 %	12 12.2 %	24 24.5 %	12 12.2 %	3 3.1 %	1 1.0 %
	40代	128 100.0 %	33 25.8 %	70 54.7 %	7 5.5 %	41 32.0 %	25 19.5 %	44 34.4 %	21 16.4 %	1 0.8 %	4 3.1 %
	50代	148 100.0 %	44 29.7 %	78 52.7 %	14 9.5 %	42 28.4 %	27 18.2 %	43 29.1 %	22 14.9 %	2 1.4 %	8 5.4 %
	60代	270 100.0 %	52 19.3 %	136 50.4 %	39 14.4 %	56 20.7 %	49 18.1 %	99 36.7 %	44 16.3 %	2 0.7 %	25 9.3 %
	70代以上	244 100.0 %	50 20.5 %	122 50.0 %	29 11.9 %	66 27.0 %	24 9.8 %	79 32.4 %	42 17.2 %	0 0.0 %	31 12.7 %
	不明	13 100.0 %	3 23.1 %	3 23.1 %	0 0.0 %	5 38.5 %	2 15.4 %	5 38.5 %	1 7.7 %	0 0.0 %	3 23.1 %
地域別	東部地域	139 100.0 %	23 16.5 %	68 48.9 %	14 10.1 %	46 33.1 %	22 15.8 %	37 26.6 %	20 14.4 %	2 1.4 %	19 13.7 %
	西部地域	340 100.0 %	96 28.2 %	185 54.4 %	50 14.7 %	76 22.4 %	49 14.4 %	121 35.6 %	49 14.4 %	3 0.9 %	19 5.6 %
	南部地域	330 100.0 %	65 19.7 %	175 53.0 %	34 10.3 %	98 29.7 %	54 16.4 %	121 36.7 %	55 16.7 %	4 1.2 %	19 5.8 %
	北部地域	157 100.0 %	38 24.2 %	88 56.1 %	14 8.9 %	45 28.7 %	23 14.6 %	43 27.4 %	22 14.0 %	1 0.6 %	14 8.9 %
	不明	14 100.0 %	4 28.6 %	3 21.4 %	0 0.0 %	3 21.4 %	2 14.3 %	5 35.7 %	4 28.6 %	0 0.0 %	3 21.4 %

22) 緑のまちづくりに関して、優先度が高い取組

緑のまちづくりに関して、優先度が高い取組については、「公共施設の敷地、河川敷、道路に植樹帯を設けるなど公共的空間の積極的な緑化」が45.9%と最も多く、次いで「既存の公園施設のリニューアル」が39.1%、「学校などで緑の大切さを学習する機会の拡充」が23.5%、「自治会や市民活動団体などと行政の協力連携、緑花ボランティア等の育成」が23.1%となっています。

公共的空間の積極的な緑化が求められているとともに、新たな公園や緑地の整備よりも既存の公園施設のリニューアルの方が優先度が高いことがうかがえます。

地域別にみても、同じ傾向にあります。

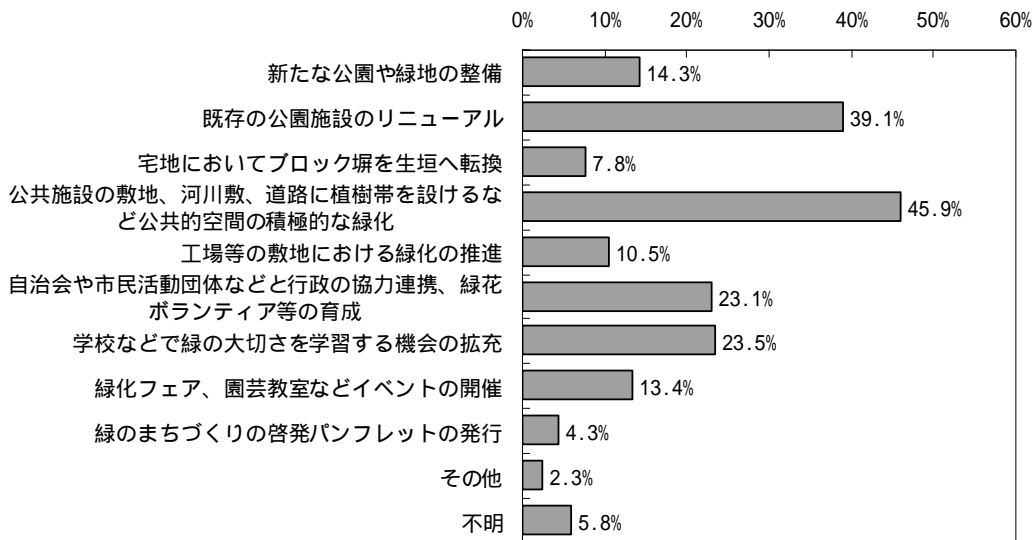


図 緑のまちづくりに関して、優先度が高い取組【全体】

その他の意見

- ・山の里山化
- ・土木工事に直結する安易な行為は反対
- ・各家庭での一鉢運動を進める
- ・個人でも緑化すれば助成金を支給
- ・既存の公園施設の手入れ
- ・学校の運動場の芝草化 など

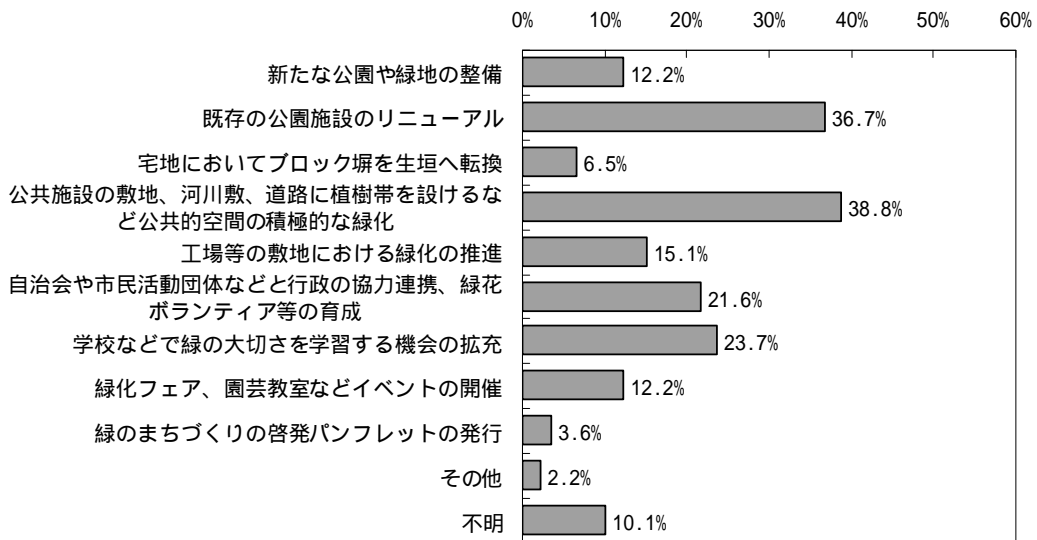


図 緑のまちづくりに関して、優先度が高い取組【東部地域】

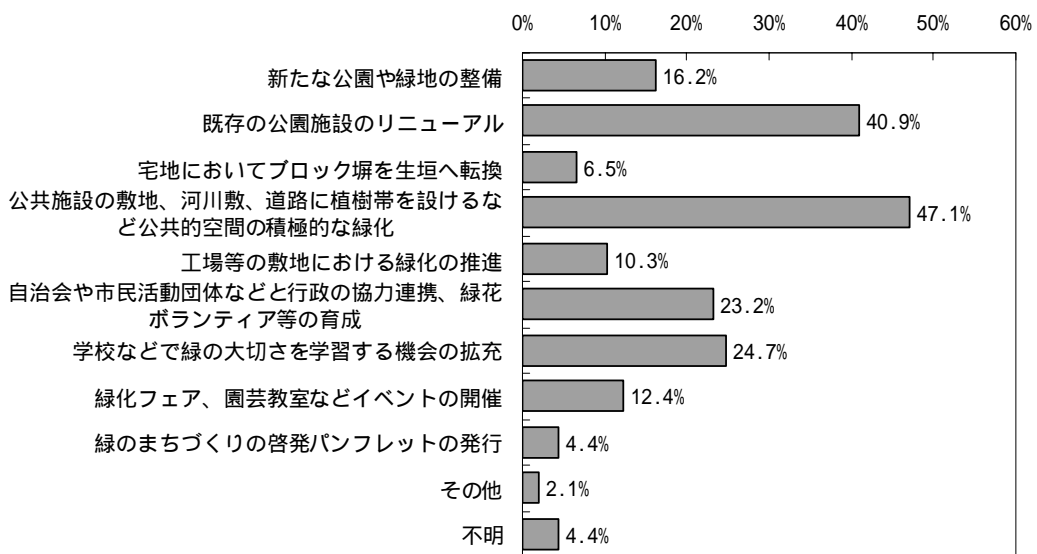


図 緑のまちづくりに関して、優先度が高い取組【西部地域】

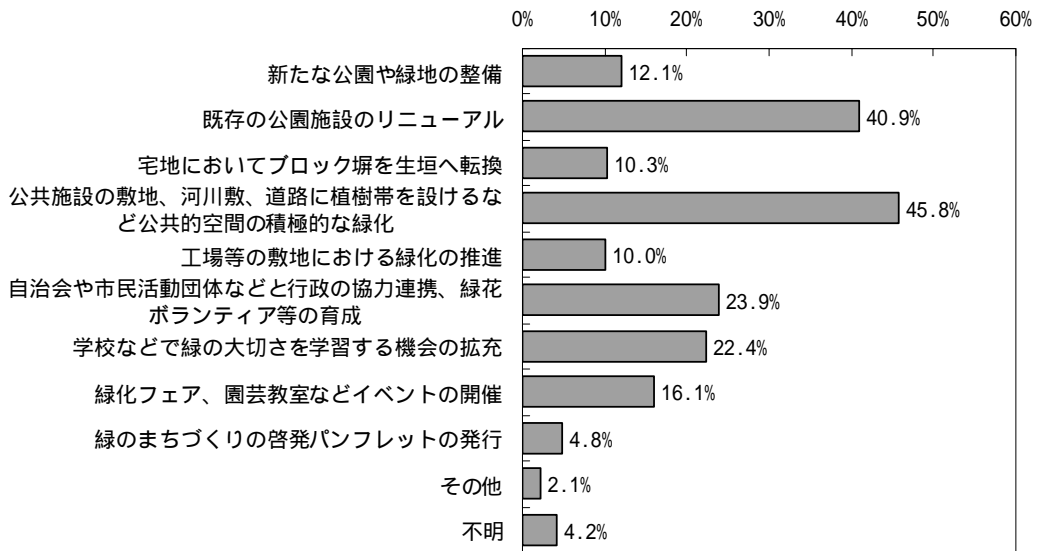


図 緑のまちづくりに関して、優先度が高い取組【南部地域】

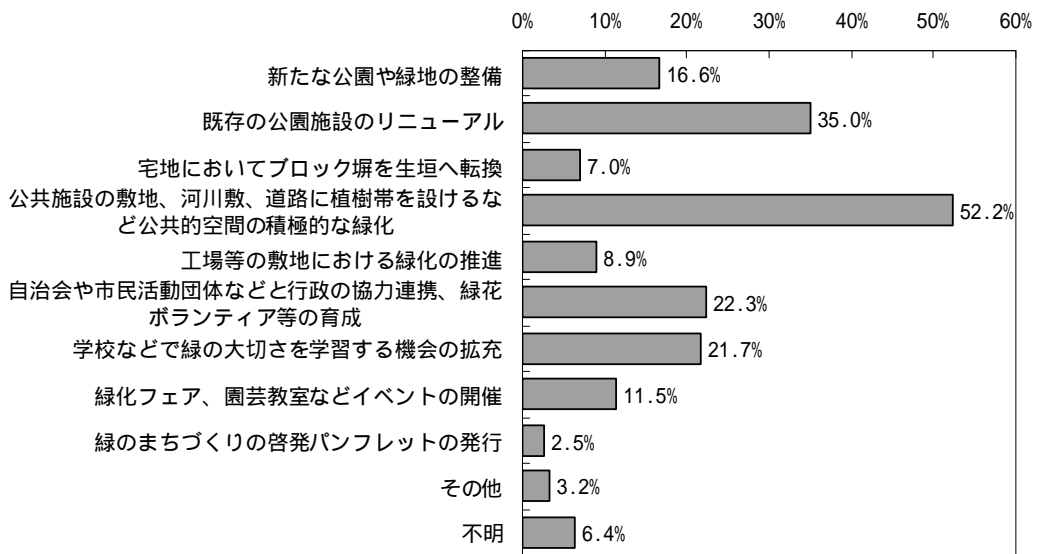


図 緑のまちづくりに関して、優先度が高い取組【北部地域】

表 緑のまちづくりに関して、優先度が高い取組（属性別）

		合計	新たな公園や緑地の整備	既存の公園施設のリニューアル	宅地においてブロック塀を生垣へ転換	公共施設の敷地、河川敷、道路に植樹帯を設けるなど公共的空間の積極的な緑化	工場等の敷地における緑化の推進	自治会や市民活動団体などと行政の協力連携、緑花ボランティア等の育成	学校などで緑の大切さを学ぶ機会を拡充	緑化フェア、園芸教室などイベントの開催	緑のまちづくりの啓発パンフレットの発行	その他	不明
全体		980 100.0 %	140 14.3 %	383 39.1 %	76 7.8 %	450 45.9 %	103 10.5 %	226 23.1 %	230 23.5 %	131 13.4 %	42 4.3 %	23 2.3 %	57 5.8 %
性別	男性	398 100.0 %	62 15.6 %	157 39.4 %	27 6.8 %	188 47.2 %	39 9.8 %	94 23.6 %	97 24.4 %	41 10.3 %	19 4.8 %	13 3.3 %	19 4.8 %
	女性	545 100.0 %	75 13.8 %	217 39.8 %	44 8.1 %	250 45.9 %	62 11.4 %	125 22.9 %	126 23.1 %	84 15.4 %	19 3.5 %	9 1.7 %	30 5.5 %
	不明	37 100.0 %	3 8.1 %	9 24.3 %	5 13.5 %	12 32.4 %	2 5.4 %	7 18.9 %	7 18.9 %	6 16.2 %	4 10.8 %	1 2.7 %	8 21.6 %
年齢別	10代	22 100.0 %	8 36.4 %	8 36.4 %	1 4.5 %	8 36.4 %	6 27.3 %	3 13.6 %	5 22.7 %	3 13.6 %	0 0.0 %	1 4.5 %	0 0.0 %
	20代	57 100.0 %	20 35.1 %	25 43.9 %	3 5.3 %	21 36.8 %	6 10.5 %	13 22.8 %	13 22.8 %	8 14.0 %	1 1.8 %	1 1.8 %	0 0.0 %
	30代	98 100.0 %	26 26.5 %	55 56.1 %	1 1.0 %	44 44.9 %	13 13.3 %	15 15.3 %	17 17.3 %	15 15.3 %	1 1.0 %	4 4.1 %	1 1.0 %
	40代	128 100.0 %	13 10.2 %	62 48.4 %	7 5.5 %	63 49.2 %	19 14.8 %	20 15.6 %	35 27.3 %	17 13.3 %	5 3.9 %	6 4.7 %	3 2.3 %
	50代	148 100.0 %	22 14.9 %	54 36.5 %	11 7.4 %	83 56.1 %	21 14.2 %	28 18.9 %	34 23.0 %	23 15.5 %	4 2.7 %	2 1.4 %	5 3.4 %
	60代	270 100.0 %	21 7.8 %	105 38.9 %	24 8.9 %	123 45.6 %	21 7.8 %	76 28.1 %	62 23.0 %	36 13.3 %	13 4.8 %	7 2.6 %	19 7.0 %
	70代以上	244 100.0 %	29 11.9 %	72 29.5 %	28 11.5 %	105 43.0 %	15 6.1 %	69 28.3 %	62 25.4 %	26 10.7 %	16 6.6 %	2 0.8 %	25 10.2 %
	不明	13 100.0 %	1 7.7 %	2 15.4 %	1 7.7 %	3 23.1 %	2 15.4 %	2 15.4 %	2 15.4 %	3 23.1 %	2 15.4 %	0 0.0 %	4 30.8 %
地域別	東部地域	139 100.0 %	17 12.2 %	51 36.7 %	9 6.5 %	54 38.8 %	21 15.1 %	30 21.6 %	33 23.7 %	17 12.2 %	5 3.6 %	3 2.2 %	14 10.1 %
	西部地域	340 100.0 %	55 16.2 %	139 40.9 %	22 6.5 %	160 47.1 %	35 10.3 %	79 23.2 %	84 24.7 %	42 12.4 %	15 4.4 %	7 2.1 %	15 4.4 %
	南部地域	330 100.0 %	40 12.1 %	135 40.9 %	34 10.3 %	151 45.8 %	33 10.0 %	79 23.9 %	74 22.4 %	53 16.1 %	16 4.8 %	7 2.1 %	14 4.2 %
	北部地域	157 100.0 %	26 16.6 %	55 35.0 %	11 7.0 %	82 52.2 %	14 8.9 %	35 22.3 %	34 21.7 %	18 11.5 %	4 2.5 %	5 3.2 %	10 6.4 %
	不明	14 100.0 %	2 14.3 %	3 21.4 %	0 0.0 %	3 21.4 %	0 0.0 %	3 21.4 %	5 35.7 %	1 7.1 %	2 14.3 %	1 7.1 %	4 28.6 %

6 今後の「緑」のまちづくりについて

23) 光市の大切な「緑」について

光市の大切な「緑」については、「室積や虹ヶ浜など海岸の「緑」」が53.0%と最も多く、次いで「郊外に広がる山や農地など自然の「緑」」が35.6%、「河川沿いなどの水辺を活かした、植物や野生小動物のすみかとなる「緑」」が31.2%となっています。

多くの市民が山や農地、海岸、河川など、本市の豊かな自然の「緑」を大切にしたいと考えています。

地域別にみると、西部地域と南部地域では、「室積や虹ヶ浜など海岸の「緑」」が特化して多く、地域を象徴する「緑」を多くの人が大切にしたいと考えていることが分かります。東部地域では、「郊外に広がる山や農地など自然の「緑」」が最も多くなっており、石城山や周辺に広がる田園などふるさとの「緑」に愛着を感じている人が多いことが分かります。

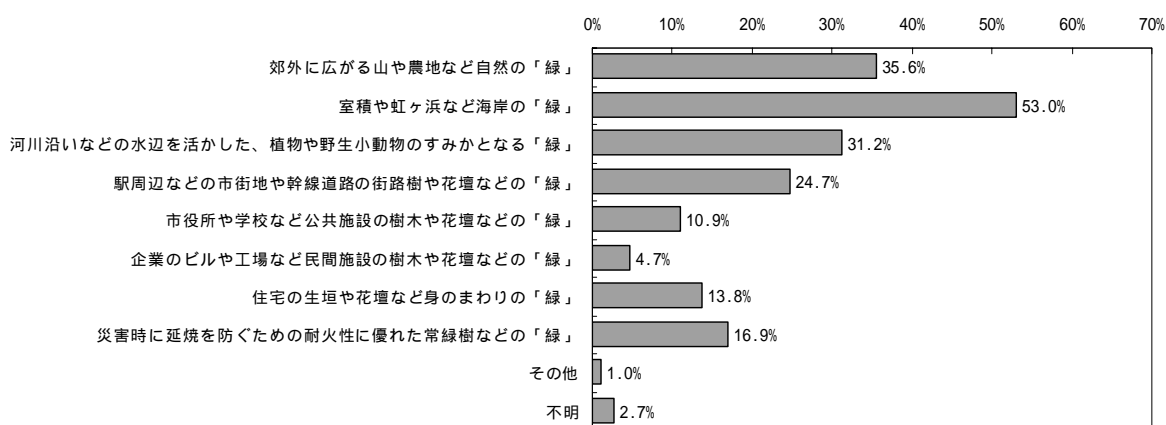


図 光市の大切な「緑」について【全体】

その他の意見

- ・ウォーキングスペースの確保と三井地区の「緑」
- ・運動施設が充実し、市民が散策できる緑に囲まれた公園
- ・住宅地と奥山の間緑地の整備 など

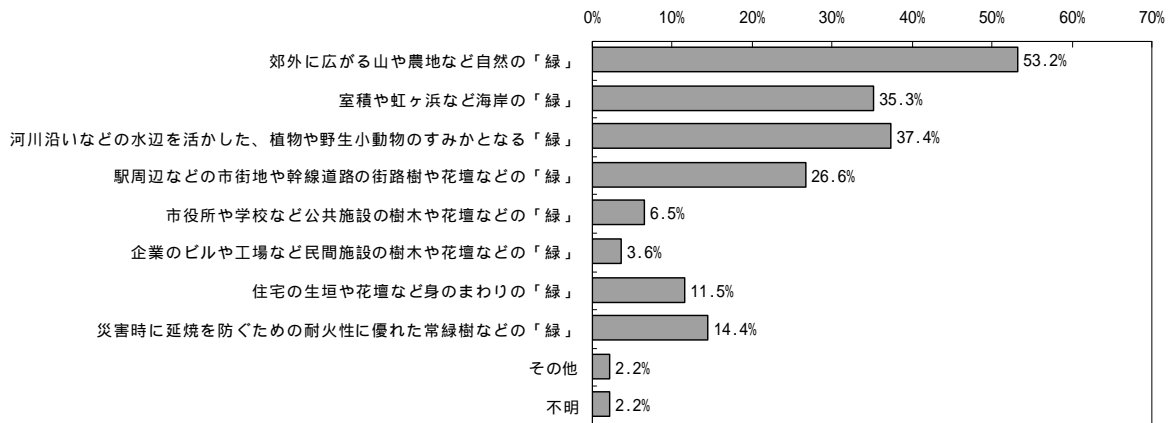


図 光市の大切な「緑」について【東部地域】

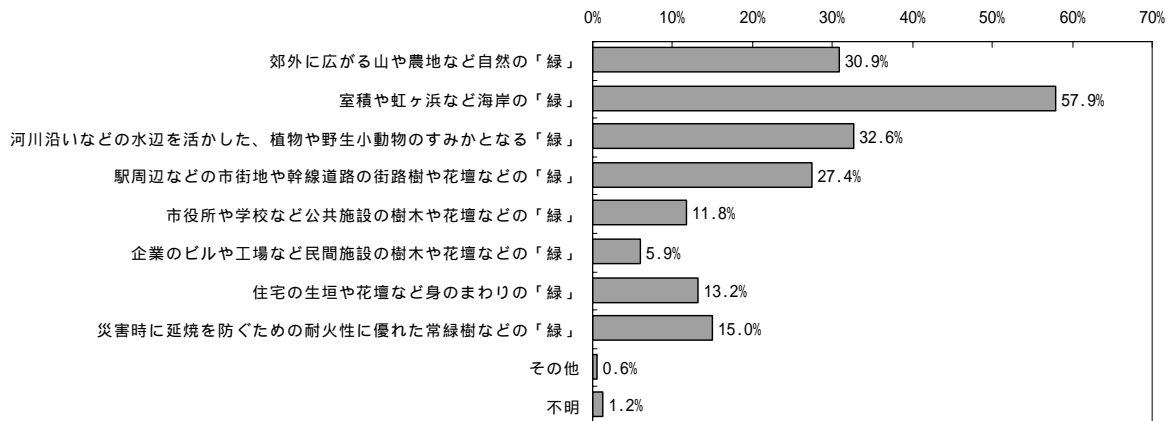


図 光市の大切な「緑」について【西部地域】

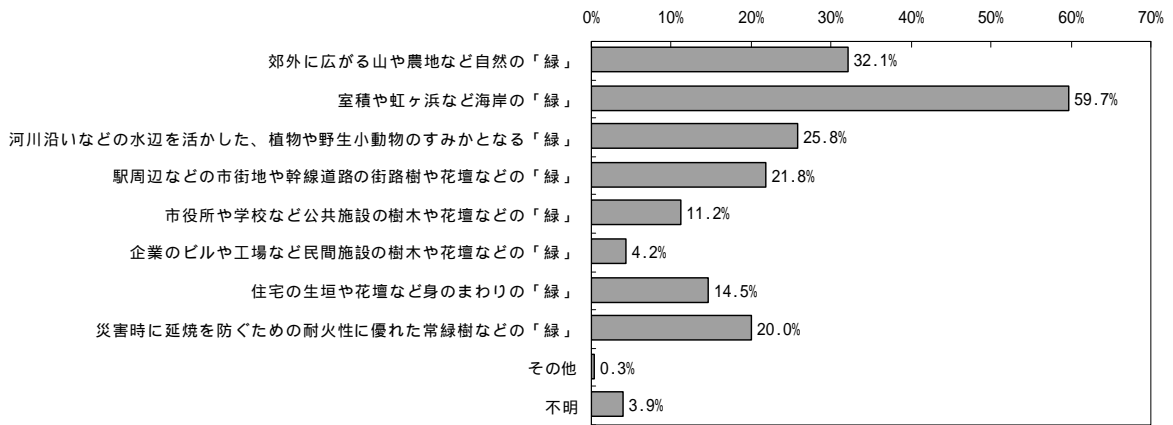


図 光市の大切な「緑」について【南部地域】

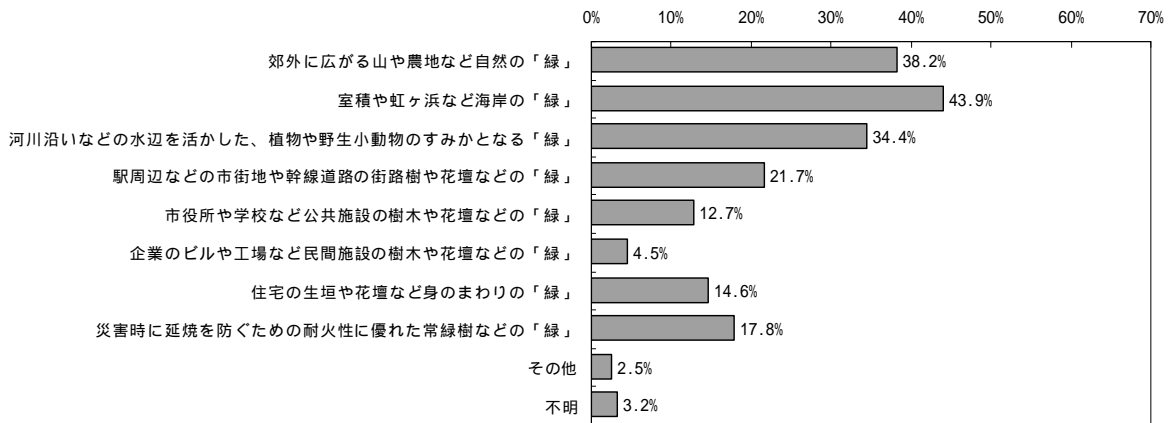


図 光市の大切な「緑」について【北部地域】

表 光市の大切な「緑」について（属性別）

		合計	郊外に広がる山や農地など自然の「緑」	室積や虹ヶ浜など海岸の「緑」	河川沿いなどの水辺を活かした、植物や野生小動物のすみかとなる「緑」	駅周辺などの市街地や幹線道路の街路樹や花壇などの「緑」	市役所や学校など公共施設の樹木や花壇などの「緑」	企業のビルや工場など民間施設の樹木や花壇などの「緑」	住宅の生垣や花壇など身のまわりの「緑」	災害時に延焼を防ぐための耐火性に優れた常緑樹などの「緑」	その他	不明
全体		980	349	519	306	242	107	46	135	166	10	26
		100.0 %	35.6 %	53.0 %	31.2 %	24.7 %	10.9 %	4.7 %	13.8 %	16.9 %	1.0 %	2.7 %
性別	男性	398	154	207	129	95	44	16	55	56	7	9
		100.0 %	38.7 %	52.0 %	32.4 %	23.9 %	11.1 %	4.0 %	13.8 %	14.1 %	1.8 %	2.3 %
	女性	545	187	295	166	137	61	26	75	103	2	14
		100.0 %	34.3 %	54.1 %	30.5 %	25.1 %	11.2 %	4.8 %	13.8 %	18.9 %	0.4 %	2.6 %
	不明	37	8	17	11	10	2	4	5	7	1	3
		100.0 %	21.6 %	45.9 %	29.7 %	27.0 %	5.4 %	10.8 %	13.5 %	18.9 %	2.7 %	8.1 %
年齢別	10代	22	8	15	5	5	7	0	2	1	0	0
		100.0 %	36.4 %	68.2 %	22.7 %	22.7 %	31.8 %	0.0 %	9.1 %	4.5 %	0.0 %	0.0 %
	20代	57	16	32	18	17	9	2	6	11	1	0
		100.0 %	28.1 %	56.1 %	31.6 %	29.8 %	15.8 %	3.5 %	10.5 %	19.3 %	1.8 %	0.0 %
	30代	98	40	53	35	23	13	9	7	13	0	1
		100.0 %	40.8 %	54.1 %	35.7 %	23.5 %	13.3 %	9.2 %	7.1 %	13.3 %	0.0 %	1.0 %
	40代	128	43	78	40	34	20	3	15	16	0	2
		100.0 %	33.6 %	60.9 %	31.3 %	26.6 %	15.6 %	2.3 %	11.7 %	12.5 %	0.0 %	1.6 %
	50代	148	63	80	54	34	11	5	18	24	2	1
	100.0 %	42.6 %	54.1 %	36.5 %	23.0 %	7.4 %	3.4 %	12.2 %	16.2 %	1.4 %	0.7 %	
60代	270	95	136	84	80	18	15	39	45	5	6	
	100.0 %	35.2 %	50.4 %	31.1 %	29.6 %	6.7 %	5.6 %	14.4 %	16.7 %	1.9 %	2.2 %	
70代以上	244	81	119	67	43	28	11	45	55	2	15	
	100.0 %	33.2 %	48.8 %	27.5 %	17.6 %	11.5 %	4.5 %	18.4 %	22.5 %	0.8 %	6.1 %	
	不明	13	3	6	3	6	1	1	3	1	0	1
		100.0 %	23.1 %	46.2 %	23.1 %	46.2 %	7.7 %	7.7 %	23.1 %	7.7 %	0.0 %	7.7 %
地域別	東部地域	139	74	49	52	37	9	5	16	20	3	3
		100.0 %	53.2 %	35.3 %	37.4 %	26.6 %	6.5 %	3.6 %	11.5 %	14.4 %	2.2 %	2.2 %
	西部地域	340	105	197	111	93	40	20	45	51	2	4
		100.0 %	30.9 %	57.9 %	32.6 %	27.4 %	11.8 %	5.9 %	13.2 %	15.0 %	0.6 %	1.2 %
	南部地域	330	106	197	85	72	37	14	48	66	1	13
	100.0 %	32.1 %	59.7 %	25.8 %	21.8 %	11.2 %	4.2 %	14.5 %	20.0 %	0.3 %	3.9 %	
北部地域	157	60	69	54	34	20	7	23	28	4	5	
	100.0 %	38.2 %	43.9 %	34.4 %	21.7 %	12.7 %	4.5 %	14.6 %	17.8 %	2.5 %	3.2 %	
	不明	14	4	7	4	6	1	0	3	1	0	1
		100.0 %	28.6 %	50.0 %	28.6 %	42.9 %	7.1 %	0.0 %	21.4 %	7.1 %	0.0 %	7.1 %

24) 今後、「緑」に関して、自身が取り組むことができること

今後、「緑」に関して、自身が取り組むことができることについては、「庭やベランダなどで花壇や家庭菜園をつくる」が68.9%と最も多く、次いで「身のまわりの自然の「緑」の保全に取り組む」が59.3%となっています。

庭やベランダの緑化や身のまわりの自然の保全など、身近な取組をすることができると回答した人が多く、緑のまちづくりにつながることを期待できます。

地域別にみても同じ傾向にあります。

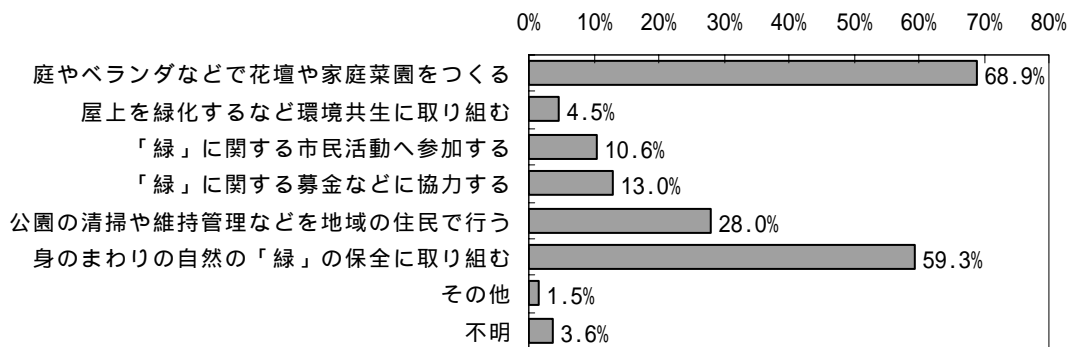


図 今後、「緑」に関して、自身が取り組むことができること【全体】

その他の意見

- ・市主催でガーデニングの講座を開いてほしい
- ・自分の土地に接する県道、市道の草刈り
- ・一人ひとりが自分でできることをする など

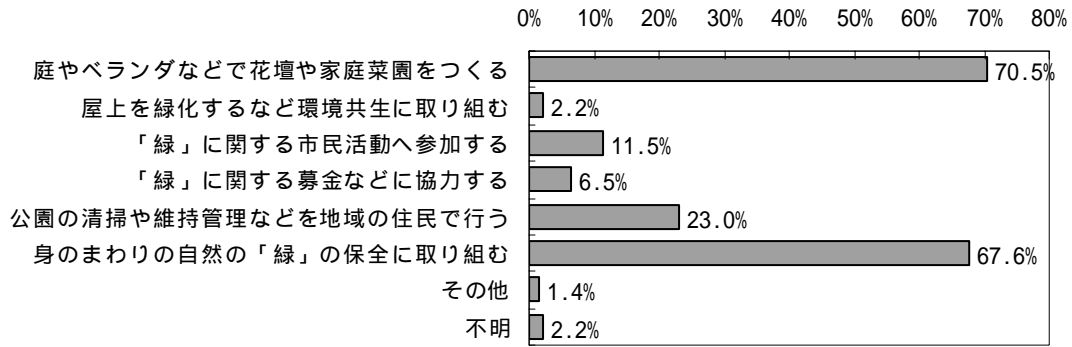


図 今後、「緑」に関して、自身に取り組むことができること【東部地域】

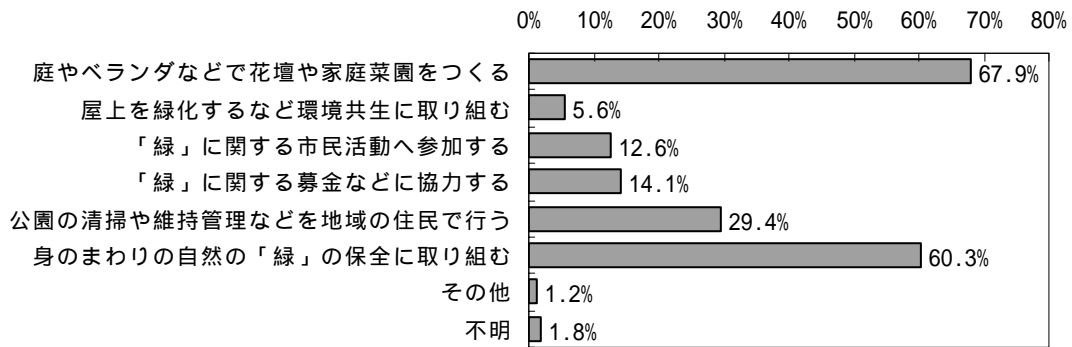


図 今後、「緑」に関して、自身に取り組むことができること【西部地域】

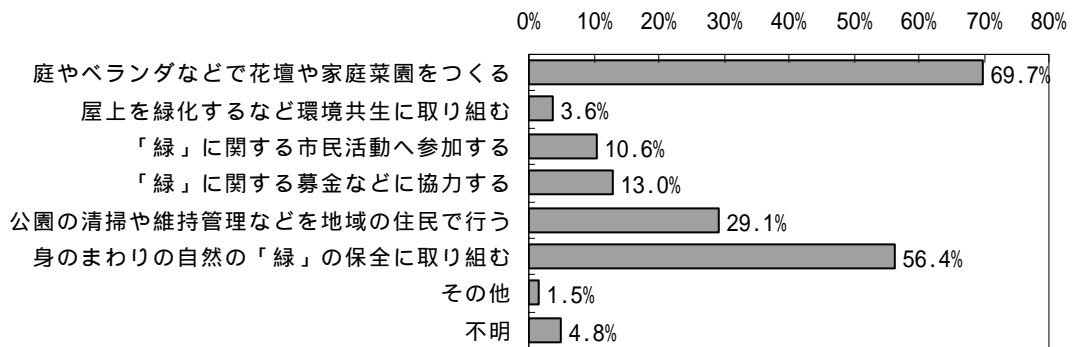


図 今後、「緑」に関して、自身に取り組むことができること【南部地域】

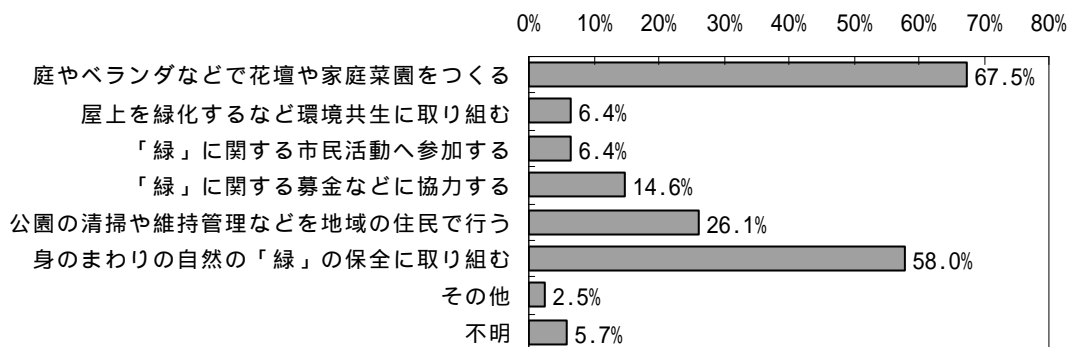


図 今後、「緑」に関して、自身に取り組むことができること【北部地域】

表 今後、「緑」に関して、自身が取り組むことができること（属性別）

	合計	庭やベランダなどで花壇や家庭菜園をつくる	屋上を緑化するなど環境共生に取り組む	「緑」に関する市民活動へ参加する	「緑」に関する募金などに協力する	公園の清掃や維持管理などを地域の住民で行う	身のまわりの自然の「緑」の保全に取り組む	その他	不明	
全体	980	675	44	104	127	274	581	15	35	
	100.0 %	68.9 %	4.5 %	10.6 %	13.0 %	28.0 %	59.3 %	1.5 %	3.6 %	
性別	男性	398	256	22	45	45	109	246	8	16
		100.0 %	64.3 %	5.5 %	11.3 %	11.3 %	27.4 %	61.8 %	2.0 %	4.0 %
	女性	545	398	21	55	77	152	315	7	16
	100.0 %	73.0 %	3.9 %	10.1 %	14.1 %	27.9 %	57.8 %	1.3 %	2.9 %	
	不明	37	21	1	4	5	13	20	0	3
	100.0 %	56.8 %	2.7 %	10.8 %	13.5 %	35.1 %	54.1 %	0.0 %	8.1 %	
年齢別	10代	22	10	3	2	5	7	10	2	2
		100.0 %	45.5 %	13.6 %	9.1 %	22.7 %	31.8 %	45.5 %	9.1 %	9.1 %
	20代	57	38	9	3	10	20	30	0	0
		100.0 %	66.7 %	15.8 %	5.3 %	17.5 %	35.1 %	52.6 %	0.0 %	0.0 %
	30代	98	71	12	7	12	31	54	2	1
		100.0 %	72.4 %	12.2 %	7.1 %	12.2 %	31.6 %	55.1 %	2.0 %	1.0 %
	40代	128	94	5	16	14	33	78	3	3
		100.0 %	73.4 %	3.9 %	12.5 %	10.9 %	25.8 %	60.9 %	2.3 %	2.3 %
50代	148	105	4	14	17	45	99	2	1	
	100.0 %	70.9 %	2.7 %	9.5 %	11.5 %	30.4 %	66.9 %	1.4 %	0.7 %	
60代	270	199	5	31	26	75	160	3	11	
	100.0 %	73.7 %	1.9 %	11.5 %	9.6 %	27.8 %	59.3 %	1.1 %	4.1 %	
70代以上	244	150	6	30	39	59	144	3	16	
	100.0 %	61.5 %	2.5 %	12.3 %	16.0 %	24.2 %	59.0 %	1.2 %	6.6 %	
	不明	13	8	0	1	4	6	0	1	
	100.0 %	61.5 %	0.0 %	7.7 %	30.8 %	30.8 %	46.2 %	0.0 %	7.7 %	
地域別	東部地域	139	98	3	16	9	32	94	2	3
		100.0 %	70.5 %	2.2 %	11.5 %	6.5 %	23.0 %	67.6 %	1.4 %	2.2 %
	西部地域	340	231	19	43	48	100	205	4	6
		100.0 %	67.9 %	5.6 %	12.6 %	14.1 %	29.4 %	60.3 %	1.2 %	1.8 %
	南部地域	330	230	12	35	43	96	186	5	16
	100.0 %	69.7 %	3.6 %	10.6 %	13.0 %	29.1 %	56.4 %	1.5 %	4.8 %	
北部地域	157	106	10	10	23	41	91	4	9	
	100.0 %	67.5 %	6.4 %	6.4 %	14.6 %	26.1 %	58.0 %	2.5 %	5.7 %	
	不明	14	10	0	0	4	5	0	1	
	100.0 %	71.4 %	0.0 %	0.0 %	28.6 %	35.7 %	35.7 %	0.0 %	7.1 %	

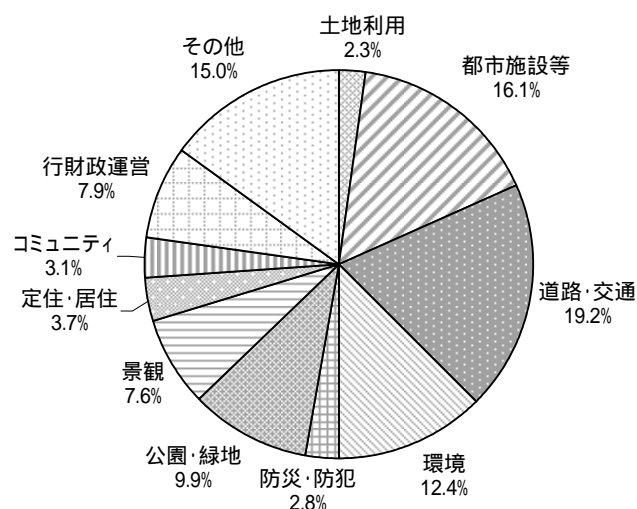
7 まちづくりや都市計画に関する提案について

25) まちづくりや都市計画に関する提案

まちづくりへの提言では、309人から延べ354件の意見・提言をいただきました。

意見・提言の内容は、「土地利用(8件)」、「都市施設等(57件)」、「道路・交通(68件)」、「環境(44件)」、「防災・防犯(10件)」、「公園・緑地(35件)」、「景観(27件)」、「定住・居住(13件)」、「コミュニティ(11件)」、「行財政運営(28件)」、「その他(53件)」となっています。

なお、意見・提言の具体的な概要については、次のとおりとなっています。



【土地利用に関する主な意見】

- ・市街化区域の見直し時に市民参加をしてほしい
- ・神社・仏閣を有効に利用し、他は特に用地制限はすべきではない
- ・宅地造成を規制し、農地の保全を図る
- ・市街化区域の中で農地は貴重な教育財産(子どもたちにとって)である
- ・市内の線引き廃止(市街化区域と規制区域外)
- ・イノシシ被害による農家の減少及び荒れ地の対策
- ・有休地、荒廃している土地や家を行政管理し、市民の為になるものにしてほしい など

【都市施設等に関する主な意見】

- ・光駅周辺の再開発、活性化
- ・光駅の山側の改札口の設置
- ・浅江国道沿いの無電柱化等の無意味な事業の廃止
- ・冠梅園から新開までの国道北側の土地の整備
- ・スポーツセンターの無料使用化・バスケットコートなどの増設
- ・海岸や河川の護岸工事を規制
- ・三井地区の河川沿いの整備
- ・赤線上の土砂くずれの対策
- ・光井地区の団地側溝の整備
- ・下水道の整備
- ・水路の整備
- ・図書館の整備
- ・公共建築物の耐震化、バリアフリー化の促進
- ・小周防地区の市の施設の建設

- ・学校の建替え
- ・大学の誘致
- ・市立幼稚園の給食化・3年保育化
- ・介護施設の充実
- ・病院の（救急）設備の充実
- ・大和病院の存続
- ・大型商業施設の誘致
- ・室積地区の商店の充実
- ・シャッター通りの改善
- ・三島温泉を利用した道の駅の建設 など

【道路・交通に関する主な意見】

- ・県道の歩道の拡張
- ・農道の整備
- ・光～徳山間の道路を追加建設
- ・瀬戸風線の早期着工
- ・遊歩道、自転車道の整備
- ・虹ヶ丘へのアクセスの充実
- ・束荷一の瀬線の歩道拡張
- ・ジャスコ周辺の幹線道路の拡張
- ・木ノ下橋から市民ホールの道路舗装のやりかえ
- ・狭い道での車の通行規制
- ・国道188号（山側）の歩道上にあるゴミ収集ボックス7ヶ所を植込側に移動
- ・虹ヶ丘から下松方面（国道188号）への接続道路を早期に着工
- ・国道188号以外の新しい幹線道路の建設（ジャスコ付近から砂本養鶏の下をトンネルで下松市に出るルート）
- ・虹ヶ丘2丁目～3丁目の境（小学校・中学校への通学路）の側溝フタの設置
- ・道路をすぐにコンクリートで固めず整備する方法を考える
- ・家の前の防犯灯の設置
- ・高齢者の交通事故多発に対する啓発活動はよいことである
- ・JR光駅からの交通アクセスの充実、通学時間帯にJRバスの増便
- ・店や病院までのアクセスの充実（ぐるりんバスの小型化及び路線変更）
- ・三井～光駅間のバスの運行
- ・光総合病院～大和総合病院間のバスの途中乗車、下車を可能にする
- ・ぐるりんバスの運行ルートをスポーツ公園まで延長
- ・介護保険を利用したショッピングバスの運行
- ・大和中学校の通学路の整備
- ・駅は線路上に置き、両方から利用を可能にする
- ・舗装された道路の管入れ替え等による規制（3年間）

- ・上島田、三井地区に橋の建設
- ・島田～三井を結ぶ橋の早期完成
- ・市役所、商業地へのバスの増便、アクセスの充実
- ・光駅からのツアー等の企画
- ・交差点における西日への信号機の改善
- ・附属小学校の生徒によるバスの独占状況の改善
- ・歩道と車道の間騒音・排気ガスを遮断するものを整備
- ・幅員の狭い道路のコンクリート溝蓋の定期的な点検
- ・踏切近辺の陸橋化 など

【環境に関する主な意見】

- ・光市の美しい自然の保存
- ・自然をアピールした観光の推進
- ・自然と調和のとれた未来的な都市
- ・海岸のゴミの撤去
- ・山口国体に向けた緑化推進
- ・駅前通りの緑化推進
- ・緑を破壊しない道路整備
- ・虹ヶ浜の道路に出ている枯れた松の除去
- ・山の竹林の除去
- ・荒れた耕地の対策及び歩道等の草ぬき
- ・住宅内の草の除去
- ・草や枯葉等の焼却規制
- ・光警察署以西の国道 188 号のイチヨウ並木やツツジ等の保存
- ・犬の散歩（マナー）の徹底、犬のフンなどの持ち帰り
- ・生ごみの減量のため生ごみ袋の有料化
- ・川や水路へのゴミ捨てを規制
- ・ゴミの分別の簡素化
- ・市有地の山林の草刈等による整備
- ・環境整備に市民一人ひとりが提案、実行できるまちづくり
- ・市民参加のクリーンアップの定期的な実施
- ・光市の住人による家のまわりの掃除 など

【防災・防犯に関する主な意見】

- ・高齢者や障害者、弱者の住みやすいまち及び災害に強いまちづくり
- ・防災・防犯で安心安全な都市計画
- ・束荷地区の避難施設の建設
- ・避難訓練等防災予防の実施
- ・防災に備えた備蓄倉庫の整備
- ・治安維持のための島田川の河川敷にある大きな樹木の除去

【公園・緑地に関する主な意見】

- ・伊藤公記念公園の遊び場の整備
- ・虹ヶ浜にある公園の整備
- ・今ある資源・施設・公園などの有効利用
- ・運動施設と市民が自由に散策できる緑にあふれた公園の建設
- ・学校の運動場やスポーツ公園の芝生化
- ・公園と道路の一体化
- ・球場の建設
- ・冠山総合公園全体の再検討（少額の入園料や駐車料の徴収等）
- ・各家庭での緑化推進
- ・市の空地を利用した緑化
- ・大型子ども公園の建設
- ・バリアフリーや緑化（緑のカーテンなど）を取り入れた施設の建設
- ・既存の公園の手入れ
- ・市役所の玄関前の木々や花等の手入れ
- ・時期に適した緑の苗の配布
- ・自然や緑を活かしたウォーキングコースの建設 など

【景観に関する主な意見】

- ・虹ヶ浜海岸～室積海岸の景観を活かしたまちづくり
- ・海岸沿いの住宅や建物の高さ色彩など規制を強化
- ・美しい海・山・川と恵まれた自然景観の保存
- ・優れた景観を活かした観光地化
- ・歩道の落葉の除去
- ・道路周辺の草刈り、道路・縁石の草の除去
- ・電柱・電線の地中化
- ・道路のたばこの吸殻やごみの除去 など

【定住・居住に関する主な意見】

- ・光市は比較的に見て住みよいまちだと感じる。
- ・老人、子ども達が安全に過ごせる、ゆとりある温かいまち
- ・海・川・山・人間の住環境との調和
- ・日々の生活必需品が身近で調達できる環境を望む
- ・公営住宅地の駐車場の整備
- ・高齢者及び身体の弱い人、一人住まいの人の集合住宅の建設 など

【コミュニティに関する主な意見】

- ・ボランティアを主としたまちづくり
- ・浅江コミュニティのまちづくり推進部等各地区のまち作り推進団地との協力体制構築

- ・光市観光協会との協調等色々な団体との連携・協力
- ・市民一人一人が身の回りでまずできることを提案できる場を設ける。
- ・1人住まいの老人の緊急連絡システム等、安心な社会の構築
- ・小学校の空教室を各地区の公民館及び役所の出張所として活用し、児童の安全を見守る。
- ・週に一度、お年寄りと子どもとのふれ合い活動の実施
- ・自治体から書面でのアンケートの実施 など

【行財政運営に関する主な意見】

- ・行政の計画「都市計画マスタープラン」の早急な実施
- ・市、中心地、郊外とバランスの取れた計画
- ・むだな出費をなくした計画
- ・幅広く意見の集約を行いつつ、長い先を見据えた計画の実施
- ・自治会、住民と共に計画を策定する。
- ・子どもの医療費の無料化
- ・アンケートの対象者の年齢などある程度絞ったほうがよい
- ・アンケートの有効活用、アンケートの簡素化
- ・税金を大切に使ってほしい
- ・工事を行う際に、地域の公民館で直接説明し、予算審議にかけてほしい。
- ・募金で物事を進めることはやめてほしい。
- ・公務員給与の大幅削減、行政サービスの縮小、企業誘致など財政健全化
- ・市民の意識改革
- ・生活保護の規制及び働く楽しさの享受 など

【その他の意見】

- ・大和地域に関しては、まちづくりを後回しにされている感が否めないなので、全体的にバランスよく、都市計画を行ってほしい。
- ・虹ヶ浜の海を全国にインターネットなどで紹介
- ・先人が守ってきたものを受け継いでいく
- ・大和の活性化
- ・束荷を積極的にPR & 有効利用して人口をふやす取組
- ・地元企業の採用の増加
- ・清山の所の墓地を使いやすく安全な墓地にしてほしい。
- ・重点対策について市民の普及、啓発の実施
- ・光青年の家の再検討（体育館、宿泊施設、食堂、浴場と多種多様利用可能）
- ・若い人の力を活用する。
- ・室積漁港で海産物の市を月に1回位開いてほしい。
- ・虹ヶ浜の海水浴場に足洗い場の設置
- ・海を利用し、企業等一体となったイベント等の企画
- ・図書館での体験教室等の文化的なイベント開催 など

(参考) アンケート調査票

<「都市計画マスタープラン」及び「緑の基本計画」の策定に向けた市民アンケート調査>

あなたの声をお聞かせください

アンケート調査のお願い

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在、光市では、将来のまちづくりの基本的な方針を定める「都市計画マスタープラン」と緑豊かな快適で個性的な都市づくりを進めるための「緑の基本計画」の策定に取り組んでいます。

このアンケート調査は、これらの計画づくりにあたり、市民の皆様のご意向を的確に反映し、よりよいまちづくりを導く基本計画となるよう、まちの課題を整理し、市民の皆様がどのようなまちづくりを望んでいるのかを把握するために行うものです。

調査にあたり、市内にお住まいの16歳以上の方の中から無作為に2,000人を抽出し、あなたを対象者といたしました。集計結果については公表させていただく予定ですが、個人に関わる情報が公表されることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

平成22年10月

光 市

ご記入にあたってのお願い

- ・ ご回答は設問ごとの説明に従い、○印をつけたり番号を記入するなどしてください。
- ・ この調査に封筒の宛名の方が答えられない場合、ご家族の方がお答えください。
- ・ この調査票は、同封しました返信用封筒に入れ、10月31日(日)までに郵便ポストにご投函ください。
- ・ ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

<問合せ先>

政策企画部 企画広報課 企画係 松並
TEL (0833) 72-1400 (代表) FAX (0833) 72-1436



「都市計画マスタープラン」及び「緑の基本計画」とは

「都市計画マスタープラン」は、光市のまちづくりを総合的に考え、市民の皆様の見解を反映しながら、おおむね20年後の将来ビジョンを確立しようとするもので、土地利用の方針や地域別のあるべき市街地像を示すとともに、都市生活や経済活動を支える道路や下水道など都市施設の配置、整備の方針などを定めるものです。

「緑の基本計画」は、地域の自然的、社会的条件を十分に勘案するとともに、市民の皆様のご協力を得て、緑地の保全及び緑化の推進に関する施策や取組を展開し、良好な都市環境を形成することを目的として、市が都市における「緑」に関する総合的な計画として策定するものです。



***** ここからが、設問です。 *****

1 あなたやあなたの家族について

設問1 あなたの性別は？ <1つに○印>

- 1 男性 2 女性

設問2 あなたの年齢は？ <1つに○印>

- 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代
5 50代 6 60代 7 70代以上

設問3 あなたのお住まいの地区はどこですか？ <1つに○印>

- 1 牛島 2 室積（岩屋・伊保木・五軒屋） 3 室積（2を除く地区）
4 鳥田・中鳥田 5 上鳥田 6 浅江 7 光井
8 三井 9 立野・小河防 10 塩田 11 三輪
12 岩田・岩田立野 13 栗崎

設問4 あなたの同居家族はどのような構成ですか？ <1つに○印>

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1 1人暮らし | 2 夫婦のみ | 3 2世代家族（子どもと） |
| 4 2世代家族（親と） | 5 3世代以上の同居家族 | |
| 6 その他（回答） | | ） |

設問5 あなたのお住まいは、どのような種類ですか？ <1つに○印>

- | | | |
|---------------|-------------|----------|
| 1 持家（一戸建て） | 2 持家（マンション） | 3 民間賃貸住宅 |
| 4 公営住宅（市営・県営） | 5 社宅・寮 | |
| 6 その他（回答） | | ） |

設問6 あなたが、日常的に買物に行く場所はどちらですか？ <3つまでに○印>

- | | | |
|----------------|-------|----------------|
| 1 近所のお店（同じ地区内） | 2 光市内 | 3 下松市 |
| 4 周南市 | 5 岩国市 | 6 柳井市・田布施町・平生町 |
| 7 その他山口県内の市町 | 8 広島県 | 9 福岡県 |
| 10 その他（回答） | | ） |

設問7 あなたは、お住まいの地区（設問3でお答えになった地区）に住み始めて何年になりますか？ <1つに○印>

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 1 5年未満 | 2 5年以上10年未満 | 3 10年以上15年未満 |
| 4 15年以上20年未満 | 5 20年以上 | |

設問8 あなたは、もし今後住み替えるとしたらどのような場所に住みたいですか？

<1つに○印>

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 交通に便利な駅の周辺 | 2 公共施設や病院、店舗などが集まる市街地 |
| 3 住宅や店舗などが並ぶ住宅地 | 4 郊外の住宅団地 |
| 5 自然の豊かな農村集落・山村集落 | 6 きれいな海に近い漁村集落 |
| 7 現在の居住地 | |
| 8 その他（回答） | ） |



2 これまでのまちづくりの評価と今後への期待

設問9 あなたのお住まいの地区（設問3でお答えになった地区）における次の項目の「満足度」と「重要度」について、あなたの考えに最も近い番号を選んでください。
 <それぞれ1つに○印>

	満足度					重要度				
	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらでもない	あまり重要でない	重要でない
(回答例) ○○に関する対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
◆道路・交通について										
1 道路（歩道）の歩きやすさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2 道路の通行しやすさ（自動車・バイク・自転車）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3 広域（市外）へのアクセスのしやすさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4 通勤・通学の便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5 バスや鉄道の利用しやすさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6 買物の便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
◆居住環境について										
7 幅員の狭い道路の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8 新しい住宅地・団地の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9 上水道や給水施設の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10 下水道や浄化槽の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
11 子育て環境の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
12 高齢者・障害者の生活のしやすさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
◆防災について										
13 地震防災対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14 土砂災害・風水害対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15 避難場所・避難経路の分かりやすさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
16 まちの防犯対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
◆都市環境について										
17 騒音・振動・悪臭などの公害対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
18 大気汚染・水質汚濁の防止	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
19 ごみのリサイクル化などの取組	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
20 動植物などの多様な生物との共生	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
21 地球温暖化防止のための温室効果ガス排出の抑制	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

満足度					重要度				
満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらでもない	あまり重要でない	重要でない

◆公園・緑地について											
22	森林や海岸など自然環境の保全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
23	道路や公共施設の敷地の緑化	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
24	民間施設や工場の敷地の緑化	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
25	寺社の境内地など鎮守の森の保全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
26	海岸や河川の水辺空間の有効利用	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
27	スポーツ・レクリエーション施設・公園の整備・充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
28	身近にある子どもの遊び場の整備・充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
◆景観について											
29	まち並みや家並みの美しさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
30	海岸や眺望などの風景の美しさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
31	駅周辺や市街地の都市景観の美しさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
32	寺社や文化財など歴史的・文化的景観の保全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
33	中山間地に広がる田舎景観の保全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
34	看板やネオンサインなど屋外広告物の規制	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
◆市民参画等について											
35	まちづくりへの市民参画の機会	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
36	都市計画・まちづくりに関する情報提供	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

設問10 あなたは、前の設問（設問9）の各項目のうち、光市が今後、特に重点的に取り組むべきものは何だと思いますか？ <5つまで選んで番号（1から36までのいずれか）を記入>

番号記入欄					
-------	--	--	--	--	--



3 光市の将来について

設問11 あなたは、光市が将来どのような都市になることを望みますか？ <3つまでに○印>

- 1 駅周辺や中心部が賑わっている都市
- 2 幹線道路沿いに商業店舗が多く立地し、賑わっている都市
- 3 計画的な土地利用により、快適な居住環境が形成されている都市
- 4 閑静な住宅地が広がり、生活環境が整っている都市
- 5 市街地や住宅地に公園・緑地が配置された緑豊かな都市
- 6 自然環境が多く残っている都市
- 7 景観が美しい都市
- 8 道路や公共施設などが、誰もが使いやすいよう配慮されている都市
- 9 災害に強く安心して暮らせる都市
- 10 その他（欄外）

4 土地利用について

設問12 商業地の今後の土地利用のあり方として、どのような方向性が最も望ましいと思いますか？ <1つに○印>

- 1 駅周辺など中心部に商業施設を集約し、求心力を高める
- 2 日常生活品を購入しやすいように、地域の拠点ごとに商業施設の立地を誘導する
- 3 国道など幹線道路沿道の利用しやすい場所に商業施設の立地を誘導する
- 4 商業地を増やす必要はなく、現状のままでよい
- 5 その他（欄外）

設問13 工場と周辺地の今後の土地利用のあり方として、どのような方向性が最も望ましいと思いますか？ <1つに○印>

- 1 周辺環境へ影響がある工場は、立地条件のよい工業団地等へ移転・集約する
- 2 周辺環境へ影響がある工場であっても、環境対策や敷地内に緑化を行うことなどで周辺への影響を低減させることができれば、移転・集約をしなくてもよい
- 3 周辺環境へ影響がある工場であっても、小規模で周辺への影響が少ない場合は、移転・集約をしなくてもよい
- 4 周辺環境へ影響がある工場であっても、移転・集約をしなくてもよい
- 5 その他（欄外）

設問14 住宅地の今後の土地利用のあり方として、どのような方向性が最も望ましいと思いますか？ <1つに○印>

- 1 市街地において、住宅の中高層化を進める
- 2 市街地で活用されていない土地を住宅地として有効的に利用する
- 3 地域において計画的な土地利用を行い、現状の快適な生活環境を守る
- 4 市街地の拡大や農地の宅地化を進め、新たな住宅地を供給する
- 5 住宅地を増やす必要はなく、現状のままでよい
- 6 その他（具体的に）

設問15 農業地域の今後の土地利用のあり方として、どのような方向性が最も望ましいと思いますか？ <1つに○印>

- 1 農地や山林を積極的に保全する
- 2 生活環境を維持するため、住宅などの必要最低限の建設を容認する
- 3 幹線道路沿道においては、一定規模の商業施設や工場・倉庫などの建設を容認する
- 4 農地や山林を保全する必要はない
- 5 その他（具体的に）

設問16 あなたのお住まいの地区（設問3でお答えになった地区）の土地利用の制限について、良好な居住環境を形成するために特に重要なことは何だと思いますか？ <1つに○印>

- 1 良好な居住環境や周辺の自然環境を守るため、一定の地域ごとに建物の種類や高さを制限することが望ましい
- 2 建物の種類や高さの制限は、周辺の居住環境や日当りに問題を生じる場合など必要最低限のみとすることが望ましい
- 3 土地や建物は私有財産なので、所有者の意志によるものとし、制限しないことが望ましい
- 4 その他（具体的に）



5 分野別の取組について

設問17 道路の整備に関して、どの取組の優先度が高いと思いますか？ <2つに〇印>

- 1 住宅地の道路や通学路など身近な生活道路の整備
- 2 歩行者が安全に通行することのできる歩道の整備
- 3 近隣市町などへつながる幹線道路の整備
- 4 既存の道路における構りょうを補強するなど災害に強い安全な道路の整備
- 5 安心して自転車に乗れる自転車専用道路の整備
- 6 街路樹を植えたり電線類を地中化するなど道路景観の整備
- 7 その他（自由記述）

設問18 良好な居住環境の形成に関して、どの取組の優先度が高いと思いますか？

<2つに〇印>

- 1 上下水道や周辺の生活関連施設など生活基盤を充実する
- 2 狭い路地の解消や密集住宅地の改善を図るため、一定の範囲で宅地や道路を整備するなど、面的な整備を進める
- 3 狭い路地の解消や密集住宅地の改善を図るため、道路の拡幅やポケットパークなど部分的な改善を進める
- 4 広場や緑地などを配置し、ゆとりある住環境づくりを進める
- 5 誰もが移動しやすいように、公共空間のバリアフリー化に取り組む
- 6 その他（自由記述）

設問19 防災対策に関して、どの取組の優先度が高いと思いますか？ <2つに〇印>

- 1 避難場所になる学校施設などの耐震化の促進
- 2 公園や広場など災害時の避難場所の確保
- 3 密集した建物や老朽化した建物の不燃化や耐震化の促進
- 4 河川や海岸の堤防を整備するなど治水対策の実施
- 5 災害時の避難路を確保するため、幅員の狭い道路の拡幅
- 6 災害時に道路を塞ぎそうなブロック塀などをなるべく設置しないようにする
- 7 災害時の消火活動に役立つ防火水槽や消火栓の整備
- 8 災害・防災情報等を伝達する手段としての情報通信システムの整備
- 9 その他（自由記述）

設問20 環境に関して、どの取組の優先度が高いと思いますか？ <2つに〇印>

- 1 ごみの発生を抑え、リサイクルを推進するなど、資源が循環する社会を目指す
- 2 地球温暖化を防ぐため、自動車の利用を抑制し、バスや鉄道など公共交通機関や自転車の利用を進める
- 3 太陽光や風力など環境にやさしいエネルギーの利用を進める
- 4 自然の保水機能や浄化機能を守るため、河川や森林、農地を保全する
- 5 市民、企業、行政が一体となって環境保全活動に取り組むまちづくりを進める
- 6 その他（具体的に）

設問21 景観形成に関して、どの取組の優先度が高いと思いますか？ <2つに〇印>

- 1 景観形成に重要な特定の地区において一定の規制を設け、建物の高さや外壁の色などを規制し、景観形成を誘導する
- 2 道路や公園などの公共施設のうち良好な景観を形成するうえで重要なものについて、周辺と調和した整備を行い、良好な景観のシンボルとし、景観形成を誘導する
- 3 地域の住民が主体となってパトロール活動などをし、地域の景観資源を守る
- 4 地域における重要な建物や樹木について、重点的に保全する
- 5 市内の景観資源を発掘し、市内外に向けて情報発信やPRを行う
- 6 市民、企業、行政が一体となって、良好な景観形成の普及、啓発を進める
- 7 市民等が景観まちづくりに対する認識を深めるため、教育・学習の機会を増やす
- 8 その他（具体的に）

設問22 緑のまちづくりに関して、どの取組の優先度が高いと思いますか？ <2つに〇印>

- 1 新たな公園や緑地の整備
- 2 既存の公園施設のリニューアル
- 3 宅地においてブロック緑を生垣へ転換
- 4 公共施設の敷地、河川敷、道路に植樹帯を設けるなど公共的空間の積極的な緑化
- 5 工場等の敷地における緑化の推進
- 6 自治会や市民活動団体などと行政の協力連携、緑花ボランティア等の育成
- 7 学校などで緑の大切さを学習する機会の拡充
- 8 緑化フェア、園芸教室などイベントの開催
- 9 緑のまちづくりの啓発パンフレットの発行
- 10 その他（具体的に）



6 今後の「緑」のまちづくりについて

設問23 光市の「緑」について、どのような「緑」が大切だと思いますか？ <2つに○印>

ここでの「緑」とは、森や林などの自然だけでなく、公園や緑地帯、学校など公共施設にある緑地、住宅地の生垣や花壇なども含みます。また、海岸沿いの浜辺や樹林、河川などについても、自然のものとして「緑」に含めます（次の設問（設問24）も同様です）。

- 1 郊外に広がる山や農地など自然の「緑」
- 2 室積や虹ヶ浜など海岸の「緑」
- 3 河川沿いなどの水辺を活かした、植物や野生小動物のすみかとなる「緑」
- 4 駅周辺などの市街地や幹線道路の街路樹や花壇などの「緑」
- 5 市役所や学校など公共施設の樹木や花壇などの「緑」
- 6 企業のビルや工場など民間施設の樹木や花壇などの「緑」
- 7 住宅の生垣や花壇など身のまわりの「緑」
- 8 災害時に延焼を防ぐための耐火性に優れた常緑樹などの「緑」
- 9 その他（具体的に）

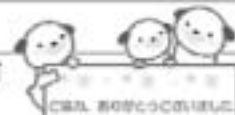
設問24 今後、「緑」に関して、あなた自身は、どのようなことに取り組みたいですか？また、取り組むことができますか？ <2つに○印>

- 1 庭やベランダなどで花壇や家庭菜園をつくる
- 2 屋上を緑化するなど環境共生に取り組む
- 3 「緑」に関する市民活動へ参加する
- 4 「緑」に関する募金などに協力する
- 5 公園の清掃や維持管理などを地域の住民で行う
- 6 身のまわりの自然の「緑」の保全に取り組む
- 7 その他（具体的に）

7 まちづくりや都市計画に関するご提案について

設問25 まちづくりや都市計画について、ご意見やご提案があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。この調査票は、同封しました返信用封筒に入れ、10月31日（日）までに郵便ポストに投函してください。



「都市計画マスタープラン」及び「緑の基本計画」の策定に向けた

市民アンケート調査結果報告書

発行年月 平成23年3月

発行 光市政策企画部企画広報課企画係

